年　月　日

内務大臣宛

何年度何々費繰越ノ件

道廳長官
府縣知事

款	項	目	仕拂命令委任額	仕拂命令發行濟額	差引翌年度ヘ繰越額	繰越事由
何費	何費	何費	一、〇〇〇・〇〇〇	八〇〇・〇〇〇	二〇〇・〇〇〇 何月 一〇〇・〇〇〇 何月 一〇〇・〇〇〇	何々ニ依ル

右ノ通リ翌年度ヘ繰越使用方御許可相成度此段稟請候也

（備考）

一　繰越額ニ對スル月割額ハ工事進捗ノ程度ニ應シ仕拂ヲナス見込額ヲ記載スルモノトス

（丁號樣式）

年　月　日

内務大臣官房會計課長宛

何年度何々仕拂濟之件

右仕拂命令委任額金何程ハ年度内其全額ノ仕拂命令發行濟ニ候此段及報告候也

道廳長官
府縣知事

災害工事費ノ負擔所屬ヲ變更セルモノノ國庫補助精算ニ關スル件

（大正九年三月二十三日發土第二〇號各地方長官宛、土木局長通牒）

一　災害土木費國庫補助規程ニ依リ國庫補助ヲ受ケ又ハ國庫補助ヲ受クヘキ災害工事ニシテ道路法ノ施行其ノ他ノ事由ニ依リ災害當時ノ負擔所屬ニ變更ヲ來シタル場合ニ於テハ其ノ工事ニ對スル國庫補助ノ精算ニ關シテハ第二項ノ如キ措置ヲ採ラサル限リ左記ノ通御取扱可相成義ト御承知有之度

（一）府縣ノ負擔ニ屬スル工事カ下級公共團體ノ負擔ニ歸シタルトキハ其ノ所屬變更ノトキノ出來形ニ依リ之ヲ打切リ區分シ既成部分ニ對シテハ其ノ部分ノ工費額ヲ又未成部分ニ對シテハ府縣ノ補助規程ニ依リ下級公共團體ニ對シ府縣ヨリ補助スヘキ金額ヲ以テ國庫補助ニ係ル災害土木費トシテ精算スルコト

（二）下級公共團體ノ負擔ニ屬スル工事カ府縣ノ負擔ニ歸シタルトキハ其ノ所屬變更ノトキノ出來形ニ依リ之ヲ打切リ區分シ國庫補助ニ關スル會計ノ整理ヲ爲スヘキハ勿論ナルモ其ノ工事ニ對スル國庫補助ニ付テハ既成工事費ト未成工事費トヲ併セ其ノ總費額ニ對シ府縣ノ補助規程ニ依リ府縣ヨリ補助スルモノト見做シ計算シタル府縣ノ補助額ヲ以テ其ノ總體ノ工事ニ對スル國庫補助ノ災害土木費トシテ精算スルコト

（三）前二號ニ依リ工事ヲ打切リタル結果既成工事又ハ未成工事ノ工費カ三百圓未滿トナリタル場合ニ於テモ其ノ工事ハ國庫補助ヲ受クヘキ資格ヲ失ハサルコト

（四）第一號及第二號ノ工事ハ他ノ府縣工事及市町村土木補助費ト區別シ精算書類ヲ調製シ其ノ精算書ニハ前記二號ニ依ル精算關係ヲ明瞭ナラシムルコト

二　道路法施行前〔郡〕市町村ノ負擔ニ屬スル道路又ハ其ノ附屬物ニ關スル災害工事ニシテ道路法ニ依リ府縣

ノ負擔ニ歸シタルモノハ同法第三十八條ノ規定ニ依リ引續キ從前ノ〔郡〕市町村ニ負擔ヲ命シ負擔所屬ヲ變更セサルモノトシテ取扱ヒ又道路法施行前府縣〔郡〕ノ負擔ニ屬スル道路又ハ其ノ附屬物ニ關スル災害工事ニシテ道路法ニ依リ其ノ下級公共團體ノ負擔ニ歸シタルモノハ同法第二十四條ノ規定ニ依リ從前ノ費用負擔者ニ於テ道路管理者ノ承認ヲ得テ引續キ工事ヲ施行シ負擔所屬ヲ變更セサルモノトシテ取扱ヒ候方諸般ノ關係上便益多キコトヽ存候處後段ノ關係ニ付テハ省令制定ノ必要有之候ニ付目下其ノ手續中ニ候條其ノ御含ヲ以テ相當御措置相成度

國庫ノ補助ヲ受クヘキ災害土木工事檢査申請方ノ件

（大正十三年五月十五日發甲第一三號各地方長官宛、土木局長通牒）

災害土木費國庫補助規程施行細則第九條ニ依リ檢査方申請ノ場合ハ爾今右申請前ニ左記調書ヲ添附シ設計單價及歩掛ニ付豫メ本省ニ協議セラレ然ル後其ノ單價及歩掛ニ基キ目論見設計書調製ノ上申請相成度

記

一 災害工事ニ使用セントスル職工人夫及諸材料ノ單價表及職工人夫ノ歩掛表

二 最近三ケ年ノ實施豫算ニ於ケル職工人夫及諸材料ノ單價表及職工人夫ノ歩掛表

三 最近災害土木費ニ對シ國庫補助ヲ受ケタルコトアラハ其ノ職工人夫及諸材料ノ單價表及職工人夫ノ歩掛表

國庫補助災害土木工事ノ監督及取扱方ノ件

（大正十三年九月二十七日發甲第二五號各地方長官宛、土木局長通牒）

標記ノ件ニ關シ今般左記ノ通被定候間御了知相成度

記

一 災害土木費國庫補助規程施行細則第十二條第二項ニ依ル設計變更又ハ施行箇所變更認可申請書ニハ何年度ノ國庫補助ヲ受ケタル災害土木工事ナルカヲ明記シ設計圖書ノ外別紙第一號表ヲ添附スヘシ

二 災害土木工事ヲ廢止セントスルトキハ其ノ理由ヲ詳具シ其ノ都度報告スヘシ

三 工事中增破又ハ手戻ノ爲要スル費用、地形又ハ水勢ノ變遷ニ基因シ査定工事ヲ變更スルニアラサレハ復舊ノ目的ヲ達スルコト能ハサル場合ニ要スル增加費用及査定設計ヲ變更セサルモ自然ノ結果ニ因リ査定工費ニ增加ヲ來シタル爲ニ要スル費用ハ災害土木工事費トシテ認ムルコトヲ得

四 市、町、村及組合ニ對スル府縣ノ補助費ニ付テハ當初國庫補助ノ際ニ於ケル査定補助費總額ノ範圍内ニ於テ適宜府縣ノ規程ニ依リ補助スル補助率ヲ認ムルコトヲ得

五 府縣工事費、市、町、村及組合ニ對スル府縣補助費及雜費ハ彼此流用ヲ許サヽルモノトス

六 一會計年度毎ニ取纒メ申請スヘキ災害土木工事一部成功認定申請書ニハ別紙第二號表及第三號表ヲ添附スヘシ而シテ右申請ハ當該會計年度終了後二箇月以内ニ提出スルヲ要ス

七 工事完了シタル場合ニ於ケル災害土木工事全部成功認定申請書ニハ別紙第四號表第五號表及第三號表（但シ一部成功認定未濟ノ分）ヲ添附スヘシ又廢工或ハ補助ヲ取消シタルモノアルトキハ別紙第六號表ヲ添附スヘシ而シテ右申請書ハ工事完了後三月以内ニ提出スルコトヲ要ス

八 災害土木工事ハ迅速ニ之ヲ完了スヘキハ勿論ノコトナルモ往々遷延ノ嫌アルヲ以テ爾今ハ三箇年ヲ超エシメサル方針ヲ以テ完了期ヲ限定スヘキニヨリ其ノ期限内ニ於テ急速完了セシムルコトヲ要ス

九 災害土木工事費國庫補助規程施行細則第十三條第三項ノ程度超過工事トハ大體左ノ如キモノヲ謂フ

(イ) 橋梁ノ長サヲ增シタルモノ
(ロ) 道路橋梁ノ高サヲ高メ或ハ幅員ヲ擴メタルモノ
(ハ) 堤防ニ小段ヲ新設シ或ハ馬踏ヲ擴メタルモノ
(ニ) 土堤ヲ石堤ニ又ハ積籠ヲ土堤又ハ石堤ニ變更シタルモノ
(ホ) 石積裏込若ハ目潰ニ混凝土ヲ加工セシモノ
(ヘ) 植芝工事ヲ立籠ニ或ハ蛇籠工ヲ張石ニ變更シタルモノ
(ト) 新ニ根固水制等ノ工事ヲ加ヘタルモノ
(チ) 力杭、杭柵等ヲ新設シタルモノ

十 廢工工費及補助取消額ハ剩餘金ト看做サス災害土木費ニ對スル當初國庫補助ノ率ニ依リ補助金ヲ國庫ニ還付セシム

十一 一旦竣功セル災害土木工事カ其ノ後ノ災害ニ依リ復舊ヲ要スル場合ニ於テハ特ニ認可ヲ受ケタルモノヲ除クノ外災害土木費及剩餘金ヲ以テ支辨スルコトヲ得ス

十二 本省ニ於テ工事ノ出來形拙劣ニシテ維持上搦キ難キモノト認メ之カ手直シ若ハ改築ヲ命シタルトキノ增加費用ハ災害土木費及剩餘金ヲ以テ支辨スルコトヲ得ス

十三 災害土木費ノ剩餘金ヲ以テ施行シ得ヘキ工事ハ當該災害土木工事ニ直接ノ關係ヲ有スル被害箇所ノ工事ニシテ全部成功認定申請前ニ於テ必要ヲ生セシ工事ナルコトヲ要シ左ノ標準ニ該當スルモノニ限ル

(イ) 災害土木工事ノ一部若ハ全部ノ復築工事(査定工法ヲ變更スルモ差支ナシ)及其ノ維持上必要ナル隣接工事

(ロ) 水流ノ變動其ノ他ノ原因ニヨリ現況ニ照ラシ査定災害土木工事ニ對シ維持上必要ナル追加工事

十四 災害土木費ノ剩餘金ニ對スル國庫補助金ヲ國庫ニ還付セシムル場合ハ災害土木費ニ對スル當初國庫補助ノ率ニ依ルモノトス

十五 國庫補助災害土木工事ト國庫ノ補助ヲ受ケタル他ノ工事ト併合シ實施シタル工事ノ竣功額カ其ノ當初査定工費ニ比シ增減ヲ來シタル場合ハ査定工費ノ內譯額ニ比例シ各竣功額ヲ區分スルモノトス

十六 災害土木費國庫補助規程施行細則第十三條第二項但シ書ニ依リ認可ヲ受ケ施行シタル工事ニ付テハ全部成功認定申請ノ際併セテ成功認定ノ申請ヲナスヘシ(昭和二年九月五日發甲第二六號本號追加)

(第一號表)

何年度國庫補助災害土木工事變更對照表

何府縣

河川、道路港灣、海岸名	工事番號	檢査工費	變更工費	檢査設計ノ概要	設計變更ノ概要	變更ノ理由	摘要

(備考)
一 工事番號ノ欄ニハ檢査設計書ニ附シアル番號ヲ記入スヘシ
二 變更ノ爲工費ニ增加ヲ來シタルトキハ其ノ增加工費ノ負擔所屬ヲ摘要欄ニ明記スヘシ

(第二號表)

何年度國庫補助災害土木工事成功額總計表 (自何年何月至何年何月)

何府縣

種別	檢査		竣功		工費差引		摘要
	箇所數	工費	箇所數	工費	增	減	
道路							
橋梁							
河川							
港灣							
何々							
計							
市町村組合工事計							
合計							

（備考）

一 程度超過工事アルトキハ府縣工事ニ就テハ檢査工費以外ニ要シタル增工費ヲ市、町、村及組合工事ニ付テハ檢査工費以外ニ要シタル增工費ニ對スル府縣ノ規程ニ依ル補助增加額ヲ竣功工費欄ニ外書トシテ記載スヘシ

二 市、町、村及組合工事ノ檢査工費ノ欄ニハ災害土木費國庫補助規程施行細則第五條第一項ニ依レル補助費ヲ割書シ竣功工費欄ニハ府縣ノ規程ニ依レル補助費ノ精算額ヲ割書スルモノトス

三 前災害土木工事ニシテ後ノ災害土木工事ノ所屬ニ移リタルモノアルトキハ本表中左ノ通記載スヘキモノトス

（イ） 前ノ災害土木工事ノ成功額總計表ノ檢査工費ノ欄ニハ未著手工費及未成工費ヲ外書（朱書）トシ摘要欄ニハ本災害土木工事ヨリ後ノ災害土木工事ノ所屬ニ移リタル旨ヲ明記スヘシ

（ロ） 後ノ災害土木工事ノ成功額總計表ノ檢査工費欄ニハ前災害土木工事ニ屬シタル未著手ノ工費及未成工費ハ之ヲ內書（朱書）トシ摘要欄ニ前災害土木工事ヨリ本災害土木工事ノ所屬ニ移リタル旨ヲ明記スヘシ

（第三號表）

何年度國庫補助災害土木工事成功箇所表

府縣工事　道路　（自何年何月 至何年何月）

線路名	工事番號	檢査工費	竣功工費	差引		檢査設計概要	變更設計概要	變更理由	摘要
				增	減				

何々

市町村組合工事

何々番號	工事檢査費	工事竣功費	差引 増減	檢査設計概要	變更設計概要	變更理由概要	摘要

市町村組合別	種別	工事番號	檢査工費	竣功工費	差引 増減	國庫補助規程ニヨル檢査費ニ對スル補助費	府縣ノ規程ニヨル檢査費ニ對スル補助費精算額	檢査設計概要	變更設計概要	變更理由	摘要
何市	道路										
	橋梁										
	河川										
計	何々										
何町計	何々										
何組合計	何々										
合計											

（備考）

一　程度超過工事アルトキハ府縣工事ニ付テハ檢査工費以外ニ要シタル增工費ヲ市、町、村及組合工事ニ付テハ檢査工費以外ニ要シタル增工費ニ對スル府縣ノ規程ニ依ル補助增加額ヲ竣功工費欄ニ外書トシテ記載スヘシ

二　災害土木工事ニ付指定寄附ヲ爲シタルモノアルトキハ竣功工費欄ニ其ノ金額ヲ外書（朱書）シ摘要欄ニ其ノ旨記載ノコト

三　災害土木費國庫補助施行細則第十二條ニ依リ當省ノ認可ヲ受ケタルモノハ其ノ指令番號及年月日ヲ摘要欄ニ記載スヘシ

四　前災害土木工事ニシテ後ノ災害土木工事ノ所屬ニ移リタルモノアルトキハ本表中左ノ通記載スヘキモノトス

（イ）前ノ災害土木工事ノ成功箇所表ノ檢査工費欄ニハ未著手工費及未成工費ヲ外書（朱書）トシ摘要欄ニハ本災害土木工事ヨリ後ノ災害土木工事ノ所屬ニ移リタル旨ヲ明記スヘシ

（ロ）後ノ災害土木工事ノ成功箇所表ノ檢査工費欄ニハ前災害土木工事ニ屬シタル未著手ノ工費及未成工費ハ之ヲ內書（朱書）トシ摘要欄ニ前災害土木工事ヨリ本災害土木工事ノ所屬ニ移リタル旨ヲ明記スヘシ

五　查定工法ノ趣旨ヲ變更シ又ハ工費ニ大ナル增減ヲ來シタルモノニ限リ檢査設計概要、變更設計概要、變更理由ヲ當該欄ニ記載スルモノトス尙其ノ變更ノ著大ナルモノニシテ本表ニ明記シ難キモノハ變更設計書ヲ添附スヘシ

（第四號表）

何年度國庫補助災害土木工事全部成功表

何府縣

種別	檢査		竣功		工費差引		摘要
	箇所數	工費	箇所數	工費	增	減	
道路							
同							
同							
同							
計							
橋梁							
同							
同							
同							
計							
河川							何年何月何日內務省指令第何號工事成功認定ノ分
同							同
同							今回工事成功認定申請ノ分

何々計						
合計						
雜費計						
市町村工事組合						
同						
同						
同						
計						
總計						

（備考）

第二號表ニ準ス但シ縣工事ニシテ廢工シタルモノ及市、町、村及組合工事ニシテ補助ヲ取消シタルモノアルトキハ檢査ノ欄ニ外書スヘシ

（第五號表）

雜費明細表

費目	國庫補助規程ニ依レル金額	支出額	差引		摘要
			增	減	
合計					

（備考）費目ハ成ルヘク之ヲ細別シ其ノ用途ヲ明瞭ナラシムヘシ

（第六號表）

廢工額及補助取消額調査表

府縣工事

道路

路線名	工事番號	檢査工費	廢工報告年月日
計			

橋梁

路線名	工事番號	檢査工費	廢工報告年月日
計			

何々

何々	工事番號	檢査工費	廢工報告年月日
計			

市、町、村及組合工事

市町村組合名	種別	工事番號	檢査工費	補助規程施行細則第五條第一項ニヨル補助費	補助取消報告年月日
何町	道路				
何村	橋梁				
何組合	何々				
計					

國庫補助金ノ取扱方ニ關スル件

（大正十五年十二月十八日發土第六一號 各地方長官宛、會計課長、土木局長通牒）

災害土木費及砂防ノ國庫補助金支拂委任額ノ內支拂殘額ニ付工事竣功シタルノ故ヲ以テ不要額トシ取扱ヲ爲サル、向往々有之候處府縣カ受入ルヘキ國庫補助金ノ總額ハ災害土木工事全部ノ完了認定又ハ砂防工事竣功ノ認可ヲ受ケタル後正確ニ決定セラルヘキモノニ付爾今右處分ノ未了中ハ支拂委任額ヲ遞次繰越ノ手續相成度

國庫補助災害土木工事費併算方ニ關スル件

（大正六年二月二十日土回第八九號 富山縣知事伺）

國庫補助關係ニ屬スル災害土木工事費ノ計算方ニ付テハ明治四十四年七月勅令第百九十九號災害土木費國庫補助規程第七條第一項ニ於テ同一年度內二回以上災害ニ遭遇シタルトキハ其ノ災害ニ依リ必要ヲ生シタル工事ノ費用ハ之ヲ併算スルコトヲ得ト有之候處本縣ニ在リテハ客年夏季河川ノ災害アリ冬季海岸ノ災害アリ右河川ノ災害費ノミニテハ國庫補助ヲ受クル程度ニ無之候ヘ共海岸ノ災害費ヲ併算スルニ於テハ補助ヲ受クル程度ニ至ルヘキ見込ニ有之然ルニ河川ノ災害ニ付テハ舊臘開會ノ縣會ニ於テ當該災害費ハ大正五年度豫算トシテ成立シ目下工事施行中ニ有之海岸ノ災害ニ付テハ右豫算成立後發生シタルモノニシテ目下災害費ニ付調査中ニ有之乃チ一ハ豫算成立シ一ハ今後豫算ノ成立ヲ見ルヘキモノニ有之候而シテ以上災害事實ノ發生シタルハ同一年度內ニ屬スルヲ以テ前記規定ノ明文ニ基キ勿論併算方御認メラル、義ト存候ヘ共一應貴見拜承致度尙又右海岸ノ災害ニ付檢査ノ申請ヲ爲シ本年度內ニ其ノ檢査ノ結果ニ付通知ヲ受ケ難キ場合又右通知ヲ受クルモ當該豫算カ年度內ニ成立ノ餘日ナク之ヲ大正六年度豫算ト爲ス場合ト雖前記ノ如タ災害事實ノ發生シタル年度ニシテ同一ナルニ於テハ併算方御認メラル、義ニ候哉併テ御回示相煩度此段及照會候也

同　件（大正六年二月二十六日甲第二五五號 富山縣知事宛、土木局長回答）

標記ノ件ニ付本月二十日土回第八九號ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ同一年度內二回以上災害ニ遭遇シ必要ヲ生シタル工事ノ費用ハ當省檢査ノ當時未著手（應急ノ施設ニシテ査定工事ノ一部トナルヘキモノヲ除ク）ノモノニ限リ併算スルコトニ取扱居候條御承知相成度

追テ後段御申越ニ係ル大正五、六兩年度ノ工費豫算ニ對シ大正六年度ニ於テ國庫補助ノ義ハ詮議難相成候

震災ニ因ル府縣災害土木費國庫補助規程

（大正十三年八月三十日 勅令第二一〇三號）

大正十二年九月ノ震災ニ因ル東京府、神奈川縣、千葉縣、埼玉縣、靜岡縣及山梨縣ノ災害土木費ニ付テハ國庫ハ災害土木費國庫補助規程ニ依ラス左ノ區分ニ從ヒ補助スルコトヲ得

東京府ニ對シテハ府工事費ノ八割以內及下級公共團體ニ對スル府補助費ノ十割以內

神奈川縣ニ對シテハ縣工事費ノ八割五分以內及下級公共團體ニ對スル縣補助費ノ十割以內

千葉縣、埼玉縣、靜岡縣及山梨縣ニ對シテハ縣工事費ノ七割五分以內及下級公共團體ニ對スル縣補助費ノ十割以內

前項ノ規程ニ依ル府縣補助費ニ對スル補助ノ割合ハ下級公共團體ノ災害土木費ニ對シ東京府ニ在リテハ其ノ八割、神奈川縣ニ在リテハ其ノ八割五分、千葉縣、埼玉縣、靜岡縣及山梨縣ニ在リテハ其ノ七割五分ヲ超ユルコトヲ得ス

前二項ノ規定ニ依リ補助スヘキ災害土木費ノ範圍及補助額ハ內務大臣之ヲ定ム

本令ニ依ラスシテ補助金ヲ受ケタル災害土木費ニ付テハ本令ニ依ル補助金ハ之ヲ交付セス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

震災ニ因ル災害土木費國庫補助內定通牒左記

（大正十三年九月二十七日發甲第二五號土木局長依命通牒）

一　國庫補助額ハ縣工事費（工費ニ對スル六分ノ雜費ヲ含ム）及下級公共團體ノ災害土木費（工費ニ對スル六分ノ雜費ヲ含ム）ノ（東京府ニ在リテハ八割、神奈川縣ニ在リテハ八割五分、千葉縣、埼玉縣、山梨縣及靜岡縣ニ在リテハ七割五分）ニ相當スル金額トス

二　縣ハ下級公共團體ニ對シ平等ニ其ノ災害土木費ノ（東京府ニ在リテハ八割、神奈川縣ニ在リテハ八割五分、千葉縣、埼玉縣、山梨縣及靜岡縣ニ在リテハ七割五分）ヲ補助スヘキモノトス

三　縣ハ下級公共團體ニ對シ別途國庫貸付金ヲ以テ前號ニ依リ補助スヘキ金額以上補助スルヲ妨ケス

四　大正十三年度以降引續キ災害アリタル場合ニ於ケル國庫補助ニ付テ災害土木費國庫補助規程第二條ニ依リ計算スル場合ハ本震災ニ因ル災害土木費ヲ加算スヘカラサルモノトス

五　本災害工事箇所ニシテ竣功前更ニ國庫ノ補助ヲ受クル災害ニ遭遇シタル場合ニ於テハ災害前ノ出來形ニ依リ未成工費ヲ算出シ其未成工費ハ本災害工事ニ屬スルモノトシ災害後ノ設計額ヨリ其ノ未成工費ヲ控除シタル殘額ハ後ノ災害工事ニ屬スルモノトス

六　國庫補助申請ノ際ハ明治三十二年四月二十九日祕發第一七號本官通牒ノ例ニ準シ申請スヘシ

七　國庫ノ補助ヲ受ケタル震災ニ因ル災害土木費ニ關スル會計ノ事務ハ分別シテ之ヲ整理スヘク又縣工事費補助費及雜費ノ相互間ニ於ケル流用ヲ許サス

八　災害土木費國庫補助規程施行細則第十二條及第十三條ニ規定セラレタル事項ハ震災ニ因ル災害土木費ニ付テモ其ノ例ニ依ル

震災ニ因ル國庫補助災害土木工事ノ取扱方ノ件

（大正十三年九月二十九日發第二〇一號土木局長通牒）

國庫補助災害土木工事ノ取扱方ニ關シ大正十三年九月二十七日發甲第二五號ヲ以テ及通牒置候處震災ニ因ル災害土木工事ニ關シテハ右通牒左記第四項ヲ除キ右通牒ニ依ル取扱方ニ準シ處理スルコトニ被定候條御了知相成度

開港港則

（明治三十一年七月八日勅令第一三九號）

改正（明治三十二年八月勅令第三六〇號、十月同第四〇三號、三十三年五月同第二五二號、三十七年四月同第一〇六號、三十九年五月同第九七號、四十年十一月同第三三三號、四十一年四月同第七五號、四十二年三月同第二七號、四十三年五月同第二五四號、大正元年十一月同第四五號、六年四月同第三八號、八年七月同第三三七號、十一年二月同第二三號、十三年三月同第四七號、十五年十月同第三二八號、昭和二年十二月同第三五一號、五年二月同第二三號）

第一條 左ニ記載スル外國通商ヲ許シタル諸港ノ經界ハ左ノ如ク之ヲ定ム

一 横濱ノ港界ハ十二天鼻ヨリ北四十六度東五海里ニ引キタル一線及該線ノ北東端ヨリ正北ニ引キタル一線以内

一 神戸ノ港界ハ新在家ノ東角ヨリ南十五度西ニ引キタル一線ト和田岬ヨリ北八十四度三十四分東ニ引キタル他ノ一線トノ二線ヲ經界トナシタル面積内

一 新潟ノ港界ハ燈臺ヲ中心トシ二海里半ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内ニ含マル

一 夷港ノ港界ハ椎泊村ヨリ北五十里村外堺マテ引キタル一線ト加茂湖東岸湊町ヨリ同湖北西岸加茂村マテ引キタル一線トノ内ニ包マル

一 大阪ノ港界ハ神崎川口東岸ヨリ南西微南ニ引キタル一線ト大和川口南岸ヨリ正西ニ引キタル他ノ一線トノ二線ヲ經界トナシタル面積内

一 長崎ノ港界ハ小瀬戸浦ノ南東端ヨリ鼠島ノ外端ヲ經テ蔭ノ尾島長刀埼ニ引キタル一線ト蔭ノ尾島三角點（一五四呎）ヨリ正南ニ向ヒ香燒島ニ引キタル一線及香燒島石燈籠ノ鼻ヨリ深堀村堂ノ埼ニ引キタル一線以内

一 函館ノ港界ハ阿野間崎ヨリ南方沖合半海里ノ所ヨリ上磯村有川口ノ東岸マテ引キタル一線内ニ含マル

一 清水ノ港界ハ眞埼ヨリ正北ニ引キタル一線以内

一 武豐ノ港界ハ布土村ヨリ正東ニ引キタル一線以内

一 名古屋ノ港界ハ西突堤燈臺ヲ中心トシテ二海里半ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内

一 四日市ノ港界ハ燈臺ヲ中心トシテ二海里半ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内

一 宇野ノ港界ハ高邊岬（高邊山三角點ヨリ南三十度東）ヨリ下烏島ノ西端及飛洲ヲ經テ蛸埼（五一米三角點ヨリ正東）ニ引キタル一線以内

一 尾道糸崎ノ港界ハ犬吠山ノ山頂ヨリ岩子島三角點（三九〇呎）ニ引キタル一線、岩子島鷄小島ヨリ向島布刈鼻ニ引キタル一線、向島大磯鼻ヨリ戸崎ニ引

キタル一線及向島松ケ鼻ヲ中心トシテ八鏈ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧以内

一 下關ノ港界ハ彦島弟子待ノ鼻ヨリ巖流島ノ南東端マテ夫ヨリ北東微北ニ向ヒ引キタル一線及彦島海士浦ノ鼻ヨリ北東ニ引キタル一線以内

一 萩ノ港界ハ大瀬鼻ヨリ笠山ノ山頂ニ引キタル一線以内

一 德山ノ港界ハ仙島ノ洲鼻ト蛇島ノ北東端トノ連結線ヲ兩岸ニ延長シタル一線以内

一 今治ノ港界ハ蒼社川口ノ東岸ヨリ正北ニ引キタル一線ト大濱燈臺ヨリ南六十度東ニ引キタル一線トノ二線ヲ經界トナシタル面積内

一 門司ノ港界ハ白木埼ノ北西四鏈ノ所ヨリ門司埼ニ引キタル一線ト白木埼ノ北西四鏈ノ所ヨリ正南四鏈ノ所ニ引キタル一線及其線ノ南端ヨリ一番橋川口ニ引キタル一線トノ三線ヲ經界トナシタル面積内

一 若松ノ港界ハ燈臺ヲ中心トシテ二海里ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内

一 博多ノ港界ハ殘島ノ北端ヨリ滿切ニ引キタル一線及小戸鼻ヨリ殘島ノ南端ニ引キタル一線以内

一 唐津ノ港界ハ高島ノ北端ヨリ西北西ニ引キタル一線ト同島ノ南東端ヨリ正南ニ引キタル他ノ一線トノ二線ヲ經界トナシタル面積内

一 住ノ江ノ港界ハ船津川口ノ西岸ノ南端ヨリ正西ニ引キタル一線以内

一 口ノ津ノ港界ハ宮崎鼻ヨリ正南ニ引キタル一線ト白間埼ヨリ正東ニ引キタル他ノ一線トノ二線ヲ經界トナシタル面積内

一 三池ノ港界ハ北突堤燈臺ヲ中心トシテ一海里半ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内

一 三角ノ港界ハ瀨戸ノ鼻ヨリ大矢野島「コンピラ」鼻マテ際崎ノ鼻ヨリ戸馳島野埼マテ同島兎鼻ヨリ千束島六四郎鼻マテ夫ヨリ大矢野島塔ケ埼マテ引キタル四線以内

一 鹿兒島ノ港界ハ一丁臺場南端ノ燈臺ヲ中心トシテ一海里ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内

一 嚴原ノ港界ハ虎埼ヨリ耶良埼（一名寢釋迦鼻）ニ引キタル一線以内

一 那覇ノ港界ハ先原埼ヨリ干ノ瀨ノ北端ニ引キタル一線及安里川口ヨリ干ノ瀨ノ北端ニ引キタル一線以内

一 濱田ノ港界ハ黑埼ヨリ馬島ノ西端ニ引キタル一線ト馬島ノ北端（千疊敷鼻）ヨリ入道鼻ニ引キタル一線以内

一 境ノ港界ハ境港燈臺ヲ中心トシテ二海里半ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内及

外ノ江ノ西端ヨリ正北ニ引キタル一線以東

一 宮津ノ港界ハ片島鼻ヨリ日置埼ニ引キタル一線以内

一 敦賀ノ港界ハ赤埼ヨリ蛭子埼ニ引キタル一線以内

一 七尾ノ港界ハ能登島松ケ埼ヨリ南東ニ引キタル一線以西及屏風埼峽以東

一 伏木ノ港界ハ燈臺ヲ中心トシテ一海里半ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内

一 船川ノ港界ハ生鼻埼ヨリ正南ニ引キタル一線ト南平澤ノ南東角ヨリ正東ニ引キタル一線トノ二線ヲ經界トナシタル面積内

一 青森ノ港界ハ鼻繰岬ヨリ正西ニ引キタル一線以内

一 小樽ノ港界ハ平磯岬ヨリ「カヤシバ」岬ニ引キタル一線以内

一 根室ノ港界ハ辨天島燈臺ヲ中心トシテ一海里ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内

一 釧路ノ港界ハ燈臺ヨリ正西二海里ニ引キタル一線以北及該線ノ西端ヨリ正北ニ引キタル一線以東

一 室蘭ノ港界ハ「エンルム」埼ヨリ大黑島ヲ經テ「ホテイシ」埼ニ引キタル一線以内

一 大泊ノ港界ハ燈竿ヲ中心トシテ二海里半ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内

一 眞岡ノ港界ハ導標ノ紅光燈ヲ中心トシテ一海里ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧

内

第二條 各船舶ハ入港スルニ當リ其ノ國旗及信號符字ヲ掲クヘシ定期郵便船ハ會社旗ヲ以テ信號符字ニ代用スルコトヲ得

右國旗及信號符字又ハ會社旗ハ船舶ノ著港ヲ港長ニ屆出タル後ニアラサレハ之ヲ引下スヘカラス

著港屆ハ日曜日及大祭日ヲ除クノ外著港後二十四時間内ニ之ヲ差出スヘシ但シ著港屆ヲ差出シタル後ニアラサレハ如何ナル船舶タリトモ稅關手續ノ便利ヲ與ヘサルモノトス

第三條 各船長ハ其ノ著港ニ際シ自由交通ノ許可ヲ受クルマテハ其ノ船舶ト他ノ船舶或ハ陸地トノ間ニ於ケル一切ノ交通ヲ差止ムヘシ

第四條 港長ノ端艇ハ港ノ入口近傍ニ出向キ居リ港長ハ各船舶ノ入港スルニ當リ其ノ泊船所ヲ示定スヘシ而シテ各船舶ハ止ムコトヲ得サル場合ヲ除クノ外特許ナクシテ其ノ泊船所ヲ去ルヘカラス但シ港長ニ於テ必要ト認ムルトキハ船舶ヲシテ其ノ泊船所ヲ移サシムルコトヲ得

第五條 港長ハ其ノ執務ノ間常ニ制服ヲ著ケ其ノ端艇ニハ別紙雛形ノ如キ旗ヲ掲クヘシ

港長ハ何時タリトモ船舶ノ運動繫船ノ適否及碇泊所ニ關スル指揮カ果シテ實行セラレ居ルヤ否ヲ檢査スルコトヲ得

第六條 如何ナル船舶モ公ケノ航路ニ投錨シ若ハ其ノ他航海ノ自由ヲ障碍スヘカラス

「ヂブ、ブームス」ヲ接キ出シタル船舶ニシテ其ノ「ヂブ、ブームス」カ航海ノ自由ヲ障碍スルトキハ港長ノ請求ニ從ヒ之ヲ取込ムヘシ

第七條 港界內ニ碇泊シ又ハ運航スル各船舶ハ日沒ト日出ノ間ニハ海上衝突豫防ニ關スル法令ニ規定シタル各種ノ船燈ヲ揭クヘシ

第八條 暴風雨ノ來ラムトスルトキ或ハ警報信號ヲ揭ケタルトキハ各船舶ニ於テ直ニ一個又ハ一個以上ノ豫備錨ヲ投下スルノ準備ヲ爲スヘシ尤モ汽船ハ此ノ外別ニ蒸氣ヲ發生セシムヘシ

第九條 常用ニ超過シ爆發物又ハ容易ニ燃燒スヘキ物料ヲ積載シタル一切ノ船舶ハ港界外ニ來リ其處ニテ港長ノ指揮ヲ待ツヘシ斯ク指揮ヲ待ツ間右船舶ハ日出ト日沒ノ間ニハBノ信號日沒ト日出ノ間ニハ紅燈ヲ前檣ノ頂上ニ揭クヘシ

各船舶ハ港長ノ指定シタル場所ニアラサレハ前記ノ物料ヲ積入レ又ハ荷卸スヘカラス

港長ハ港界內ニ於テ前項ノ場所ヲ指定シ難シト認ムルトキハ港界外ニ於テ適當ノ場所ヲ指定スルコトヲ得

前項ニ依リ指定シタル場所ハ港界內ニ在ルモノト看做ス

第十條 休繫中又ハ修繕中ノ船舶及總テ「ヤット」、倉庫船、貨船及端艇等ハ特ニ港長ノ指定シタル泊船所ニ碇泊スヘシ

第十一條 船舶カ港界內ニ於テ火ヲ失シタルトキハ救援ノ來ルマテ船鐘ヲ打鳴スヘシ且ツ日出ト日沒ノ間ニハNMノ信號ヲ揭ケ日沒ト日出ノ間ニハ絕エス紅燈ヲ上下スヘシ

警察官ノ救援ヲ要スルトキハ日出ト日沒ノ間ニハGノ信號ヲ揭ケ日沒ト日出ノ間ニハ藍火若クハ閃火ヲ示スヘシ

前記ノ如キ信號ニ用ユル場合ノ外港長ノ允許ヲ得ルニアラサレハ港界內ニ於テ銃砲及煙火等ヲ發スルコトヲ得ス

第十二條 帝國政府ニ於テ流行病若クハ傳染病(虎列刺、天然痘、黃熱、猩紅熱、「ペスト」ノ類)アル地ト布告シタル地ヨリ來著シ又ハ航海中船中ニ該病アリタル船舶ハ港界外ニ來リ日出ト日沒ノ間ニハ紅白二燈ヲ上下ニ連ネ前檣ノ頂上ニ揭クヘシ又前記ノ船舶ハ當該衞生官吏ノ臨檢ヲ受ク

ヘシ

衞生官吏臨檢ノ爲メ其船舶ニ近寄リタルトキハ適當ノ豫防ヲ施シ得ル爲メニ航海中現ニ該病發生ノ有無及該病ノ性質如何ヲ該官吏ニ通知スヘシ

右船舶ハ自由交通ノ允許ヲ受クル迄黃旗若クハ前記ノ燈火ヲ引下スヘカラス且ツ當該衞生官吏ノ允許ヲ得ルニアラサレハ何人タリトモ上陸セシメ又ハ一切他ノ船舶ト交通スルヲ許サス

前數項ノ規定ハ港界內ニ碇泊スル船舶中ニ於テ前記ノ流行病及傳染病ノ內何病ニテモ發生シタルトキニ之ヲ適用ス

右船舶ハ港長ヨリ其ノ旨命令ニ接スルトキハ其ノ泊船所ヲ移轉スヘシ

牛羊等傳染病アル地ヨリ來著シ又ハ航海中該病ヲ發生シタル船舶ハ當該衞生官吏ノ允許ヲ得ルニアラサレハ牛羊等又ハ其ノ死體、皮革又ハ骨ヲ陸揚シ又ハ他船ニ積換ユルコトヲ許サス

第十三條 港界內ニ於テ死體、荷足、灰燼、塵芥等ヲ海中ニ投棄スヘカラス

石炭、荷足其他之ニ類スル物料ヲ積卸スルトキハ其海中ニ脫落スルヲ防ク爲メ必要ノ豫防ヲ爲スヘシ

何船舶ニテモ港ニ害アル一切ノ物料ヲ海中ニ投棄シ又ハ怠慢ニ依リ脫落セシメタルトキハ港長ヨリ其ノ旨命令ニ接セハ該船舶ニ於テ之ヲ取除クヘシ若シ取除カサルニ於テハ港長ハ該船舶ノ費用ヲ以テ之ヲ取除カシムルコトヲ得

第十四條 船舶出港セントスルトキハ其旨〔港務局〕ニ屆出テ且ツ出帆旗ヲ引揚クヘシ

一定ノ時日ニ出帆スル汽船ハ其著港及出帆ニ對シ單ニ一回ノ屆出ヲ爲スヲ以テ足レリトス

第十五條 一港內又ハ其附近ノ公ケノ航路ノ妨害トナルヘキ總テノ難破物又ハ其他ノ物件ハ港長ノ指定セル時間內ニ其所有主ニ於テ之ヲ取除クヘシ若シ港長ノ指定セル時間內ニ此命令ヲ遵行セサルニ於テハ港長ハ所有主ノ費用ヲ以テ之ヲ取除カシメ又ハ破壞セシムルコトヲ得

第十六條 〔港務局〕ハ定期郵便汽船ノ爲メニ適切ニシテ且ツ充分ナル浮標ノ繫船器若干ヲ備ヘ置キ之ヲ使用スル所ノ船舶ヲシテ成規ノ使用料ヲ拂ハシムヘシ

第十七條 燈船、信號用浮標又ハ立標ニハ鏈、綱其他ノ船具ヲ繫クヘカラス

船舶若シ燈船、浮標、立標、埠頭及其他ノ造營物ニ乘掛ケ又ハ之ヲ毀損シタルトキハ其修繕又ハ再設ノ爲メニ必要ノ費用ハ該船舶ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

第十八條 本則ノ規定ヲ犯シタルトキハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 船舶ニ科スル罰金、使用料又ハ費用ニ付テハ船長モ亦其責ヲ負フモノトス

第二十條 本則ニ依リ船舶ニ科シタル罰金、使用料又ハ費用ヲ完納スルカ或ハ之ニ對シ港長ノ滿足スヘキ擔保物ヲ港長ニ差出スニアラサレハ其ノ船舶ノ出港ヲ許サス

第二十一條 本則ニ於テ港長ト稱スルハ助役及代理者ヲモ包含シ船長ト稱スルハ其名稱ノ何タルヲ問ハス船舶ヲ指揮監督スル者ノ義ニシテ港ト稱スルハ本則第一條中ニ列記セル諸港ノ一ヲ指ス

第二十二條 各港ニ於テ其ノ一部分ヲ軍艦ノ碇泊所トシテ取除ケ置クヘシ

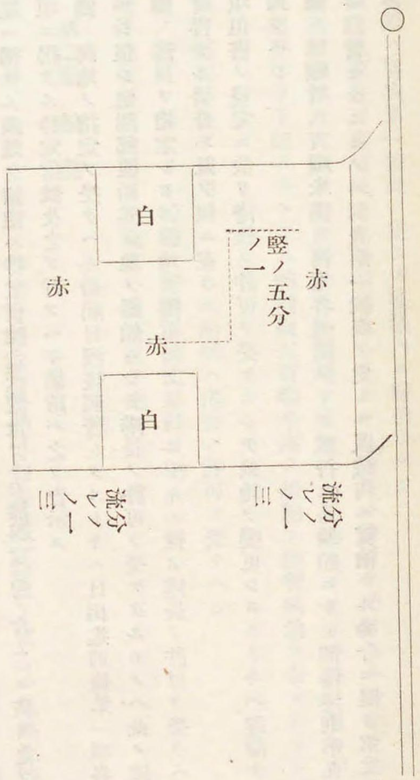
第二十三條 本則ノ規定中軍艦ニ適用セラルヘキモノハ第四條、第六條、第十二條、第二十一條ノ規定及第十三條第一項及第二項ノ規定ニ限ル

第二十四條 本則施行ノ時期及場所ハ遞信大臣之ヲ告示ス

本則實施ニ關スル細則ハ遞信大臣之ヲ發布ス

（別紙）

第五條ノ旗章雛形



開港港則施行規則

（昭和二年四月十二日遞信省令第七號）

改正（昭和六年九月遞信省令第四五號、七年十月同第四五號、十二月同第六一號、八年六月同第二八號）

第一章 錨地

第一條 開港港則ヲ施行スル港ニ於ケル船舶ノ錨地ハ別表第一號表ノ定ムル區域内ニ於テ港長之ヲ指定ス

港長港内ノ實況ニ依リ必要アリト認ムルトキハ前項ノ區域ニ拘ラス錨地ヲ指定スルコトヲ得

第二條 入港船舶ハ左ノ各號ニ定ムル場所ニ於テ港長ヨリ錨地ノ指定ヲ受クヘシ但シ豫メ港長ノ許可ヲ受ケ

タルモノハ此ノ限ニ在ラス

一　横濱ニ在リテハ本牧挂燈浮標ノ内方

二　神戸ニ在リテハ和田岬檢疫所附近但シ大阪方面ヨリ入港スルモノハ同檢疫所附近又ハ第四突堤信號所附近

三　大阪ニ在リテハ港界線附近

四　長崎ニ在リテハ女神外

五　門司ニ在リテハ下關海峽西口ヨリ入港スルモノハ六連島燈臺附近、同東口ヨリ入港スルモノハ部埼燈臺附近、若松又ハ下關ヨリ入港スルモノハ港界線附近

前項ニ掲クル錨地ノ指定ハ特定信號(無線電信又ハ無線電話ヲ含ム)ニ依リ之ヲ爲スコトアルヘシ

前項ニ掲クル特定信號及之ヲ行フヘキ場所ハ之ヲ告示ス

第三條　錨地ノ指定ヲ受クヘキ船舶日沒後到著シタルトキハ日出迄前條第一項各號ニ掲クル場所ニ於テ假泊スヘシ但シ定期郵便船其ノ他ノ船舶ニシテ港長ノ許可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四條　港長ノ指定シタル錨地ヲ變更セムトスルトキハ豫メ港長ノ許可ヲ受クヘシ但シ風波、災害其ノ他已ムヲ得サル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ規定ニ依リ港長ノ許可ヲ受ケスシテ錨地ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク其ノ事由及錨地ヲ港長ニ屆出ツヘシ

第五條　總噸數八百噸未滿ノ内地各港間ノミヲ航行スル船舶ニシテ開港港則第九條第一項若ハ第十二條第一項ニ該當セサルモノハ別表第一號表ノ定ムル區域内ニ碇泊スル場合ニ限リ第二條ノ指定ヲ受クルコトヲ要セス

雜種船ハ別表第一號表ノ定ムル區域内ニ碇泊スヘシ

第六條　總噸數五百噸以上ノ船舶錨泊スルトキハ港長ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外雙錨泊ヲ爲スヘシ但シ横濱、神戸及大阪ノ防波堤外又ハ長崎ノ女神外ニ錨泊スルモノハ此ノ限ニ在ラス

港長必要アリト認ムルトキハ總噸數五百噸未滿ノ船舶ト雖雙錨泊ヲ命スルコトヲ得前項但書ノ船舶ニ付亦同シ

第七條　繫船浮標ヲ使用セムトスル船舶ハ港長ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ許可ヲ受ケタル船舶ハ繫船浮標使用料ヲ納入スヘシ

繫船浮標使用料ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第二章　航路

第八條　神戸、大阪及長崎ノ各港ニ於テハ船舶ハ別表第二號表ノ定ムル航路及特定條件ニ從ヒ出入スヘシ但シ已ムヲ得サル事由アルトキ又ハ雜種船ニシテ別表第二號表ノ定ムル場合ニ該當セサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條　航路内ニ於テハ左ノ所爲ヲ爲スコトヲ得ス但シ已ムヲ得サル事由アルトキハ此ノ限ニ在ラス

一　投錨スルコト

二　被曳船ヲ放ツコト

三　其ノ他船舶航行ノ妨害トナルコト

第三章　航法

第十條 汽船防波堤入口ニ於テ出會ノ虞アルトキハ入港船ハ防波堤外ニ於テ出航船ノ進路ヲ避クヘシ

第十一條 汽船ハ港界内及港界附近ニ於テハ他船ニ危害ヲ及ホササル程度ニ速力ヲ減シテ航行スヘシ

帆船ハ港界内ニ於テハ帆ヲ減シ又ハ曳船ヲ用ヒテ航行スヘシ但シ航路内、横濱港東水堤燈臺及北水堤燈臺附近、門司港界内及長崎女神内ニ於テハ縫航スヘカラス

第十二條 船舶ハ竝列シテ航行スヘカラス

第十三條 航路ヲ横切ラムトスル船舶ハ航路ヲ航行スル他船ノ進路ヲ避クヘシ

航路ニ於テ行逢ヒタル船舶ハ互ニ航路ノ右側ヲ航行スヘシ

船舶ハ航路ニ於テ他船ヲ追越スヘカラス

第十四條 雜種船ハ汽船及帆船ノ進路ヲ避クヘシ

第十五條 船舶ハ防波堤、埠頭又ハ繫泊船等ノ一端ヲ右舷ニ見テ通航スルトキハ之ニ近寄リ左舷ニ見テ通航スルトキハ之ニ遠サカリテ航行スヘシ

第十六條 本章ニ定ムルモノノ外船舶ノ航法ニ關シテハ海上衝突豫防法ノ定ムル所ニ依ル

第四章 爆發物及危險物

第十七條 開港港則第九條ニ掲クル爆發物及容易ニ燃燒スヘキ物件ノ種類ハ別表第三號表ノ定ムル所ニ依ル

第十八條 爆發質ノ物件ニ付テハ船舶ニ備付ケタル大砲一門毎ニ火藥五十發分門管又ハ爆管七十個、小銃一挺毎ニ火藥百發分雷管百五十個竝信號用ノ榴彈、火箭、焰管及救命焰ハ之ヲ常用ト看做ス容易ニ燃燒スヘキ物件ニシテ船舶所用ノ目的ヲ證明シ得ルモノ亦同シ

第十九條 常用ニ超過シタル爆發物又ハ容易ニ燃燒スヘキ物件ヲ積卸又ハ運搬セムトスル船舶ハ豫メ港長ノ許可ヲ受クヘシ

前項ニ掲クル物件ヲ積載シタル船舶ハ港長ノ指定シタル場所ニ非サレハ碇泊又ハ停留スルコトヲ得ス但シ容易ニ燃燒スヘキ物件ヲ積載シタルモノニシテ碇泊ノ期間及場所竝積荷ノ種類及數量ヲ具シ港長ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第一項ニ掲クル物件ヲ積載シタル船舶ハ晝間ハ赤旗ヲ、夜間ハ紅燈一個ヲ舷緣上見易キ場所ニ掲揚スヘシ

第五章 屆出手續

第二十條 開港港則第二條第三項ニ規定スル著港屆ハ第一號書式ニ、同條第十四條第一項ニ規定スル出港屆ハ第二號書式ニ、同條第二項ニ規定スル著發屆ハ第三號書式ニ依リ港長ニ差出スヘシ

第二十一條 出港シタル船舶避難、修繕其ノ他事故ノ爲出港後十二時間内ニ歸港シタルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル屆書ヲ港長ニ差出シ著港屆ニ代フルコトヲ得

第二十二條 船舶ヲ修繕又ハ休繫セムトスルトキハ豫メ其ノ旨港長ニ屆出ツヘシ

前項ノ屆出アリタル場合ニ於テ港長必要アリト認ムルトキハ當該船舶ノ修繕又ハ休繫中相當船員ノ乘組ヲ命スルコトアルヘシ

第二十三條 船舶ヲ進水又ハ船渠ニ出入セシメムトスルトキハ豫メ其ノ旨港長ニ屆出ツヘシ

第二十四條 開港港則第十二條第六項ニ掲クル船舶入港シタルトキ又ハ碇泊中ノ船舶ニ同條第一項ニ掲クル傳染病ノ疑若ハ家畜傳染病ノ疑アルモノ發生シタルトキハ直ニ其ノ旨港長ニ屆出ツヘシ

第二十五條 港界内又ハ港界附近ニ於テ難破又ハ沈沒等ノ事故發生シタルトキハ直ニ其ノ旨港長ニ屆出ツヘシ之ヲ發見シタルトキ亦同シ

第二十六條 國籍證書ヲ受有スルコトヲ要セサル船舶、平水航路ノミヲ航行スル船舶及內地ニ於ケル一定ノ港ヲ定期ニ航行スルモノニシテ豫メ港長ノ許可ヲ受ケタル船舶ハ第二十條ノ手續ヲ省略スルコトヲ得

第二十七條 本章ニ規定スル屆出ハ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外船長又ハ船舶所有者之ヲ爲スヘシ

第六章 雜則

第二十八條 雜種船、筏等ハ濫リニ之ヲ繫船浮標、船舶ノ船尾若ハ船側ニ繫留セシメ又ハ船舶航行ノ妨害トナルヘキ場所ニ碇泊若ハ停留セシムヘカラス

第二十九條 船舶他ノ船舶、筏等ヲ曳航スルトキハ左ノ制限ヲ超ユヘカラス但シ港長ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 總噸數三百噸以上ノ船舶ヲ曳クトキハ一艘、總噸數百噸以上三百噸未滿ノ船舶ヲ曳クトキハ二艘、總噸數百噸未滿ノ船舶ヲ曳クトキハ三艘

二 雜種船ヲ曳クトキハ神戸及大阪ノ防波堤內ニ於テハ八艘(五艘以上ヲ曳クトキハ二縱列ト爲スヘシ)橫濱防波堤內及長崎女神內ニ於テハ五艘、門司ニ於テハ四艘

三 被曳船ヲ竝列シテ曳クトキハ二縱列

四 筏等ヲ曳クトキハ曳船ノ船首ヨリ被曳物件ノ後端ニ至ル迄長百二十米

曳船ト被曳船及被曳船相互間ノ曳索ノ長ハ航行ニ支障ナキ程度ニ止メ濫リニ延長スヘカラス筏等ノ場合ニ付亦同シ

第三十條 船舶ハ濫リニ左ニ掲クル場所ニ碇泊又ハ停留スヘカラス

一 埠頭、棧橋、運河、船溜ノ入口又ハ船渠ノ附近

二 門司港柁ケ鼻低立標ヨリ二百二十二度二百七十五米ノ所ヨリ零度ニ向ヒ港界線ニ引キタル線內ノ水域及小森江製鋼所西側煙突ヨリ若松ヲ經テ港界線ニ引キタル一線(三百四十八度三十分)ト發著信號竿ヨリ西側岸壁ノ突端ヲ經テ港界線ニ引キタル一線(三百三十二度)トニ圍マレタル水域

三 橫濱港東水堤燈臺及北水堤燈臺ヨリ各八十五度及二百六十五度ニ引キタル平行線內ニシテ前記燈臺ノ外方ニ在リテハ千米其ノ內方ニ在リテハ四百米ノ水域

第三十一條 大阪港櫻島棧橋ニ繫留又ハ解纜セムトスル船舶アルトキハ同棧橋ノ信號柱ニ萬國船舶信號IL Fヲ揭揚ス此ノ場合ニ於テハ當該船舶ハ其ノ前檣頭ニ直徑二尺ノ黑球一個ヲ揭揚スヘシ前項ノ船舶ニ對シテハ他ノ船舶ハ成ルヘク其ノ進路ヲ避クヘシ

第三十一條ノ二 門司港外國貿易岸壁ニ繫留又ハ解纜セムトスル船舶アルトキハ稅關廳舍屋上及葛葉港務部見張所信號柱ニ繫岸旗又ハ離岸旗ヲ揭揚ス此ノ場合ニ於テハ繫留セムトスル當該船舶ハ其ノ前檣頭ニ萬國船舶信號旗Tノ下ニ回答旒ヲ揭揚スヘシ

第三十一條ノ三 神戸港第四及第五航路ニ依リ殆ド同時ニ出港スル船舶(共ニ總噸數約百噸以上ノ船舶ナル場合ニ限ル)アルトキハ川崎鼻見張所信號柱ニ晝間ニ在リテハ萬國船舶信號旗B二旗ヲ連揭シ夜間ニ在リテハ綠燈三箇ヲ縱ニ一米ツツヲ隔テテ連揭ス此ノ場合ニ於テハ當該船舶ハ川崎鼻ニ於テ出會ノ危險ヲ避クル爲其ノ運航ニ注意スヘシ

第三十二條 門司ヲ出港スル總噸數八百噸以上ノ船舶ハ其ノ前檣又ハ見易キ場所ニ左ノ信號旗ヲ揭揚スヘシ

一 下關海峽東口ヘ向ケ出港セムトスルトキハ萬國船舶信號旗E

二 下關海峽西口ヘ向ケ出港セムトスルトキハ萬國船舶信號旗W

第三十三條 下關海峽東口ヨリ門司ニ入港セムトスル汽船ハ壇ノ浦燈臺ニ竝ヒタル時ヨリ又門司ヨリ同東口

ニ向ヒ出港セムトスル汽船ハ柁ケ鼻ニ竝ヒタルトキヨリ孰レモ門司埼ヲ通過スル迄汽笛又ハ汽角ヲ以テ長聲三發ヲ隨時吹鳴スヘシ

第三十四條 船舶ハ法令ニ規定アル場合ヲ除クノ外濫リニ汽笛又ハ汽角ヲ吹鳴スヘカラス

第三十五條 船舶ニ搭載セル竹木材ヲ水上ニ卸サムトスルトキ又ハ筏等ヲ繫留若ハ運行セムトスルトキハ港長ノ許可ヲ受クヘシ

第三十六條 灰燼、塵芥、動物ノ死體等ヲ處置セムトスルトキハ港長ノ承認シタル塵船ヲ使用スヘシ

第三十七條 船舶ノ碇泊又ハ航行ノ妨害トナルヘキ場所ニ於テ漁撈ヲ爲スヘカラス

第三十八條 港長ハ期間及區域ヲ限リ船舶ノ航行ヲ禁止スルコトヲ得

前項ノ期間及區域ハ之ヲ告示ス

第三十九條 港界內及港界附近ニ於テ船舶航行ノ妨害トナルヘキ總テノ難破物又ハ沈沒物等ハ之ヲ除去スル迄其ノ所有者ニ於テ危險豫防ノ爲必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第四十條 港界內ニ於テ船舶航行ノ妨害トナルヘキ作業ヲ爲サムトスル者ハ豫メ港長ノ許可ヲ受クヘシ港界內及港界附近ニ於テ難破物又ハ沈沒物等ヲ引揚ケムトスル者亦同シ

第四十一條 船舶ハ港界內及港界附近ニ於テ他船ノ運航ノ妨害トナルヘキ探照燈其ノ他類似ノ燈火ヲ濫リニ使用スヘカラス

第四十二條 特設信號ヲ使用セムトスル者ハ港長ノ許可ヲ受クヘシ

第四十三條 信號符字ヲ有スル船舶ハ航行中之ヲ揭揚スヘシ但シ雜種船ハ此ノ限ニ在ラス

第四十四條 雜種船ハ夜間航行中絕エス海上衝突豫防法ニ規定スル船燈ヲ揭揚スヘシ

第四十五條 本令ニ於テ雜種船ト稱スルハ汽艇、艀船、端舟及櫓櫂ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓櫂ノミヲ以テ運轉スル船ヲ謂フ

第四十六條 本令中第一條、第二條、第四條、第五條、第八條乃至第十六條、第二十四條、第三十六條及第三十八條ノ規定ハ之ヲ軍艦ニ適用ス

第四十七條 報時信號及氣象信號ノ方法ハ之ヲ告示ス

第四十八條 本令ノ規程ハ船舶ニ類似セル形態ヲ有スル工作物ニ之ヲ準用ス

第七章　罰則

第四十九條 第二條、第十九條第一項及第二項、第二十四條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四條、第五條第二項、第七條第一項、第八條、第九條、第十九條第三項、第二十二條第一項、第二十三條、第二十八條乃至第三十條、第三十五條、第三十七條、第四十條及第四十四條ノ規定ニ違反シタル者第二十五條ニ規定セル事故ヲ發生セシメ之ヲ屆出テサル者及第三十八條ノ規定ニ依リ港長ノ禁止シタル區域內ヲ航行シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第五十條 前條ノ規定ニ該當スル者法人ナル場合ニ於テハ其ノ者ニ適用スヘキ罰則ハ法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スヘキ者ニ之ヲ適用ス

附則

本令ハ昭和二年四月二十日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十一年遞信省令第十六號開港港則施行細則、明治四十一年神奈川縣令第五十五號橫濱港規程、明治四

十一年兵庫縣令第四十五號神戸港規程、大正十年大阪府令第七十八號大阪港規程、明治四十一年長崎縣令第四十七號長崎港規程及明治四十一年福岡縣令第二十六號門司港規程ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

前項ノ諸規則又ハ規程ニ依リ港長ノ爲シタル處分ハ本令ニ依リ爲シタルモノト看做ス

（別表）

第一號表（各港區分表）

港ノ名稱	區分	境界	碇泊スヘキ船舶ノ種別
横濱	第一區	北防波堤及東防波堤内ノ水域	汽船、總噸數五百噸未滿ノ帆船及雜種船但シ雜種船ハ沿岸附近ニ限ル
	第二區	横濱北水堤燈臺ヨリ八十五度ニ向ヒ港界線迄引キタル線ノ南方ノ水域	軍艦
	第三區	横濱北水堤燈臺ヨリ八十五度ニ向ヒ港界線迄引キタル線ノ北方ノ水域中第四區ヲ除キタル水域	汽船、總噸數五百噸以上ノ帆船及爆發物又ハ容易ニ燃燒スヘキ物件ヲ搭載セル船舶
濱	第四區	鶴見埋立地先防砂堤及防波堤並同防波堤ニ沿ヒ港界線迄引キタル線内ノ水域	汽船、帆船、雜種船及容易ニ燃燒スヘキ物件ヲ搭載セル船舶
神	第一區	神戸港東防波堤南燈臺ヨリ二百七十度ニ引キタル線、東防波堤、東防波堤ノ一、假防波堤ノ線及同線ヲ延長シタル線内ノ水域	汽船、帆船及雜種船但シ雜種船ハ沿岸附近ニ限ル
	第二區	神戸港東防波堤南燈臺ヨリ二百七十度ニ引キタル線、東防波堤ノ二及南防波堤内ノ水域	汽船、帆船及雜種船但シ雜種船ハ沿岸附近ニ限ル

大阪	第三區	第一區及第二區以外ノ水域		軍艦、爆發物又ハ容易ニ燃燒スヘキ物件ヲ搭載セル船舶及雜種船但シ雜種船ハ沿岸附近ニ限ル
	港内	第一區	大阪南突堤燈臺ヨリ大棧橋端ニ向ヒ千八百五十米ノ點ニ於テ百六十一度ニ引キタル線ヨリ西方突堤内ノ水域	汽船但シ總噸數八百噸未滿ノ汽船ハ大棧橋北側
		第二區	埠頭南角立標ヨリ百八十度ニ引キタル線ヨリ第一區境界線ニ至ル水域	汽船但シ總噸數八百噸未滿ノ汽船ハ大棧橋北側
		第三區	尻無川口南岸西角ヨリ二百三十三度ニ引キタル線ヨリ第二區境界線ニ至ル水域	汽船但シ總噸數八百噸未滿ノ汽船ハ大棧橋北側
	港外	第四區	第三區境界線ヨリ南方ノ水域	各種船舶
		第五區	大阪北突堤燈臺ヨリ二百六十度ニ向ヒ港界線迄引キタル線ノ南方ノ水域	軍艦及爆發物又ハ容易ニ燃燒スヘキ物件ヲ搭載セル船舶
		第六區	大阪北突堤燈臺ヨリ二百六十度ニ向ヒ港界線迄引キタル線ノ北方ノ水域	軍艦及爆發物又ハ容易ニ燃燒スヘキ物件ヲ搭載セル船舶
長	第一區	小菅立標ヨリ遠見鼻立標ニ引キタル線以北ノ水域		汽船、總噸數五百噸未滿ノ帆船及雜種船但シ總噸數八百噸未滿ノ汽船ハ中島川口北端ヨリ稲佐埼ニ引キタル線以北又總噸數五百噸未滿ノ帆船及雜種船ハ沿岸附近ニ限ル
	第二區	女神立標ヨリ神崎鼻立標ニ引キタル線以北第一區境界線ニ至ル水域		

第二號表（各港航路表）

港ノ名稱	航路ノ區域	特定條件
神戸	第一航路　神戸港東防波堤ノ二南燈臺及神戸港南防波堤東燈臺ヨリ各百四十度及三百二十度ニ引キタル平行線内ニシテ前記燈臺ノ内方及外方各五百米ノ水域	總噸數二千噸未滿ノ船舶ハ已ムヲ得サル場合ノ外第一航路ヲ航行スヘカラス
	第二航路　南防波堤西端ニ碇置セル挂燈浮標ヨリ百八十五度三十分及五度三十分ニ引キタル線ノ西側百米ノ幅ニシテ前記浮標ノ外方ニ於テハ第二乃至第五航路ノ會合點ニ至ル迄ノ水域	總噸數二千噸未滿ノ汽船ニシテ神戸國産波止ノ附近ニ出入スルモノハ第四航路ニ出入スルモノハ其ノ附近ニ出入スルモノハ第五航路ニ依ルヘシ
	第三航路　神戸港東防波堤ノ二北燈臺ヨリ各八十七度及二百六十七度ニ引キタル平行線内ニシテ前記燈臺ノ内方ニ於テハ三百米其ノ内方ニ於テハ第二乃至第五航路ノ會合點ニ至ル迄ノ水域	總噸數二千噸未滿ノ汽船ニシテ神戸國産波止防波堤南燈臺及神戸港東防波堤ノ二北燈臺ヨリ各八十七度及二百六十七度ニ引キタル平行線内ニシテ前記燈臺ノ内方ニ於テハ三百米其ノ内方ニ於テハ第二乃至第五航路ノ會合點ニ至ル迄ノ水域
	第四航路　國産波止場及花隈町ニ建設シタル頭部三角形ノ白色立標ヲ見通シタル線ノ西側六十米ノ幅ニシテ第二乃至第五航路ノ會合點ニ至ル迄ノ水域	總噸數二千噸未滿ノ汽船ニシテ神戸國産波止場又ハ其ノ附近ニ出入スルモノハ第四航路ニ出入スルモノハ其ノ附近ニ出入スルモノハ第五航路ニ依ルヘシ
	第五航路　兵庫島上町ニ建設シタル頭部三角形ノ紅色立標二基ヲ見通シタル線ノ南側六十米ノ幅ニシテ第二乃至第五航路ノ會合點ニ至ル迄ノ水域	總噸數二千噸未滿ノ汽船ニシテ神戸國産波止川崎造船所「ガントリークレーン」ノ東端又ハ高濱岸壁ニ設置セル旗竿ニ萬國船舶信號IL又ハ夜間紅白綠ノ三燈ヲ縱ニ連揭シタルトキハ船舶ハ第四航路以外ヲ航行スヘシ

港ノ名稱	航路ノ區域	特定條件
長崎	第一區　陸ノ尾島長刀埼立標ヨリ小ケ倉村千本山鼻立標ニ引キタル線以北及小瀬戸浦立標ヨリ鼠島外端ヲ經テ長刀埼立標ニ引キタル線以東第二區境界線ニ至ル水域	軍艦、帆船、爆發物又ハ容易ニ燃燒スヘキ物件ヲ搭載シ若ハ粉塵ヲ飛散スヘキ物件ヲ積卸スル船舶及雜種船但シ總噸數五百噸未滿ノ帆船及雜種船ハ沿岸附近ニ限ル
	第二區　第一區以外ノ水域	軍艦、總噸數八百噸以上ノ船舶及雜種船但シ雜種船ハ沿岸附近ニ限ル
門司	第一區　柁ケ鼻立標ヨリ彦島弟子待鼻立標ニ引キタル線及白木埼立標ヨリ三百三十二度三十分ニ引キタル線内ノ水域	汽船、帆船及雜種船但シ總噸數八百噸未滿ノ船舶及雜種船ハ沿岸附近ニ限ル
	第二區　第一區以外ノ水域	汽船、帆船及雜種船但シ總噸數五百噸未滿ノ帆船及雜種船ハ沿岸附近ニ限ル

港ノ名稱	航路ノ區域	特定條件
神戸	第三航路　神戸港東防波堤南燈臺及神戸港東防波堤ノ二北燈臺ヨリ各八十七度及二百六十七度ニ引キタル平行線内ニシテ前記燈臺ノ内方ニ於テハ三百米其ノ内方ニ於テハ第二乃至第五航路ノ會合點ニ至ル迄ノ水域	
	第四航路　國産波止場及花隈町ニ建設シタル頭部三角形ノ白色立標ヲ見通シタル線ノ西側六十米ノ幅ニシテ第二乃至第五航路ノ會合點ニ至ル迄ノ水域	
	第五航路　兵庫島上町ニ建設シタル頭部三角形ノ紅色立標二基ヲ見通シタル線ノ南側六十米ノ幅ニシテ第二乃至第五航路ノ會合點ニ至ル迄ノ水域	
大阪	內港ニ出入スル航路　大阪北突堤燈臺ヨリ二百六十度及六十七度ニ引キタル線ノ間ニシテ前記燈臺ノ外方ニ於テハ千米其ノ內方ニ於テハ第一區境界線ニ至ル迄ノ水域	
	安治川筋ニ出入スル航路　前項航路線ノ東端ニ起リ其ノ北線ヲ五十度千九百五十五米其ノ內ノ南線ヲ四十八度二千米各延長シタル二線	
長崎	女神以內ニ出入スル航路　高鉾島南東端、神崎鼻立標ヨリ境界線ニ沿ヒテ百七十米ノ點及遠見鼻立標ヨリ境界線ニ沿ヒテ三百米ノ點ヲ連ヌル線ヨリ境界線ニ沿ヒテ百七十米ノ點及連ヌル線ト薩ノ尾島燈臺、女神立標ヨリ境界線ニ沿ヒテ百二十米ノ點ヲ連ヌル線トノ間ノ水域	

第三號表（爆發物及容易ニ燃燒スヘキ物件表）

爆發物

火藥（有煙火藥、無煙火藥ノ類）

雷酸鹽（雷汞ノ類）

起爆ノ用途ニ供スル窒化物（窒化鉛ノ類）其ノ他ノ起爆劑

ナイトログリセリン及之ヲ主トスル爆發藥（各種ダイナマイトノ類）

棉火藥、硝化棉、鹽素酸鹽類（鹽素酸曹達、鹽素酸加里ノ類）、過鹽素酸鹽類（過鹽素酸加里、過鹽素酸アンモニアノ類）、硝酸鹽類（硝石、智利硝石、硝酸アンモニアノ類）

芳香系列ノ硝化物ニシテ爆發性ヲ有スルモノ（ナイトロベンジン、ピクリン酸ノ類）

實包、空包、藥筒ノ類

火藥又ハ爆藥ヲ裝塡シタル彈丸、信管、雷管ノ類

煙火其ノ他火藥又ハ爆藥ヲ使用シタル火工品（玩具用普通火工品ヲ除ク）

壓縮瓦斯類

容易ニ燃燒スヘキ物件

原油、揮發油、石油、輕油、重油其ノ他ノ石油類

黃燐、赤燐、硫化燐

カリウム、ナトリウム、マグネシウム、過酸化曹達、エーテル、硫化炭素、コロヂウム、メチールアルコホル、ベンゾール、トルオール、ソルベントナフサ、アルコホル、アセトン、キシロール、テレヒン油

セルロイド

濃硫酸、濃硝酸

生石灰、炭化石灰、燐化石灰

其ノ他「エーベル」又ハ「ペンスキー」閉塞發焰試驗器ヲ用ヒ七百六十粍ノ氣壓ニ於テ攝氏三十五度以下ノ溫度ニテ發焰スルモノ

第一號書式　　著港屆

一　船種

一　船名

一　國籍

一　船籍港

一　船舶所有者

一　代理店

一　總噸數

一　登簿噸數

一　最初發航地名及年月日

一　最終發航地名及年月日

一　著港日時

一　船員數　一二等　名（內職員　名）

一　船客數　其ノ他

一　當港下船客數　一二等　其ノ他
一　當港揚荷ノ種類及數量
一　噸稅有效期間
右及屆出候也
年　月　日

何稅關港務部宛

第二號書式　出港屆

一　船種
一　船名
一　國籍
一　最終仕向地
一　最初仕向地
一　當港乘船客數　一二等　其ノ他
一　當港積荷ノ種類及數量
一　出港日時
右及屆出候也
年　月　日

船長氏名

何稅關港務部宛

第三號書式　著發屆

一　船種
一　船名
一　國籍
一　船籍港
一　船舶所有者
一　代理店
一　總噸數
一　登簿噸數
一　最初發航地名及年月日
一　最終發航地名及年月日
一　最終仕向地
一　最初仕向地
一　著港日時
一　出港日時
一　船員數　名（內職員　名）

船長氏名

一　當港下船客數　一二等
　　其ノ他
一　當港乘船客數　一二等
　　其ノ他
一　當港揚荷ノ種類及數量
一　當港積荷ノ種類及數量
一　噸稅有效期間

右及屆出候也

年　月　日

何稅關港務部宛

船長氏名

横濱、神戸、長崎港ニ開港々則實施ノ件

（明治三十一年九月八日遞信省告示第二三一號）

明治三十一年勅令第百三十九號開港々則ハ來十月十日ヨリ横濱港ニ同十一月一日ヨリ神戸港及長崎港ニ之ヲ實施ス

門司港ニ開港港則實施ノ件

（明治三十三年十一月十日遞信省告示第四四九號）

本年十二月一日ヨリ明治三十一年勅令第百三十九號開港々則ヲ門司港ニ實施ス

開港港則ヲ大阪港ニ施行ノ件

（大正十年八月五日遞信省告示第一三六三號）

本月二十日ヨリ明治三十一年勅令第百三十九號開港々則ヲ大阪港ニ實施ス

開港及開港ニ於テ輸出スヘキ貨物ノ指定ニ關スル件

（明治三十二年七月十三日勅令第三四二號）

改正（明治三十二年十二月勅令第四六〇號、三十六年一月同第四號、三十七年四月同第一〇四號、三十八年九月同第一〇號、三十九年三月同第三〇號、六月同第三四號、四十年十月同第三三〇號、十一月同第三四號、四十一年三月同第二五二號、四十二年三月同第二四號、四十三年五月同第一五四號、四十四年六月同第一八七號、大正三年七月同第三三八號、六年八月同第一一三號、八年七月同第二九號、昭和二年十二月同第二一號、三月同第二二號、五年二月同第三五二號、五年二月同第二二號）

第一條　從來ノ開港（神奈川縣横濱、長崎縣長崎、北海道函館、兵庫縣神戸、新潟縣新潟、新潟縣夷及大阪府大阪）ノ外左ノ諸港ヲ開港トス

廳府縣	港名
靜岡	清水
愛知	武豐　名古屋
三重	四日市
岡山	宇野

廣島　尾道糸崎
愛媛　今治
山口　德山　下關　萩
福岡　門司　若松　博多　三池
佐賀　唐津　住ノ江
熊本　三角
鹿兒島　鹿兒島
長崎　嚴原　口ノ津
沖縄　那覇
島根　濱田
鳥取　境
京都　宮津
福井　敦賀
石川　七尾
富山　伏木
秋田　船川

青森　青森
北海道　小樽　根室　釧路　室蘭
樺太　大泊　眞岡

第二條（削除）

第三條　第一條ノ各港ニ於テ滿二年毎ノ輸出入貨物ノ價格五萬圓ニ達セサルトキハ之ヲ閉鎖ス

第一條ノ各港ハ交通ノ發達ニ因リ其ノ附近ノ地ニ新ニ開港ヲ設クル場合ニ於テ將來存置ノ必要ナシト認ムルトキハ前項ノ規定ニ拘ハラス之ヲ閉鎖スルコトヲ得

閉鎖ノ時期ハ三箇月前大藏大臣之ヲ公告スヘシ

附　則

本令ハ關稅法施行ノ日ヨリ施行ス（明治三十二年八月四日ヨリ施行）

開港閉鎖ノ規定ノ適用ニ關スル件

（大正四年七月二十八日　勅令第一四二號）

明治三十二年勅令第三百四十二號第三條第一項ノ規定ハ戰爭又ハ事變ニ因リ輸出入貨物ノ價格所定ノ額ニ達セサル場合ニ於テハ之ヲ適用セス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

內海水道航行規則

（昭和四年二月一日遞信省令第三號）

第一條 本令ハ備讃瀨戸、來島海峽及下關海峽ニ於ケル船舶ニ之ヲ適用ス

本令ニ於テ備讃瀨戸、來島海峽及下關海峽トハ左ノ水域ヲ謂フ

備讃瀨戸　男木島燈臺ヨリ豐島ノ南端、大槌島ノ頂、小與島ノ南端、本島ショケンボ鼻及黑鼻、佐柳島ノ南西端、二面島ノ頂、高見島板持鼻、沖ノ洲挂燈浮標、牛島九五米山ノ頂、三ツ子島燈臺、小瀨居島ノ頂及小槌島ノ頂ヲ經テ男木島ノ南端ニ引キタル線ニ依リ圍マルル水域

來島海峽　蒼社川口ノ東岸ヨリ大島タケノ鼻ニ引キタル線並大下島アゴノ鼻ヨリ梶取鼻及大島宮ノ鼻ニ引キタル線ニ依リ圍マルル水域但シ今治ノ港域ヲ除ク

下關海峽　部埼燈臺ヨリ四十五度（眞方位）二海里ノ點ヨリ部埼燈臺及滿珠島ノ頂ニ引キタル線、滿珠島ノ頂ヨリ串埼ニ引キタル線並和合良島ノ頂ヨリ臺場鼻及堺鼻ニ引キタル線ニ依リ圍マルル水域但シ門司、下關及若松ノ港域ヲ除ク

第二條 船舶ハ左ノ各號ノ場合ヲ除クノ外航路筋ニ於テ碇泊又ハ停留スルコトヲ得ス

一　衝突其ノ他急迫ノ危險ヲ避ケムトスルトキ

二　運轉自由ヲ得サルトキ

三　人命又ハ船舶ノ救助ニ從事スルトキ

四　海底電信電話線又ハ航路標識ノ工事ニ從事スルトキ

五　水路ノ測量又ハ浚渫作業ニ從事スルトキ

六　所轄官廳ノ許可ヲ得テ難破物又ハ沈沒物等ノ引揚其ノ他海中ノ工事ニ從事スルトキ

前項第二號乃至第五號ノ船舶晝間ニ於テ航路筋ニ碇泊スルトキハ法令ニ特ニ規定セル場合ヲ除クノ外最見易キ場所ニ黑球又ハ黑色ノ形象一個ヲ掲クヘシ

第一項第六號ノ船舶晝間ニ於テ航路筋ニ碇泊スルトキハ最見易キ場所ニ紅色ノ方旗ヲ掲クヘシ

前三項ノ規定ハ漁撈中ノ漁船ニハ之ヲ適用セス但シ備讃瀨戸中小與島ノ南端ヨリ小瀨居島ノ頂ニ引キタル線以西ノ水域、來島海峽及下關海峽ニ於テハ漁撈中ノ漁船ヨリ通航船舶ノ進路ヲ避クルコトヲ要ス

第三條 船舶ハ安全ニ替リ行ク餘地ヲ有スル場合ニ非サレハ他ノ船舶ヲ追越スコ

トヲ得ス

汽船他ノ汽船ノ右舷側ヲ航行シテ追越サムトスルトキハ汽笛又ハ汽角ヲ以テ一長聲ニ引續キ一短聲ヲ、其ノ左舷側ヲ航行シテ追越サムトスルトキハ一長聲ニ引續キ二短聲ヲ發スヘシ

第四條 海上衝突豫防法第七條第一項第三號、第四號、同第九條第一項及同第十條第一項ノ規定ニ依リ臨機ニ表示スルヲ以テ足ル船燈ハ第一條ノ水域航行中ノ船舶ニ限リ常ニ之ヲ掲ケ置クヘシ

第五條 汽船ハ備讃瀨戸ニ於テハ左ノ航法ニ依ルヘシ

一 島嶼岬角等ノ爲前面ヲ望見スルコト困難ナル場所ニ於テハ其ノ島嶼岬角等ヲ右舷ニ見ル汽船ハ之ニ近寄リ左舷ニ見ル汽船ハ之ニ遠サカリテ航行スルコト

二 波節岩ハ東行又ハ西行スル汽船ハ之ヲ左舷ニ見テ航行スルコト

第六條 汽船ハ來島海峽ニ於テハ左ノ航法ニ依ルヘシ

一 中水道ハ順潮ノ場合ニ限リ又西水道ハ逆潮ノ場合ニ限リ通航スルコト但シ小島波止濱間ノ水道ヲ通航スル汽船ハ順潮ノ場合ト雖西水道ヲ通航スルコトヲ妨ケス

二 前號ノ規定ニ依リ中水道ヲ通航スル汽船ハ龍神島、津島及アゴノ鼻ニ近寄リ又西水道ヲ通航スル汽船ハ之ニ遠サカリテ航行スルコト卽チ行逢汽船ニ在リテハ南流ニ於テ互ニ右舷ヲ北流ニ於テ互ニ左舷ヲ相對シテ航過スルモノトス

三 第一號但書ノ規定ニ該當スル汽船ハ海峽ノ西側（今治港防波堤燈臺、大濱燈臺、來島白石燈標）ニ近寄リテ航行スルコト

中水道又ハ西水道ヲ通航スル汽船ハ轉流時ニ在リテハ一ノ瀨鼻又ハ龍神島ニ竝航シタルトキヨリ中水道又ハ西水道ヲ通過シ終ル迄汽笛又ハ汽角ヲ以テ數回左ノ信號ヲ爲スヘシ

中水道通航汽船　一長聲

西水道通航汽船　二長聲

小島波止濱間ノ水道ヲ通航スル汽船ハ來島又ハ龍神島ニ竝航シタルトキヨリ西水道ヲ通過シ終ル迄汽笛又ハ汽角ヲ以テ數回三長聲ヲ發スヘシ

第七條 前條ノ潮流ノ流向ニ付テハ中渡島潮流信號所ノ潮流信號ニ又之ニ依リ難キ場合ハ水路部刊行潮汐表ニ依ルモノトス

第八條 汽船ハ下關海峽ニ於テハ左ノ航法ニ依ルヘシ

一　東口ヨリ西行スル汽船ハ火ノ山ノ頂ヨリ鳶ケ巣鼻ニ引キタル線ニ達スル前門司埼燈標ヨリ滿珠島ノ頂ニ引キタル線以北ノ水域ニ入ルコト又東口ニ向ケ東行スル汽船ハ下關高燈ヨリ三角山ノ頂ニ引キタル線ニ達スル前門司埼燈標ヨリ巖流島燈臺ニ引キタル線以北ノ水域ニ入ルコト

二　南水道ヨリ西行スル汽船又ハ南水道ニ向ケ東行スル汽船ハ前號ノ規定ニ拘ラス相互危險ナク通航シ得ル限度ニ於テ出來得ル限リ門司埼ニ近寄リテ航行スルコト（若シ門司埼ニ近寄リテ航行シ能ハサルトキハ前號ノ規定ニ依リテ航行スルコト）

三　第一號ノ汽船行逢ヒタルトキハ互ニ左舷ヲ相對シテ航過スルコト

四　潮流ニ溯リ早鞆瀨戸（柁ケ鼻ヨリ下關低燈ニ引キタル線及鷗ケ鼻ヨリ火ノ山ノ頂ニ引キタル線ニ依リ圍マルル水域）ヲ通航スル汽船ハ潮流ノ速度（水路部刊行潮汐表及下關海峽潮流圖ニ依ル）ヲ超ヘ一時間三海里以上ノ速力ヲ保ツコト

五　下關高燈附近ト山底ノ鼻附近トノ間ニ於テハ航行ニ因リ生スル波浪ノ爲海難其ノ他ノ事故ヲ生セサル程度ノ速力ニテ航行スルコト

帆船ハ早鞆瀨戸ニ於テハ縫航スヘカラス

第九條　船舶ハ船首ヲ回轉スル爲下關海峽ニ於テ投錨スルトキハ晝間ニ在リテハ黑球又ハ黑色ノ形象一個ヲ、夜間ニ在リテハ海上衝突豫防法ニ規定スル船燈ニ加ヘテ紅燈一個ヲ最見易キ場所ニ揭クヘシ

第十條　門司港、下關港又ハ若松港ヨリ出港シタル汽船ニシテ下關海峽ノ東口ニ向ケ航行スルモノハ萬國船舶信號旗Eヲ、又西口ニ向ケ航行スルモノハ同Wヲ各下關海峽ノ航路筋ニ入ル迄前檣又ハ其ノ附近ノ最見易キ場所ニ揭クヘシ但シ平水航路ヲ航路定限ト爲スモノハ此ノ限ニ在ラス

門司港、下關港又ハ若松港ニ入港スル汽船ハ前檣又ハ其ノ附近ノ最見易キ場所ニ左ノ各號ノ規定ニ依リ萬國船舶信號旗ヲ揭クヘシ但シ平水航路ヲ航路定限ト爲スモノハ此ノ限ニ在ラス

一　門司港ニ入港スルモノニシテ錨地指定ニ關スル特定信號ヲ揭ケサルモノ
　　壇ノ浦燈臺、山底ノ鼻間　J旗
二　下關港ニ入港スルモノ　壇ノ浦燈臺、山底ノ鼻間　X旗
三　若松港ニ入港スルモノ　山底ノ鼻、臺場鼻間　Y旗

附　則

本令ハ昭和四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

道路橋梁河川港灣等通行錢徵收ノ件

（明治四年十二月十四日太政官布告第六四八號）

治水修路ノ儀ハ地方ノ要務ニシテ物産蕃盛庶民殷富ノ基本ニ付府縣管下ニ於テ有志ノ者共自費或ハ會社ヲ結ヒ水行ヲ疏シ嶮路ヲ開キ橋梁ヲ架スル等諸般運輸ノ便利ヲ興シ候者ハ落成ノ上功費ノ多寡ニ應シ年限ヲ定メ稅金取立方被差許候間地方官ニ於テ此旨相心得右等ノ儀願出候者有之節ハ其地ノ民情ヲ詳察シ利害得失ヲ考ヘ入費稅金ノ制限等篤ト取調大藏省ヘ可申出事但本文ノ趣管内無漏可相達事

道路橋梁河川港灣等通行錢徵收ニ關スル命令書下附ノ件

（明治十七年九月十七日第一四六號各地方長官宛、土木局長通牒）

人民一己若ハ組合會社等ノ資金ヲ以テ道路、橋梁、港灣、渡津等ヲ新設又ハ修築シ其ノ費目ヲ償却スル爲メ通行ノ人馬車或ハ出入ノ船舶貨物ヨリ道錢、橋錢、渡船賃等ヲ收入センコトヲ出願シ本省ヘ御稟申ノ節ハ該事業ノ設計工法調書及繪圖竝償却金仕譯書ニ本人若クハ組合會社財産ノ調書ヲ添ヘ爲差出御廳ニ於テハ地元竝關係町村ニ於テ故障ナキ旨ヲ證明セラレ別紙ノ雛形ニ依リ尙實地ニ就キ篤ト御取捨斟酌シ願人ヲシテ遵守セシムヘキ命令書案ヲ製シ御差出有之度此段御通牒候也

（別紙）

道路開設（或ハ何々）ニ付免許命令書按

第一條 何府縣下何國何郡何町村ヨリ何町村迄（或ハ何國何郡何町村迄）私費ヲ以テ新道ヲ開設スルニ付（或ハ何々ニ付）免許人ハ左ノ各條ヲ遵守ス可シ

第二條 免許人ハ都テ官廳ノ許可シタル設計及工法ニ從ヒ成工セシム可シ

第三條 免許人ハ實地起業ノ前日迄身元保證トシテ凡工費豫算總額ノ幾分一（二十分一以上十分一迄工事ノ模樣ニ依リ之ヲ定ム）ニ當ル金額（國立銀行ノ預手形）若ハ此金額ニ相當スル公債證書ヲ官廳ニ差出ス可シ官廳ハ工業竣功檢査濟ノ後之ヲ還付ス可シ

第四條 該事業ハ免許ヲ得タル後何ケ月内ニ起工シ其起工シタル月ヨリ何ケ月以内ニ竣功セシム可シ

第五條 官廳ハ工事ヲ監督スルニ當リ實地ノ利害ニ因リ設計及工法ノ變更ヲ命スルコトアル可シ之カ爲豫算金額十分一迄增費ヲ要スルモ免許人ハ其工事ノ變更ヲ拒ムヲ得ス

第六條 免許人免許ヲ得タル後何ケ月ヲ經テ起工セス又ハ起工後何ケ月間ニ竣功セス若ハ第二條ニ示シタル設計工法及第五條ノ場合ニ於テ官廳ヨリ命スル設計工法ニ違背シタルトキハ其免許ヲ解クコトアル可シ

但天災又ハ已ムヲ得サル事故ニ因リ工事遲延シタルコトヲ證明シ官廳ニ於テ是認シタルトキハ更ニ相當ノ延期ヲ與フルコトアル可シ

第七條 前條ニ依リ免許ヲ解ク場合ニ於テハ自費ヲ以テ原形ニ復セシム可シ若シ速ニ其ノ令ニ從ハサルトキハ身元保證金ヲ以テ其ノ費用ニ供シ剩餘アルモノハ之ヲ還付シ不足アルモノハ之ヲ償ハシム可シ但既ニ仕拂ヒタル工費ハ免許人ノ損失トス

第八條 免許人竣功公告ノ當日ヨリ何年間定メノ如ク通行ノ人馬牛車等（或ハ出入ノ船舶貨物）ヨリ道錢（或ハ橋錢、渡船賃其ノ他港錢等）ヲ收入スルヲ得可シ

第九條 免許年期間ハ通常修繕及一切ノ保存法共免許人ニ於テ擔當處辨ス可シ

第十條 免許年期間免許人ニ於テ前條ノ修繕及保存ヲ怠リ官廳ノ督促ヲ受クルモ尚之ヲ奉セサルトキハ官廳ハ其ノ免許ヲ解キ第七條ニ照シ處分スルカ（或ハ其ノ之ヲ奉スルニ至ル迄臨時營業ヲ停止セシムルカ）又ハ官廳自ラ修繕ヲ行ヒ其ノ收入金ヲ抑ヘテ該費ヲ支辨スルコトアル可シ

第十一條 免許人ハ常ニ該工事ニ關スル諸簿册及計算書類ヲ整頓シ置キ官廳ノ需メニ應シ其檢閲ニ供ス可シ

第十二條 免許人ハ毎年何月迄ニ前年度ニ係ル出納決算書ヲ作リ之ヲ官廳ニ差出ス可シ

第十三條 免許人ハ官廳ノ許可ヲ得ルニアラサレハ免許ノ權利ヲ他ニ讓與スルヲ得ス

但工業竣成ニ至ラサル間ハ讓與ノ許可ヲ請フヲ得サルモノトス

第十四條 免許人ニ於テ若シ疾病事故アリテ事業ヲ果サヽルトキハ保證人引受一切ノ諸當務ヲ盡ス可シ

第十五條 免許人ハ既成ノ構造物ヲ他人ニ抵當トシテ金員其他ヲ借入ルヽヲ得ス

第十六條 免許期限中ト雖モ官ノ都合ニ依リテハ資金償却方法書ニ據リ元利金ノ内既往ニ屬スル收入金（償却方法書ニ掲クル豫算ニ依ル）ヲ控除シ全ク未償却金額ヲ以テ買上クルコトアル可シ

第十七條 該事業ヲ起シタルカ爲メ他ニ妨碍ヲ生スルコトアルトキハ免許人ハ官廳ノ指揮ニ從ヒ自費ヲ以テ之ヲ解除ス可シ

第十八條 免許滿期ノ後ハ敷地及構造物共無代價ニテ官有ニ歸スルモノトス

第十九條 一般ノ法律規則ノ爲メ該事業ニ不利アルモ免許人ハ官廳ニ對シ其ノ補償ヲ請求スルヲ得ス

第二十條 免許人ニ於テ前々條ニ違背スルトキハ官廳ハ何時ニ拘ラス免許ヲ解キ第七條ニ照シ處分ス可シ

道路橋梁河川港灣等通行錢徴收ニ關スル命令書按中官有ノ文字解釋ノ件

（明治二十八年一月三十一日土甲第六號各地方長官宛、土木局長通牒）

明治二十七年六月七日土甲第二八號ヲ以テ私費橋梁等ニ關スル命令書中官有ノ文字解釋方ニ付及通牒置候處右ハ今般官有ノ文字ヲ用ヰタル當時ノ意義如何ニ依リ解釋スヘキコトニ決定相成候條左ノ趣旨ニ依リ御處分相成可然存候

國有ニ歸セシムルノ意義ヲ以テ命令相成リタルモノハ期限滿了ノ上ハ之ヲ國有トシ其ノ府縣又ハ市町村ニ歸セシムル意義ヲ以テ命令相成リタルモノハ期限滿了ノ上ハ之ヲ府縣又ハ市町村有トシ總テ當該道路負擔者ニ其ノ維持ヲ負擔セシム

右依命更ニ及通牒候也

市町村ニ於テ施設スル公共用棧橋ノ使用料徴收ニ關スル件

（大正十五年七月二十日發土第二六號沿海各地方長官宛、土木局長通牒）

市制町村制施行令第五十九條第三號ノ規定ニ依リ市町村ニ於テ施設スル棧橋ノ使用料徴收條例ハ府縣知事ノ許可ヲ受クルコトト相成候處市町村ノ施設スル公共用棧橋ニ付使用料ヲ徴收スルカ爲ニハ明治四年十二月十四日太政官布告第六四八號ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受クルコトヲ必要トシ其ノ許可ニ基キ市町村ハ或ハ條例ヲ以テ使用料徴收ノ規定ヲ定ムルノ次第ニ有之從テ右太政官布告ニ基ク許可及大正十一年内務省訓令第六號第三條ニ基ク稟伺ハ右施行令ノ施行セラレタル現在ニ於テモ之ヲ必要トスル義ニ有之候條爲念及通牒候也

追テ府縣ノ施設スル棧橋繫船浮標ニ付テモ本文同樣ニ付爲念申添候

參照

市制町村制施行令

第五十九條 抄

市町村行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要スル事項中左ニ掲クルモノハ府縣知事之ヲ許可スヘシ

三　浴場、共同宿泊所、病院、消毒所、住宅、産婆、胞衣及産穢物燒却場、市場、屠場、墓地、火葬場、棧橋、林野、土地、通船、用水、溜池其ノ他之ニ類スルモノノ管理及使用竝ニ其ノ使用料ニ關スル條例ヲ設ケ又ハ改正スルコト

岸壁等ノ使用料ニ關スル件

（昭和七年五月十日河第六九七號　北海道廳長官照會）

北海道拓殖費ヲ以テ修築シタル港灣ノ岸壁等ハ其ノ築造ノ目的ノ一般公共ノ利用ニ供スルニアルヲ以テ完成ノ上ハ其ノ目的ノタメニ使用セシムヘキモ此ノ場合何等ノ制限ナク任意ニ使用セシムルコトハ實際管理上支障ヲ來スヲ以テ使用ニ關スル統制上相當ノ機關ヲ設ケ之ヲシテ管理ノ任ニ當ラシムルノ必要アリト被認候處右ニ關聯シ左記事項疑義ニ付至急何分ノ義御回示相仰度此段稟請候也

記

一　岸壁等ノ使用統制ノタメ國ニ於テ相當ノ機關ヲ設ケテ管理スルコトハ現今我國ニ於テハ關稅徵收ノ必要アル場合ノ外其ノ例ヲ見サル處ナリ依テ地方自治團體ヲシテ之ニ當ラシムルヲ適當トスルモ之カタメニハ相當ノ經費ヲ要スルヲ以テ之ヲ償フタメ使用料ヲ徵收スルノ必要ヲ生スヘシ此ノ場合該地方自治團體カ其ノ港灣ノ修築費又ハ其ノ岸壁ノ築造費ヲ支出セサルモ尙使用料ヲ徵收シ得ヘキヤ

二　又岸壁ノ築造ニ當リ拓殖費豫算ノ關係上其ノ築造費ノ約八割ヲ該岸壁ノ利用ニ密接ノ關係ヲ有スル民間鐵道會社ヨリ寄附（經費分擔ニアラス）ヲ受ケ施行シタル實例アリ此ノ場合右寄附者ハ明治四年太政官布告第六四八號ニ依リ使用料ヲ徵收シ得ルヤ

同　件

（昭和七年十一月二十二日甲第一五號　北海道廳長官宛、土木局長回答）

昭和七年五月十日附河第六九七號ヲ以テ御照會相成候標記ノ件左記ノ通御承知相成度

記

一　地方自治團體ヲシテ岸壁等ヲ管理セシメ之カ使用料ヲ徵收セシメ得ルハ明治四年太政官布告第六四八號ニ依ル場合カ或ハ大正九年勅令第八二號ニ依ル場合ニ限ラル、義ニ有之從テ本件ノ如ク右何レノ場合ニモ該當セサルモノニ在リテハ不可然義ト存候

二　不可然義ト存候

神戸鐵道棧橋使用規則

（大正十四年八月十一日鐵道省告示第一五二號）

改正（大正十五年一月鐵道省告示第一〇號）

第一條　神戸鐵道棧橋ハ鐵道ニ跨リ運送セラルル貨物及省用品ヲ陸揚若ハ船積スル船舶ヲ繫留セシムルモノトス但シ必要ニ依リ其ノ他ノ船舶ヲ繫留セシムルコトヲ得

第二條　棧橋ニ船舶ヲ繫留セントスル者ハ別記第一號樣式ノ繫船申込書ヲ棧橋長ニ提出シ之カ承認ヲ受クヘシ

棧橋長ハ前項ノ申込書ヲ調査シ差支ナシト認ムルトキハ別記第二號樣式ノ承認證ヲ交付スヘシ

第三條　繫船承認證ハ料金收入ノ證ニ之ヲ兼用シ甲片ハ申込者ニ交付シ乙片ハ所屬鐵道局經理課（調査掛）ニ送付シ丙片ハ控トシテ發行者ニ於テ保管スルモノトス

繫船料ノ還付ヲ爲ス場合ハ別ニ定ムル荷物賃訂正通知書ヲ發行スルモノトス

第四條 繫船料金ハ左ノ通トス

一 噸數又ハ石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ハ登簿噸數一噸又ハ積石數十石ニ付　毎一日　金四錢

一 其ノ他ノ船舶ハ其ノ全長一尺ニ付　毎一日　金參錢

前項ノ繫船日數ハ二十四時間ヲ以テ一日トス但シ二十四時間未滿ノ端數ハ一日トシテ計算ス

第一項ノ料金計算ニ關シ一噸、十石又ハ一尺未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ算入セス

第五條 繫船時間ヲ延長セントスル者ハ期間滿了三時間前ニ其ノ日時ヲ棧橋長ニ申出テ之カ承認ヲ受クヘシ

棧橋長ニ於テ前項ノ申出ヲ承認シタルトキハ繫船承認證ニ延期期間ヲ記入スヘシ

第六條 繫船申込者ニ於テ繫船又ハ其ノ延期ノ承認ヲ受ケタル時ハ直ニ繫船料ヲ納付スヘシ

第七條 繫船ノ承認ヲ受ケタル船舶ハ棧橋長ノ指定スル箇所ニ繫留スヘシ

棧橋長ハ必要ニ應シ繫留箇所ヲ變更シ又ハ一時棧橋ヲ離レシムルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於ケル費用ハ棧橋使用者ノ負擔トス

前項ニ依リ棧橋ヲ離レタル時間ハ第四條ノ繫船時間中ニ算入セス

第八條 棧橋長ハ必要ニ應シ繫留ノ承認ヲ取消スコトヲ得

前項ノ場合ヲ除クノ外既納繫船料ハ之ヲ還付セス

第九條 船舶カ棧橋ヲ離レントスルトキハ船長ハ其ノ旨棧橋長ニ屆出ツルコトヲ要ス

第十條 棧橋ニ於テハ一平方呎ニ付三分ノ一噸以上負荷スル重量品、爆發質若ハ燃燒質ノ物品又ハ他物ヲ汚染スル虞アル物品ノ陸揚、船積ヲ爲スコトヲ得サルモノトス但シ棧橋長ノ承認ヲ得タル場合ハ此ノ限ニア

ラス

棧橋長ハ必要ニ應シ前項以外ノ物品ト雖モ陸揚若ハ船積ヲ禁止スルコトヲ得

第十一條 繫留中ノ船舶ハ棧橋及其附近ニ於テ塵芥、灰燼、荷足等ヲ投棄スルコトヲ得ス

第十二條 繫留中ノ船舶ハ棧橋又ハ船舶ノ甲板上ニ於テ火氣ヲ使用シ又ハ「ピッチ」「タール」其ノ他ノ燃燒性ノ物ヲ煖ムルコトヲ得ス

第十三條 繫留中ノ船舶ニ傳染病患者又ハ失火アリタルトキハ船長ハ直ニ之ヲ棧橋長ニ報告スヘシ

第十四條 故意又ハ過失ニ依リ棧橋ヲ毀損シタルトキハ棧橋長ハ繫船申込者ヲシテ之カ修繕ヲ爲サシムルモノトス

前項ノ場合ニ於テ繫船申込者カ遲滯ナク之カ修繕ヲ爲ササルトキハ省ニ於テ施工シ其ノ費用ヲ徵收スルモノトス

第十五條 本規定ニ違背シ又ハ棧橋長ノ指揮ニ從ハサル船舶ハ棧橋ヨリ退去セシムルコトアルヘシ

附則

第十六條 神戸鐵道棧橋繫船規約ハ之ヲ廢止ス

第十七條 本規則ハ大正十四年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

（第一號樣式）

（六寸五分）

繫船申込書

船種船名		國籍	
登簿噸數又ハ積石數		船主又ハ貸人船傭者	
船ノ全長		船長氏名	
繫船期間	自　月　日午　時　時間 至　月　日午　時	入港吃水 總噸數	
繫船延期期間	自　月　日午　時　時間 至　月　日午　時	陸揚又ハ船積品及數量名	
摘要			

（五寸）

鐵道省繫船承認證　甲　乙　丙 No. 15

船種船名　丸

登簿噸數又ハ積石數

船ノ全長

繫船期間　自　月日　時刻午前午後　至　月日　時刻午前午後　計算期間日時　割合　繫船料　記事

繫船延期期間

摘要

大正　年　月　日　鐵道局　棧橋長㊞

（六分）（六寸九分）

（四寸五分）

（黑色刷）

（炭酸紙用）

鐵道棧橋使用規則承知ノ上申込候也

大正　年　月　日

申込者　㊞

鐵道省御中

上部左方ニ繫船承認證番號ヲ記入ノ上驛ニ保存スルモノトス

本書ハ省ニ於テ之ヲ設備シ申込者ノ請求ニ依リ交付スルモノトス

甲片ハ洋紙　乙、丙片ハ薄葉紙トス

甲、乙片ハ丙片ト同一トス但シ甲、乙片ニハ綴目ニ切斷線ヲ設ク

敦賀鐵道棧橋使用規則

（大正十四年十一月二十七日鐵道省告示第二二七號）改正（大正十五年一月鐵道省告示第一〇號）

第一條 敦賀鐵道棧橋ニ船舶ヲ繫留セントスルモノハ別記第一號樣式ノ繫船申込書ヲ棧橋長ニ提出シ之カ承認ヲ受クヘシ

棧橋長ハ前項ノ申込書ヲ調査シ差支ナシト認ムル時ハ別記第二號樣式ノ承認證ヲ交付スヘシ

第二條 繫船承認證ハ料金收入ノ證ニ之ヲ兼用シ甲片ハ申込者ニ交付シ乙片ハ所屬鐵道局經理課（調査掛）ニ送付シ丙片ハ控トシテ發行者ニ於テ保管スルモノトス

繫船料ノ還付ヲ爲ス場合ハ別ニ定ムル荷物賃訂正通知書ヲ發行スルモノトス

第三條 繫船料金ハ左ノ通トス

一、船舶所屬國ノ積量測度方法ニ依ル

登簿噸數一噸ニ付　毎一日　金二錢

前項ノ繫船日數ハ二十四時間ヲ以テ一日トス但シ二十四時間未滿ノ端數ハ一日トシテ計算ス

第一項ノ料金計算ニ關シ一噸未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ算入セス

第四條 繫船時間ヲ延長セントスル者ハ期間滿了三時間前ニ其ノ日時ヲ棧橋長ニ申出テ之カ承認ヲ受クヘシ

棧橋長ニ於テ前項ノ申出ヲ承認シタルトキハ繫船承認證ニ延期期間ヲ記入スヘシ

第五條 繫船申込者ニ於テ繫船又ハ其ノ延期ノ承認ヲ受ケタルトキハ直ニ繫船料ヲ納付スヘシ

第六條 繫船ノ承認ヲ受ケタル船舶ハ棧橋長ノ指定スル箇所ニ繫留スヘシ

棧橋長ハ必要ニ應シ繫留箇所ヲ變更シ又ハ一時棧橋ヲ離レシムルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於ケル費用ハ棧橋使用者ノ負擔トス

前項ニ依リ棧橋ヲ離レタル時間ハ第三條ノ繫船時間中ニ算入セス

第七條 棧橋長ハ必要ニ應シ繫留ノ承認ヲ取消スコトヲ得

前項ノ場合ヲ除クノ外既納繫船料ハ之ヲ還付セス

第八條 船舶カ棧橋ヲ離レントスルトキハ船長ハ其ノ旨棧橋長ニ屆出ツルコトヲ要ス

第九條 棧橋ニ於テハ一平方呎ニ四百封度以上負荷スル重量品、爆發質若ハ燃燒質ノ物品又ハ他物ヲ汚染スル虞アル物品ノ陸揚船積ヲ爲スコトヲ得サルモノトス但シ棧橋長ノ承認ヲ得タル場合ハ此ノ限ニアラス

棧橋長ハ必要ニ應シ前項以外ノ物品ト雖モ陸揚若ハ船積ヲ禁止スルコトヲ得

第十條 繫留中ノ船舶ハ棧橋及其ノ附近ニ於テ塵芥、灰盡、荷足等ヲ投棄スルコトヲ得ス

第十一條 繫留中ノ船舶ハ棧橋又ハ船舶ノ甲板上ニ於テ火氣ヲ使用シ又ハ「ピッチ」「タール」其ノ他燃燒性ノ物ヲ煖ムルコトヲ得ス

第十二條 船舶繫留ニ要スル機具人夫及棧橋ヨリ陸揚シ又ハ船積スル貨物ノ運搬ニ要スル車輛等ハ使用者ニ於テ準備スヘシ但シ棧橋ヲ毀損スル虞アルモノヲ使用スルコトヲ得ス

第十三條 繫留中ノ船舶ニ傳染病患者又ハ失火アリタルトキハ船長ハ直ニ之ヲ棧橋長ニ報告スヘシ

第十四條 故意又ハ過失ニ依リ棧橋ヲ毀損シタルトキハ棧橋長ハ繫船申込者ヲシテ之カ修繕ヲナサシムルモノトス

前項ノ場合ニ於テ繫船申込者カ遲滯ナク之カ修繕ヲ爲ササルトキハ省ニ於テ施工シ其ノ費用ヲ徵收スルモノトス

第十五條 本規定ニ違背シ又ハ棧橋長ノ指揮ニ從ハサル船舶ハ棧橋ヨリ退去セシムルコトアルヘシ

附則

第十六條　大正二年十二月鐵道院告示第百二十五號敦賀鐵道棧橋使用規則ハ之ヲ廢止ス

第十七條　本規則ハ大正十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

（第一號樣式）　（六寸五分）

（別記）

繫船申込書

船種船名		國籍	
登簿噸數		船主又ハ貸借人若ハ傭船者	
船ノ全長		船長氏名	
繫船期間	自　月　日午　時 至　月　日午　時　時間	入港吃水	
		總噸數	
繫船延期期間	自　月　日午　時 至　月　日午　時　時間	陸揚又ハ船積品名及數量	
摘要			

……鐵道棧橋使用規則承知ノ上申込候也

大正……年……月……日

申込者……㊞

鐵道省御中

（五寸）

上部左方ニ繫船承認證番號ヲ記入ノ上驛ニ保存スルモノトス

本書ハ省ニ於テ之ヲ設備シ申込者ノ請求ニ依リ交付スルモノトス

（第二號樣式）

（六寸九分）　甲　乙

（六分）

鐵道省繫船承認證　丙 No. 15

（黒色刷）

船種船名……丸　登簿噸數……船ノ全長……

	自 月日	自 時刻 午前	自 時刻 午後	至 月日	至 時刻 午前	至 時刻 午後	計算期間 日	計算期間 時	割合	繫船料	記事
繫船期間											
繫船延期期間											
摘要							計算期間合計				
							追徵ヲ要スヘキ料金				

（四寸五分）

大正……年……月……日

鐵道局……棧橋長㊞

（炭酸紙用）

甲片ハ洋紙　乙、丙片ハ薄葉紙トス

甲、乙片ハ丙片ト同一トス但シ甲、乙片ニハ綴目ニ切斷線ヲ設ク

稅關棧橋及繫船岸壁使用規則

（大正六年十二月一日 大藏省令第三四號）

第一條 稅關所屬ノ棧橋又ハ繫船岸壁ニ船舶ヲ繫留セムトスル者ハ附錄樣式ノ申請書ヲ稅關ニ提出シ許可ヲ受クヘシ

第二條 前條ノ許可ヲ受ケタル者ハ左ノ使用料ヲ納付スヘシ但シ一噸未滿ノ端數ハ之ヲ計算セス

一 繫留二十四時以內ノトキ　登簿噸數一噸ニ付　二錢

二 繫留二十四時ヲ超ユルトキ　同　同　三錢

三 繫留九十六時ヲ超ユルトキ　同　前號ノ金額ニ超過時間二十四時迄每ニ一錢ヲ加フ

前項ノ繫留時間ニハ稅關ノ休日及稅關長ノ命令ニ依リ一時棧橋又ハ繫船岸壁ヲ離レタル時間ヲ算入セス但シ稅關ノ休日カ船舶ヲ繫留ノ初日又ハ解纜シタル日ナルトキ又ハ貨物積卸ノ特許ヲ受ケタル日ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三條 許可ヲ受ケタル繫船期間滿了後尙引續キ繫留セムトスル者ハ附錄樣式ノ申請書ヲ稅關ニ提出シ許可ヲ受クヘシ

前項ノ許可ヲ受ケタル場合ニ於テ納付スヘキ使用料ハ最初繫留ノ時ヨリ通算シタル繫留時間ニ相當スル使用料額ヨリ既納ノ分ヲ控除シタル金額トス

第四條 繫留ノ許可ヲ受ケタル船舶ハ稅關ノ指定スル場所ニ繫留スヘシ

稅關長ハ必要ト認ムル場合ニ於テ繫留場所ヲ變更シ若ハ一時之ヨリ離レシムルコトアルヘシ

第五條 稅關長ハ必要ト認ムル場合ニ於テ繫留ノ許可ヲ取消スコトヲ得此ノ場合ニ於テ既納ノ使用料ハ之ヲ還付ス

第六條 既納ノ使用料ハ前條ノ場合ヲ除クノ外之ヲ還付スルコトナシ

第七條 爆發質若ハ燃燒質ノ物品、石炭、荷足又ハ他物ヲ汚瀆スヘキ物品ハ棧橋又ハ繫船岸壁ニ於テ陸揚若ハ船積スルコトヲ得ス但シ稅關長ノ許可ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラス

稅關長ハ必要ト認ムル場合ニ於テハ前項以外ノ物品ト雖尙棧橋又ハ繫船岸壁ニ於テ之カ陸揚若ハ船積ヲ禁スルコトヲ得

第八條 繫留中ノ船舶、棧橋又ハ繫船岸壁ニ於テ「ピッチ」「タール」其ノ他燃燒質ノ物品ヲ煖ムルコトヲ得ス

第九條 繫留中ノ船舶ハ塵芥、灰燼、荷足等ヲ棧橋又ハ繫船岸壁ニ投棄スルコトヲ得ス

第十條 繫留中ノ船舶本令ノ規定又ハ稅關長ノ命令ニ違反スルトキハ稅關長ハ直ニ其ノ繫留場所ヨリ離レシムルコトアルヘシ

第十一條 稅關長ハ必要ト認ムル場合ニ於テ棧橋又ハ繫船岸壁ニ立入ルコトヲ禁止シ若ハ之ヲ制限スルコトヲ得

第十二條 稅關長ハ大藏大臣ノ認可ヲ得テ定期航海船又ハ常時棧橋又ハ繫船岸壁ヲ使用スル船舶業者ニ對シ期間ヲ定メテ使用料減額ノ特約ヲ爲スコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

橫濱稅關棧橋使用規則、明治四十二年大藏省令第八號及大正二年大藏省令第二十七號ハ之ヲ廢止ス

No.

繫船 繫船繼續 許可書 棧橋 岸壁

船名	
船主又ハ傭船者	
船舶國籍	
航路	
全長	
入港吃水	
總噸數	
登簿噸數	
繫船 繫船繼續 期間	
使用料	
申請者 申請年月日	

No.

繫船 繫船繼續 許可申請書 棧橋 岸壁

船名	
船主又ハ傭船者	
船舶國籍	
航路	
全長	
入港吃水	
總噸數	
登簿噸數	
繫船 繫船繼續 期間	
使用料	
申請者 申請年月日	

横濱稅關棧橋及繫船岸壁使用料ニ關スル件

（大正十五年十月十二日 大藏省令第四三號）

横濱稅關棧橋及繫船岸壁ノ使用料ハ當分ノ内大正六年大藏省令第三十四號第二條第一項第一號乃至第三號ニ依ラス左記ニ依ル

一　繫留二十四時以内ノトキ　登簿噸數一噸ニ付　一錢
二　繫留二十四時ヲ超ユルトキ　同　一錢五厘
三　繫留九十六時ヲ超ユルトキ　同　前號ノ金額ニ超過時間二十四時迄毎ニ五厘ヲ加フ

附則

本令ハ大正十五年十月十五日ヨリ之ヲ施行ス
大正十二年大藏省令第三十一號ハ之ヲ廢止ス

繫船浮標使用料ニ關スル規程

（昭和二年四月十五日 遞信省告示第九四〇號）

開港港則施行規則第七條第三項ノ規定ニ依リ繫船浮標使用料ニ關スル規程左ノ通定メ昭和二年四月二十日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十一年十月遞信省告示第二百六十六號及大正十年六月兵庫縣告示第四百九號ハ同日ヨリ之ヲ廢止ス

第一條　稅關港務部所屬繫船浮標ノ使用料ハ使用時間二十四時間ニ付左ノ區別ニ依リ之ヲ徵收ス但シ二十四時間未滿ノ端數ハ二十四時間トシテ計算ス

一　總噸數五千噸未滿ノ船舶　十圓
二　總噸數一萬噸未滿ノ船舶　十五圓
三　總噸數一萬五千噸未滿ノ船舶　二十三圓
四　總噸數一萬五千噸以上ノ船舶　三十圓

第二條　前條ノ使用時間ハ港長ニ於テ指定ノ時ヨリ起算ス

第三條　既納ノ使用料ハ使用者ニ於テ繫船浮標ヲ使用セサル場合ト雖之ヲ還付セス

航路標識條例

（明治二十一年十月十一日 勅令第六七號）

第一條 航路標識ハ航路ノ安寧ヲ保護スル爲メ政府ニ於テ之ヲ設置スルモノトス

第二條 土地ノ形狀又ハ狀況ニ由リテハ〔地方稅〕又ハ區町村費ヲ以テ航路標識ヲ設置スルコトヲ得此場合ニ於テハ地方長官ニ於テ遞信大臣ノ許可ヲ受クヘシ

從來私設ノ航路標識ハ免許年限間之ヲ繼續スルコトヲ得

遞信大臣ニ於テ前二項ノ航路標識不完全ニシテ危害アリト認メタルトキハ之ヲ變更又ハ撤去セシムルコトヲ得

政府ニ於テ直接管理ヲ必要トスルトキハ相當ノ價格ヲ以テ第一項第二項ノ航路標識ヲ買上ルコトヲ得

第三條 航路標識ヲ損壞シ又ハ移轉シ又ハ其ノ性質ヲ變更シ又ハ之ヲ蔽遮スヘキ所爲ヲナシ又ハ遞信大臣ノ指定シタル區域內ニ於テ航路標識ノ燈光若クハ警號ト誤認シ易キ所爲ヲナシタル者ハ十一日以上三年以下ノ〔重禁錮〕ニ處シ又ハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四條 航路標識ニ船筏其ノ他ノ物ヲ繫キ又ハ衝突セシメ又ハ攀躋シ又ハ之ヲ汚穢シタル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

航路標識ノ位置變更廢停具申及報告方

（明治二十一年十月三十一日 遞信省訓令第一〇號）

第一條 航路標識條例第二條第一項ニ依リ〔地方稅〕又ハ區町村費ヲ以テ航路標識ヲ設置セントシ地方長官ニ於テ遞信大臣ノ許可ヲ請フトキハ左ノ書類ヲ具スヘシ

一 航路標識設置位置及其ノ近傍實測地圖

二 航路標識圖面及其ノ構造方法竝費用調書

三 一ケ年間入港スヘキ日本形船西洋形船員數及其石數噸數竝其ノ最大船舶石數又ハ噸數概算調書

其ノ位置ヲ變更セントスルトキハ第一項ノ書類又ハ其ノ性質ヲ變更セントスルトキハ第二項ノ書類ヲ具シ遞信大臣ニ經伺ノ上之ヲ變更スヘシ

第二條 前條航路標識ヲ設置シ若クハ其ノ位置又ハ性質ヲ變更シ或ハ之ヲ停止若クハ廢止スルトキハ當省ヨリ告示スヘキヲ以テ地方長官ハ豫メ其ノ實施期限ヲ遞信大臣ニ報告スヘシ

第三條 船舶繫留等ノ爲メ棧橋又ハ埠頭ニ設置スル標識ハ航路標識ト誤認シ易キ虞アルヲ以テ其ノ設置變更等ハ都テ地方長官ニ於テ遞信大臣ニ經伺ノ上若シ航路ニ障碍アリト認ムルトキハ變更又ハ撤去ヲ命スヘキ旨趣ヲ以テ之ヲ許可スヘシ

私設航路標識取締條規

（明治二十二年三月十四日 遞信省令第二號）

第一條 私設航路標識建設人ニ於テ標識ノ位置又ハ性質ヲ變更セント欲スルトキハ其事由ヲ具シ管轄廳ヲ經由シテ遞信大臣ニ願出ツヘシ

第二條 前條航路標識ノ位置又ハ性質ヲ變更シ或ハ之ヲ停止若クハ廢止セントスルトキハ其實施期限ヲ定メ

二箇月以前管轄廳ヲ經由シテ遞信大臣ニ屆出ツヘシ

第三條 私設航路標識建設人ハ標識看守上ニ付遞信省〔燈臺局〕又ハ〔同局〕派遣ノ視察官吏ヨリ教示スルコトアルトキハ之ヲ遵守スヘシ

第四條 私設航路標識ニシテ燈費ヲ徵收スルモノハ建設人ニ於テ帳簿ヲ備ヘ其徵收額及維持費支出額ヲ記載シ置キ遞信省〔燈臺局〕派遣視察官吏ノ檢閱ヲ受クヘシ

地租法

（昭和六年三月三十一日 法律第二八號）

第一章 總則

第一條 本法施行地ニアル土地ニハ本法ニ依リ地租ヲ課ス

第二條 左ニ掲クル土地ニハ地租ヲ課セス但シ有料借地ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

一 國、府縣、市町村其ノ他勅令ヲ以テ指定スル公共團體ニ於テ公用又ハ公共ノ用ノ用ニ供スル土地

二 府縣、市町村其ノ他勅令ヲ以テ指定スル公共團體ニ於テ公用又ハ公共ノ用ニ供スルモノト決定シタル其ノ所有地但シ其ノ決定ヲ爲シタル日ヨリ一年內ニ公用又ハ公共ノ用ニ供セサルモノヲ除ク

三 府縣社地、鄕村社地、招魂社地

四 墳墓地

五 公衆用道路、鐵道用地、軌道用地、運河用地

六 用惡水路、溜池、堤塘、井溝

七　保安林

第三條　土地ニハ一筆毎ニ地番ヲ附シ其ノ地目、地積及賃貸價格（無租地及免租年期地ニ付テハ賃貸價格ヲ除ク）ヲ定ム

第四條　稅務署ニ土地臺帳ヲ備ヘ左ノ事項ヲ登錄ス

一　土地ノ所在

二　地番

三　地目

四　地積

五　賃貸價格

六　所有者ノ住所及氏名又ハ名稱

七　質權又ハ百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ノ目的タル土地ニ付テハ其ノ質權者又ハ地上權者ノ住所及氏名又ハ名稱

本法ニ定ムルモノノ外土地臺帳ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條　地番ハ市町村、大字、字又ハ之ニ準スヘキ地域ヲ以テ地番區域トシ其ノ區域毎ニ起番シテ之ヲ定ム

第六條　有租地ノ地目ハ土地ノ種類ニ從ヒ左ノ如ク區別シテ之ヲ定ム

第一類地　田、畑、宅地、鹽田、鑛泉地

第二類地　池沼、山林、牧場、原野、雜種地

無租地ノ地目ハ第二條第三號乃至第七號ノ土地ニ在リテハ各其ノ區別ニ依リ、其ノ他ノ土地ニ在リテハ其ノ現況ニ依リ適當ニ區別シテ之ヲ定ム

第七條　地積ハ左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ定ム

一　宅地及鑛泉地ノ地積ハ平方メートルヲ單位トシテ之ヲ定メ一平方メートルノ百分ノ一未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ

二　宅地及鑛泉地以外ノ土地ノ地積ハアールヲ單位トシテ之ヲ定メ一アールノ百分ノ一未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ但シ一筆ノ地積一アールノ百分ノ一未滿ナルモノニ付テハ一アールノ一萬分ノ一未滿ノ端數ヲ切捨ツ

第八條　地租ノ課稅標準ハ土地臺帳ニ登錄シタル賃貸價格トス

賃貸價格ハ貸主カ公課、修繕費其ノ他土地ノ維持ニ必要ナル經費ヲ負擔スル條件ヲ以テ之ヲ賃貸スル場合ニ於テ貸主ノ收得スヘキ一年分ノ金額ニ依リ之ヲ定ム

第九條　賃貸價格ハ十年毎ニ一般ニ之ヲ改訂ス第一回ノ改訂ハ昭和十三年ニ於テ之ヲ行フ

前項ノ改訂ニ關スル事項ハ其ノ都度別ニ之ヲ定ム

土地ノ異動ニ因リ賃貸價格ヲ設定シ又ハ修正スル必要アルトキハ類地ノ賃貸價格ニ比準シ其ノ土地ノ品位及情況ニ應シ之ヲ定ム

第十條 地租ノ稅率ハ百分ノ三・八トス

第十一條 地租ハ毎年左ノ納期ニ於テ之ヲ徵收ス

一 宅地租

第一期 其ノ年七月一日ヨリ三十一日限 年額ノ二分ノ一

第二期 翌年一月一日ヨリ三十一日限 年額ノ二分ノ一

二 田租

第一期 翌年一月一日ヨリ三十一日限 年額ノ四分ノ一

第二期 翌年二月一日ヨリ末日限 年額ノ四分ノ一

第三期 翌年三月一日ヨリ三十一日限 年額ノ四分ノ一

第四期 翌年五月一日ヨリ三十一日限 年額ノ四分ノ一

三 其ノ他

第一期 其ノ年九月一日ヨリ三十日限 年額ノ二分ノ一

第二期 其ノ年十一月一日ヨリ三十日限 年額ノ二分ノ一

特別ノ事情アル地方ニシテ前項ノ納期ニ依リ難キモノニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ納期ヲ定ムルコトヲ得

第十二條 地租ハ納期開始ノ時ニ於テ土地臺帳ニ所有者トシテ登錄セラレタル者ヨリ之ヲ徵收ス但シ質權ノ目的タル土地又ハ百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ノ目的タル土地ニ付テハ土地臺帳ニ質權者又ハ地上權者トシテ登錄セラレタル者ヨリ之ヲ徵收ス

第十三條 土地ノ異動アリタル場合ニ於テハ地番、地目、地積及賃貸價格ハ土地所有者ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ若ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキ又ハ申告ヲ要セサルトキハ稅務署長ノ調査ニ依リ稅務署長之ヲ定ム

第二章 土地ノ異動

第一節 有租地及無租地ノ轉換

第十四條 本法ニ於テ無租地ト稱スルハ地租ヲ課セサル土地（免租年期地、災害免租地及自作農免租地ヲ含マス）ヲ謂ヒ有租地ト稱スルハ其ノ他ノ土地ヲ謂フ

第十五條 無租地カ有租地ト爲リタルトキ又ハ有租地カ無租地ト爲リタルトキハ土地所有者ハ三十日內ニ之ヲ稅務署長ニ申告スヘシ但シ有租地カ無租地ト爲リタル場合ニ於テ之ニ關シ豫メ政府ノ許可ヲ受ケ若ハ申告ヲ爲シタルモノ又ハ官

公署ニ於テ公示シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十六條 新ニ土地臺帳ニ登錄スヘキ土地ヲ生シタルトキハ當該地番區域內ニ於ケル最終ノ地番ヲ追ヒ順次其ノ地番ヲ定ム但シ特別ノ事情アルトキハ適宜ノ地番ヲ定ムルコトヲ得

第十七條 新ニ土地臺帳ニ登錄スヘキ土地ヲ生シタルトキハ直ニ其ノ地目ヲ設定ス

土地臺帳ニ登錄セラレタル無租地カ有租地ト爲リ又ハ有租地カ無租地ト爲リタルトキハ直ニ其ノ地目ヲ修正ス

第十八條 新ニ土地臺帳ニ登錄スヘキ土地ヲ生シタルトキハ直ニ之ヲ測量シテ其ノ地積ヲ定ム

土地臺帳ニ登錄セラレタル無租地カ有租地ト爲リタルトキハ直ニ其ノ地積ヲ改測ス但シ其ノ地積ニ異動ナシト認ムルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得

第十九條 國有財產法第二十一條ノ規定ニ依リ賣拂又ハ讓與ノ豫約ヲ爲シタル土地ニシテ開拓ノ事業成功ニ因リ賣拂又ハ讓與ヲ受ケ有租地ト爲リタルモノニ付テハ土地所有者ノ申請ニ依リ有租地ト爲リタル年及其ノ翌年ヨリ二十年ノ開拓減租年期ヲ許可シ年期中ハ其ノ原地(開拓前ノ土地)相當ノ賃貸價格ニ依リ地租

ヲ徵收ス

前項ノ年期滿了スルモ尙地味成熟セサル土地ニ付テハ更ニ十年內ノ年期延長ヲ許可スルコトヲ得

第二十條 國有財產法第二十一條ノ規定ニ依リ賣拂又ハ讓與ノ豫約ヲ爲シタル土地ニシテ埋立(干拓ヲ含ム)ノ事業成功ニ因リ賣拂又ハ讓與ヲ受ケ有租地ト爲リタルモノ又ハ公有水面埋立法第二十四條若ハ第五十條ノ規定ニ依リ埋立地ノ所有權ヲ取得シ有租地ト爲リタル土地ニ付テハ土地所有者ノ申請ニ依リ有租地ト爲リタル年及其ノ翌年ヨリ六十年ノ埋立免租年期ヲ許可ス

前項ノ年期滿了スルモ尙地味成熟セサル土地ニ付テハ更ニ十年內ノ年期延長ヲ許可スルコトヲ得

第二十一條 前二條ノ規定ニ依リ開拓減租年期又ハ埋立免租年期ノ許可ヲ受ケントスル者ハ有租地ト爲リタル日ヨリ六十日內ニ、開拓減租年期又ハ埋立免租年期延長ノ許可ヲ受ケントスル者ハ年期ノ滿了スル年ノ六月三十日迄ニ稅務署長ニ申請スヘシ

第二十二條 開拓減租年期中ニ於テ地類變換ヲ爲シタルトキハ開拓減租年期ハ消滅ス

開拓減租年期中ニ於テ地目變換ヲ爲シタルトキハ其ノ地目ヲ修正スルモ其ノ賃貸價格ハ之ヲ修正セス

埋立免租年期中ニ於テ地目變換、地類變換又ハ開墾ニ該當スル土地ノ異動アルモ地目變換、地類變換又ハ開墾ナキモノト看做ス此ノ場合ニ於テハ免租年期ノ滿了スル年ニ於テ其ノ地目ヲ修正ス

第二十三條 開拓減租年期地又ハ埋立免租年期地ニ付テハ土地所有者ハ年期ノ滿了スル年ノ六月三十日迄ニ年期滿了申告書ヲ稅務署長ニ提出スヘシ

第二十四條 無租地カ有租地ト爲リタルトキハ直ニ其ノ賃貸價格ヲ設定ス

開拓減租年期地ニ付テハ有租地ト爲リタルトキ直ニ原地相當ノ賃貸價格ヲ設定シ開拓減租年期ノ滿了スル年ニ於テ其ノ賃貸價格ヲ修正ス

埋立免租年期地ニ付テハ其ノ年期ノ滿了スル年ニ於テ其ノ賃貸價格ヲ設定ス

第二十五條 開拓減租年期又ハ埋立免租年期ノ滿了ニ因リ賃貸價格ヲ設定シ又ハ修正スル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ其ノ地積ヲ改測ス

第二十六條 無租地カ有租地ト爲リタルトキハ賃貸價格ヲ設定（第二十四條第三項ノ設定ヲ含ム）シタル年ノ翌年分ヨリ地租ヲ徵收ス

開拓減租年期ノ滿了ニ因リ賃貸價格ヲ修正シタル土地ニ付テハ其ノ修正ヲ爲シタル年ノ翌年分ヨリ修正賃貸價格ニ依リ地租ヲ徵收ス

第二十七條 有租地カ無租地ト爲リタルトキハ其ノ申告ヲ要スルモノニ付テハ申告アリタル後ニ開始スル納期ヨリ、其ノ申告ヲ要セサルモノニ付テハ稅務署長カ其ノ事實ヲ認メタル後ニ開始スル納期ヨリ地租ヲ徵收セス

第二節　分筆及合筆

第二十八條 本法ニ於テ分筆ト稱スルハ一筆ノ土地ヲ數筆ノ土地ト爲スヲ謂ヒ合筆ト稱スルハ數筆ノ土地ヲ一筆ノ土地ト爲スヲ謂フ

第二十九條 分筆又ハ合筆ヲ爲サントスルトキハ土地所有者ハ之ヲ稅務署長ニ申告スヘシ

第三十條 一筆ノ土地ノ一部カ左ノ各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ前條ノ申告ナキ場合ニ於テモ稅務署長ハ其ノ土地ヲ分筆ス

一　別地目ト爲ルトキ

二　無租地カ有租地ト爲リ又ハ有租地カ無租地ト爲ルトキ

三　所有者ヲ異ニスルトキ

四　質權又ハ百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ノ目的ト爲ルトキ

五　地番區域ヲ異ニスルトキ

第三十一條 分筆シタル土地ニ付テハ分筆前ノ地番ニ符號ヲ附シテ各筆ノ地番ヲ定ム

合筆シタル土地ニ付テハ合筆前ノ地番中ノ首位ノモノヲ以テ其ノ地番トス

特別ノ事情アルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラス適宜ノ地番ヲ定ムルコトヲ得

第三十二條 分筆ヲ爲シタルトキハ測量シテ各筆ノ地積ヲ定ム

合筆ヲ爲シタルトキハ合筆前ノ各筆ノ地積ヲ合算シタルモノヲ以テ其ノ地積トス

第三十三條 分筆ヲ爲シタルトキハ各筆ノ品位及情況ニ應シ分筆前ノ賃貸價格ヲ配分シテ其ノ賃貸價格ヲ定ム

合筆ヲ爲シタルトキハ合筆前ノ各筆ノ賃貸價格ヲ合算シタルモノヲ以テ其ノ賃貸價格トス

第三節 開墾

第三十四條 本法ニ於テ開墾ト稱スルハ第二類地ヲ第一類地ト爲スヲ謂フ

第三十五條 開墾成功シタルトキハ土地所有者ハ三十日内ニ之ヲ稅務署長ニ申告スヘシ

第三十六條 開墾ニ著手シタル土地ニ付テハ土地所有者ノ申請ニ依リ開墾著手ノ年及其ノ翌年ヨリ二十年ノ開墾減租年期ヲ許可シ年期中ハ原地（開墾前ノ土地）相當ノ賃貸價格ニ依リ地租ヲ徵收ス但シ地類變換ヲ爲シタル後五年内ニ開墾ニ著手シタル土地ニ付テハ之ヲ許可セス

二十年内ニ成功シ能ハサル開墾地ニ付テハ前項ノ年期ハ開墾著手ノ年及其ノ翌年ヨリ四十年トス

前項ノ年期滿了スルモ尙地味成熟セサル土地ニ付テハ更ニ十年内ノ年期延長ヲ許可スルコトヲ得

宅地又ハ鑛泉地ト爲ス開墾地ニ付テハ其ノ情況ニ依リ稅務署長ハ開墾減租年期ヲ短縮スルコトヲ得

第三十七條 前條ノ規定ニ依リ開墾減租年期ノ許可ヲ受ケントスル者ハ開墾著手ノ日ヨリ三十日内ニ、開墾減租年期延長ノ許可ヲ受ケントスル者ハ年期ノ滿了スル年ノ六月三十日迄ニ稅務署長ニ申請スヘシ

第三十八條 開墾減租年期中ニ於テ開墾成功シタルトキ又ハ其ノ成功地ニ付地目變換ヲ爲シタルトキハ其ノ地目ヲ修正スルモ其ノ賃貸價格ハ之ヲ修正セス

開墾減租年期中ニ於テ其ノ原地ニ付地目變換ヲ爲シタルトキ又ハ其ノ成功地ニ付地類變換ヲ爲シタルトキハ開墾減租年期ハ消滅ス

第三十九條 開墾減租年期地ニ付テハ土地所有者ハ年期ノ滿了スル年ノ六月三十日迄ニ年期滿了申告書ヲ稅務署長ニ提出スヘシ

第四十條 開墾成功シタルトキハ(開墾減租年期中ナルト否トヲ問ハス)直ニ其ノ地目ヲ修正ス

第四十一條 開墾成功シタルトキハ開墾減租年期地ヲ除クノ外直ニ其ノ賃貸價格ヲ修正ス

開墾減租年期地ニ付テハ其ノ年期ノ滿了スル年ニ於テ其ノ賃貸價格ヲ修正ス但シ年期滿了スルモ尙開墾成功セサル土地ニ付テハ開墾成功シタルトキ直ニ其ノ賃貸價格ヲ修正ス

第四十二條 開墾ニ因リ賃貸價格ヲ修正スル場合ニ於テハ其ノ地積ヲ改測ス但シ其ノ地積ニ異動ナシト認ムルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得

第四十三條 開墾ニ因リ地目又ハ賃貸價格ヲ修正シタル土地ニ付テハ其ノ修正ヲ爲シタル年ノ翌年分ヨリ修正地目又ハ修正賃貸價格ニ依リ地租ヲ徵收ス

第四節 地目變換及地類變換

第四十四條 本法ニ於テ地目變換ト稱スルハ第一類地中又ハ第二類地中ノ各地目ヲ變更スルヲ謂ヒ地類變換ト稱スルハ第一類地ヲ第二類地ト爲スヲ謂フ

第四十五條 地目變換又ハ地類變換ヲ爲シタルトキハ土地所有者ハ三十日內ニ之ヲ稅務署長ニ申告スヘシ

第四十六條 二十年內ニ成功シ能ハサル地目變換地ニ付テハ土地所有者ノ申請ニ依リ地目變換著手ノ年及其ノ翌年ヨリ四十年ノ地目變換減租年期ヲ許可シ年期中ハ原地(變換前ノ土地)相當ノ賃貸價格ニ依リ地租ヲ徵收ス

前項ノ年期滿了スルモ尙地味成熟セサル土地ニ付テハ更ニ十年內ノ年期延長ヲ許可スルコトヲ得

宅地又ハ鑛泉地ニ變換スル土地ニ付テハ其ノ情況ニ依リ稅務署長ハ地目變換減租年期ヲ短縮スルコトヲ得

第四十七條 前條ノ規定ニ依リ地目變換減租年期ノ許可ヲ受ケントスル者ハ地目變換著手ノ日ヨリ三十日內ニ、地目變換減租年期延長ノ許可ヲ受ケントスル者ハ年期ノ滿了スル年ノ六月三十日迄ニ稅務署長ニ申請スヘシ

第四十八條 地目變換減租年期中ニ於テ其ノ原地又ハ變換地ニ付地目變換ヲ爲シタルトキハ其ノ地目ヲ修正スルモ其ノ賃貸價格ハ之ヲ修正セス

地目變換減租年期中ニ於テ地類變換ヲ爲シタルトキハ地目變換減租年期ハ消滅ス

第四十九條 地目變換減租年期地ニ付テハ土地所有者ハ年期ノ滿了スル年ノ六月三十日迄ニ年期滿了申告書ヲ稅務署長ニ提出スヘシ

第五十條 地目變換又ハ地類變換ヲ爲シタルトキハ（地目變換減租年期中ナルト否トヲ問ハス）直ニ其ノ地目ヲ修正ス

第五十一條 地目變換又ハ地類變換ヲ爲シタルトキハ地目變換減租年期地ヲ除クノ外直ニ其ノ賃貸價格ヲ修正ス

地目變換減租年期地ニ付テハ其ノ年期ノ滿了スル年ニ於テ其ノ賃貸價格ヲ修正ス但シ年期滿了スルモ尙地目變換セサル土地ニ付テハ地目變換シタルトキ直ニ其ノ賃貸價格ヲ修正ス

第五十二條 地目變換又ハ地類變換ニ因リ賃貸價格ヲ修正スル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ其ノ地積ヲ改測ス

第五十三條 地目變換又ハ地類變換ニ因リ地目又ハ賃貸價格ヲ修正シタル土地ニ付テハ其ノ修正ヲ爲シタル年ノ翌年分ヨリ修正地目又ハ修正賃貸價格ニ依リ地租ヲ徵收ス

第五節 荒地免租

第五十四條 本法ニ於テ荒地ト稱スルハ災害ニ因リ地形ヲ變シ又ハ作土ヲ損傷シタル土地ヲ謂フ

第五十五條 荒地ニ付テハ納稅義務者ノ申請ニ依リ荒地ト爲リタル年及其ノ翌年ヨリ十五年內ノ荒地免租年期ヲ許可ス

前項ノ年期滿了スルモ尙荒地ノ形狀ヲ存スルモノニ付テハ更ニ十五年內ノ年期延長ヲ許可スルコトヲ得

海、湖又ハ河川ノ狀況ト爲リタル荒地ニ付テハ前項ノ延長年期ハ二十年內トス

其ノ年期滿了スルモ尙海、湖又ハ河川ノ狀況ニ在ルモノハ本法ノ適用ニ付テハ海、湖又ハ河川ト爲リタルモノト看做ス

第五十六條 前條ノ規定ニ依リ荒地免租年期ノ許可ヲ受ケントスル者ハ稅務署長ニ申請スヘシ

荒地免租年期延長ノ許可ヲ受ケントスル者ハ年期ノ滿了スル年ノ六月三十日迄ニ稅務署長ニ申請スヘシ

第五十七條 荒地免租年期地ニ付テハ免租年期許可ノ申請アリタル後ニ開始スル納期ヨリ地租ヲ徵收セス

第五十八條 荒地免租年期中ノ土地カ再ヒ荒地ト爲リ免租年期ノ許可ヲ受ケタルトキハ前ノ年期ハ消滅ス

第五十九條　開拓減租年期、埋立免租年期、開墾減租年期又ハ地目變換減租年期中ノ土地ニ付荒地免租年期ヲ許可シタルトキハ其ノ許可ヲ爲シタル年ヨリ荒地免租年期滿了ニ至ル迄ハ開拓減租年期、埋立免租年期、開墾減租年期又ハ地目變換減租年期ハ其ノ進行ヲ止ム

前項ノ規定ハ他ノ法律ニ依リ一定ノ期間地租ノ全部又ハ一部ヲ免除シタル土地ニ付荒地免租年期ヲ許可シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六十條　荒地免租年期中ニ於テ地目變換、地類變換又ハ開墾ニ該當スル土地ノ異動アルモ地目變換、地類變換又ハ開墾ナキモノト看做ス此ノ場合ニ於テハ免租年期ノ滿了スル年ニ於テ其ノ地目ヲ修正ス

第六十一條　荒地免租年期地ニ付テハ納稅義務者ハ年期ノ滿了スル年ノ六月三十日迄ニ年期滿了申告書ヲ稅務署長ニ提出スヘシ

第六十二條　荒地免租年期地ニ付テハ其ノ年期ノ滿了スル年ニ於テ其ノ賃貸價格ヲ設定ス

第六十三條　荒地免租年期ノ滿了ニ因リ賃貸價格ヲ設定スル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ其ノ地積ヲ改測ス

第六十四條　荒地免租年期ノ滿了ニ因リ賃貸價格ヲ設定シタル土地ニ付テハ其ノ設定ヲ爲シタル年ノ翌年分ヨリ地租ヲ徵收ス

第三章　災害地免租

第六十五條　北海道又ハ府縣ノ全部又ハ一部ニ亙ル災害又ハ天候不順ニ因リ收穫皆無ニ歸シタル田畑ニ付テハ納稅義務者ノ申請ニ依リ其ノ年分地租ハ之ヲ免除ス

第六十六條　地目變換若ハ開墾成功ノ申告アリタル土地又ハ耕地整理工事完了シ賃貸價格配賦ノ申出アリタル土地ニシテ未タ土地臺帳ヲ更正セサルモノニ付テハ其ノ成功地目カ田畑ナルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ規定ヲ準用ス

第六十七條　前二條ノ規定ニ依リ地租ノ免除ヲ受ケントスル者ハ被害現狀ノ存スル間ニ於テ其ノ事實ヲ明ニシテ稅務署長ニ申請スヘシ

第六十八條　前條ノ申請アリタルトキハ被害ノ調査中其ノ年分地租ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第六十九條　第六十五條又ハ第六十六條ノ規定ニ依リ免除シタル地租ハ法律上總テノ納稅資格中ヨリ之ヲ控除セス

第四章　自作農地免租

第七十條　田畑地租ノ納期開始ノ時ニ於テ納稅義務者（法人ヲ除ク）ノ住所地市

町村及隣接市町村内ニ於ケル田畑賃貸價格ノ合計金額カ其ノ同居家族ノ分ト合算シ二百圓未滿ナルトキハ納稅義務者ノ申請ニ依リ其ノ田畑ノ當該納期分地租ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ免除ス但シ小作ニ付シタル田畑ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

民法施行前ヨリ引續キ存スル永小作權ニ付其ノ設定ノ當時舊來ノ慣行ニ依リテ小作料支拂ノ外當該田畑ノ地租ノ全額ヲ永小作權者ニ於テ負擔スルコトヲ約シタル田畑ニ關シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ永小作權者ヲ所有者ト看做シテ前項ノ規定ヲ適用ス

第七十一條 前條ノ規定ニ依リ地租ノ免除ヲ受ケントスル者ハ毎年三月中ニ住所地市町村ヲ經由シ稅務署長ニ申請スヘシ

前項ノ申請期間經過後新ニ前條ノ規定ニ該當スルニ至リタル田畑ニ付テハ次ノ納期開始前ニ於テ前項ノ申請ヲ爲スコトヲ得

第五章 地租徵收

第七十二條 稅務署長ハ土地ノ異動其ノ他地租徵收ニ關シ必要ト認ムル事項ヲ市町村ニ通知スヘシ

第七十三條 地租ハ各納稅義務者ニ付同一市町村內ニ於ケル同一地目ノ賃貸價格ノ合計金額ニ依リ算出シ之ヲ徵收ス但シ賃貸價格ノ合計金額カ一圓ニ滿タサルトキハ地租ヲ徵收セス

田、畑、宅地以外ノ土地ハ之ヲ同一地目ノ土地ト看做シテ前項ノ規定ヲ適用ス

第七十四條 市町村ハ地租ノ納期毎ニ其ノ納期開始前十五日迄ニ賃貸價格及地租ノ總額竝ニ其ノ各納期ニ於ケル納額ヲ稅務署長ニ報告スヘシ但シ前報告後異動ナキトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ報告後納期開始迄ニ報告事項ニ異動ヲ生シタルトキハ直ニ其ノ異動額ヲ稅務署長ニ報告スヘシ

第七十五條 市町村ハ第七十條ノ規定ニ依リ地租ヲ免除スル田畑ノ賃貸價格ノ總額ヲ前條ノ例ニ準シ稅務署長ニ報告スヘシ

第七十六條 大藏大臣ハ稅務署長又ハ其ノ代理官ヲシテ隨時市町村ニ於ケル國稅徵收ニ關スル事務ヲ監督セシムヘシ

第六章 雜則

第七十七條 他ノ法律ニ依リ一定ノ期間地租ヲ免除シタル土地ニ付テハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外第五十七條及第六十條乃至第六十四條ノ規定ヲ準用ス

第七十八條 稅務署長土地ノ異動ニ因リ地番、地目、地積又ハ賃貸價格ヲ土地臺

帳ニ登錄シタルトキ又ハ登錄ヲ變更シタルトキハ土地所有者及納稅義務者ニ通知スヘシ

第七十九條 納稅義務者其ノ土地所在ノ市町村內ニ現住セサルトキハ地租ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲其ノ市町村內ニ現住スル者ニ就キ納稅管理人ヲ定メ當該市町村長ニ申告スヘシ

第八十條 土地所有者ニ變更アリタル場合ニ於テハ舊所有者カ爲スヘカリシ申告ハ所有者ノ變更アリタル日ヨリ三十日內ニ新所有者ヨリ之ヲ爲スヘシ

第八十一條 本法ニ依リ土地所有者ヨリ爲スヘキ申告又ハ申請ハ質權ノ目的タル土地又ハ百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ノ目的タル土地ニ付テハ土地臺帳ニ登錄セラレタル質權者又ハ地上權者ヨリ之ヲ爲スコトヲ得

第八十二條 本法ニ依リ申告ヲ爲スヘキ義務ヲ有スル者其ノ申告ヲ爲ササルトキハ五十圓以下ノ過料ニ處ス

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ付之ヲ準用ス

第八十三條 詐僞其ノ他不正ノ行爲ニ依リ地租ヲ逋脫シタル者ハ其ノ逋脫シタル稅金ノ五倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ直ニ其ノ地租ヲ徵收ス但シ自首シタル者又ハ稅務署長ニ申出テタル者ハ其ノ罪ヲ問ハス

前項ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用ヒス

第八十四條 本法ニ依リ申告ヲ爲スヘキ義務ヲ有スル者其ノ申告ヲ爲サス仍テ地租ニ不足額アルトキハ直ニ之ヲ徵收ス

第八十五條 前二條ノ規定ニ依リ地租ヲ徵收スル場合ニ於テハ第七十三條ノ規定ニ拘ラス當該土地一筆每ニ其ノ地租ヲ算出ス

第八十六條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ土地ノ檢査ヲ爲シ又ハ土地ノ所有者、質權者、地上權者其ノ他利害關係人ニ對シ必要ナル事項ヲ質問スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ土地ノ檢査ヲ拒ミ又ハ之ヲ妨ケタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十七條 市制第六條又ハ第八十二條第三項ノ市ニ於テハ本法中市ニ關スル規定ハ區ニ、市長ニ關スル規定ハ區長ニ之ヲ適用ス

町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ本法中町村ニ關スル規定ハ町村ニ準スヘキモノニ、町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準スヘキモノニ之ヲ適用ス

第八十八條 本法ハ國有地ニ之ヲ適用セス

第八十九條　府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ハ第二條ノ規定ニ依リ地租ヲ課セサル土地ニ租稅其ノ他ノ公課ヲ課スルコトヲ得ス但シ所有者以外ノ者同條第一號又ハ第二號ノ土地ヲ使用收益スル場合ニ於テ其ノ土地ニ付使用者ニ租稅其ノ他ノ公課ヲ課スルハ此ノ限ニ在ラス

附則

第九十條　本法ハ昭和六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ昭和六年分地租ニ限リ第十條ノ規定中百分ノ三・八トアルハ百分ノ四、第十一條ノ規定中宅地租第一期其ノ年七月一日ヨリ三十一日限トアルハ其ノ年十一月一日ヨリ三十日限、其ノ他第一期其ノ年九月一日ヨリ三十日限トアルハ翌年一月一日ヨリ三十一日限、其ノ他第二期其ノ年十一月一日ヨリ三十日限トアルハ翌年三月一日ヨリ三十一日限、第七十一條第一項ノ規定中三月中トアルハ十二月中トス

第九十一條　左ノ法律ハ之ヲ廢止ス但シ昭和五年分以前ノ地租ニ關シテハ仍舊法ニ依ル

地租條例

災害地地租免除法

宅地地價修正法

明治七年第百二十號布告地所名稱區別

明治三十四年法律三十號

明治三十四年法律第三十一號

明治三十七年法律第十二號

明治三十七年法律第十六號

大正十五年法律第四十七號

第九十二條　土地賃貸價格調査法ニ依リ賃貸價格ノ調査ヲ爲シタル土地ニ付テハ同法ニ依リ調査シタル賃貸價格ヲ以テ本法施行ノ際ニ於ケル賃貸價格トス但シ其ノ賃貸價格ニ依リ算出シタル本法ノ地租額カ從前ノ地價ニ依リ算出シタル舊法ノ地租額ノ三倍八割ヲ超ユル土地ニ在リテハ舊法ノ地租額ノ三倍八割ニ相當スル金額ヲ百分ノ三・八ヲ以テ除シタル金額ヲ以テ其ノ賃貸價格トス

第九十三條　大正十五年四月一日後本法施行前ニ於テ地價ヲ設定シ又ハ修正シタル土地（免租年期又ハ低價年期ノ滿了ニ因リ原地價ニ復シタルモノヲ含ム）ニ付テハ第九條第三項ノ例ニ準シ其ノ賃貸價格ヲ定ム

大正十五年四月一日後本法施行前ニ於テ分筆又ハ合筆ヲ爲シタル土地ニ付テハ第三十三條ノ例ニ準シ前條ノ賃貸價格ヲ配分又ハ合算シテ其ノ賃貸價格ヲ定ム

第九十四條 舊法ニ依リ低價年期ノ許可ヲ受ケタル土地ニシテ本法施行ノ際未タ原地價ニ復セサルモノニ付テハ第九條第三項ノ例ニ準シ其ノ賃貸價格ヲ定ム

第九十五條 前三條ノ規定ニ依リ賃貸價格ヲ定メタル土地ニ付テハ昭和六年分ヨリ本法ニ依リ地租ヲ徵收ス

第九十六條 本法施行前ニ於ケル土地ノ異動中本法施行ノ際未タ舊法ニ依リ地價ノ設定又ハ修正其ノ他ノ處分ヲ爲ササルモノニシテ本法中之ニ相當スル規定アルモノニ關シテハ本法ヲ適用ス但シ第九十一條但書ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

第九十七條 舊法ニ依ル屆出又ハ申請ニシテ本法中之ニ相當スル規定アルモノハ之ヲ本法ニ依ル申告又ハ申請ト看做ス

第九十八條 舊法ニ依リ開墾ノ屆出アリタル土地ニシテ本法施行ノ際開墾著手後未タ二十年ヲ經過セサルモノハ第三十六條第一項ノ規定ニ依リ開墾減租年期ヲ許可セラレタルモノト看做ス但シ地類變換ヲ爲シタル後五年內ニ開墾ヲ爲シタル土地ニ付テハ此ノ限ニアラス

第九十九條 舊法ニ依リ免租年期、鍬下年期又ハ地價据置年期ノ許可ヲ受ケタル土地ニシテ本法施行ノ際未タ其ノ年期ノ滿了セサルモノハ左ノ區分ニ從ヒ本法ニ依リ免租年期又ハ減租年期ヲ許可セラレタルモノト看做ス

一 地租條例第十六條第三項ノ鍬下年期ハ第三十六條第二項ノ開墾減租年期トス

二 地租條例第十六條第四項ノ鍬下年期ハ第十九條第一項ノ開拓減租年期トス

三 地租條例第十六條第五項ノ新開免租年期ハ第二十條第一項ノ埋立免租年期トス

四 地租條例第十六條第六項ノ地價据置年期ハ第四十六條第一項ノ地目變換減租年期トス

五 明治三十四年法律第三十號ノ年期延長ハ前各號ノ例ニ準シ第十九條第二項、第二十條第二項、第三十六條第三項又ハ第四十六條第二項ノ年期延長トス

六 地租條例第二十條ノ荒地免租年期ハ第五十五條第一項ノ荒地免租年期トス

七 地租條例第二十三條又ハ第二十四條ノ免租繼年期ハ荒地ノ種類ニ從ヒ第五十五條第二項又ハ第三項ノ年期延長トス

前項ノ年期ハ舊法ニ依リ許可セラレタル年期ノ殘年期間ノ經過スル年ノ翌年ニ於テ滿了ス

第百條 地積ハ第七條ノ規定ニ拘ラス當分ノ內左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ定ム

一 宅地及鑛泉地ノ地積ハ六尺平方ヲ坪、坪ノ十分ノ一ヲ合、合ノ十分ノ一ヲ

勺トシテ之ヲ定メ勺未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ

二　宅地及鑛泉地以外ノ土地ノ地積ハ六尺平方ヲ歩、三十歩ヲ畝、十畝ヲ段、十段ヲ町トシテ之ヲ定メ歩未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ但シ一筆ノ地積一歩未滿ナルモノニ付テハ歩ノ十分ノ一ヲ合、合ノ十分ノ一ヲ勺トシテ之ヲ定メ勺未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ

第百一條　舊法ノ土地臺帳ハ之ヲ本法ノ土地臺帳ト看做ス

第百二條　小笠原島及伊豆七島ノ地租ニ付テハ當分ノ内仍從前ノ例ニ依ル

地租法施行規則

（昭和六年四月一日勅令第四七號）

第一章　總則

第一條　地租法第二條第一號及第二號ノ規定ニ依リ左ノ公共團體ヲ指定ス

一　府縣組合、市町村組合、町村組合、市町村内ノ區、北海道地方費

二　市町村學校組合、町村學校組合、學區

三　水利組合、水利組合聯合、北海道土功組合

第二條　土地ノ所有權、質權又ハ地上權ノ得喪變更ニ關スル事項ハ登記所ヨリ通知アルニ非サレハ土地臺帳ニ之ヲ登錄セス但シ左ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

一　新ニ土地臺帳ニ登錄スヘキ土地ヲ生シタルトキ

二　未登記ノ土地カ土地臺帳ニ登錄ヲ要セサル土地ト爲リタルトキ

三　未登記ノ土地カ收用セラレタルトキ

第三條　土地臺帳ニ登錄セラレタル土地所有者、質權者又ハ地上權者其ノ住所ニ異動ヲ生シタルトキ又ハ其ノ氏名若ハ名稱ヲ改メタルトキハ遲滯ナク之ヲ稅務署長ニ申告スヘシ

第四條　土地臺帳謄本ノ交付ヲ受ケントスル者ハ土地一筆ニ付十錢ノ手數料ヲ納メ稅務署長ニ之ヲ請求スヘシ

前項ノ手數料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

謄本ハ送付ニ要スル郵便切手ヲ提供シテ之カ郵送ヲ求ムルコトヲ得

國有地又ハ御料地ノ拂下又ハ讓與ニ係ル土地ニシテ未登記ノモノニ付テハ謄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得ス

土地臺帳謄本ノ書式ハ大藏大臣之ヲ定ム

第五條　北海道、鹿兒島縣大島郡及沖繩縣ニ於ケル地租ハ左ノ納期ニ於テ之ヲ徵收ス

北海道

一　宅地租

第一期　其ノ年八月一日ヨリ三十一日限　年額ノ二分ノ一

第二期　翌年二月一日ヨリ末日限　年額ノ二分ノ一

二　其ノ他

第一期　其ノ年十一月一日ヨリ三十日限　年額ノ二分ノ一

第二期　翌年五月一日ヨリ三十一日限　年額ノ二分ノ一

鹿兒島縣大島郡十島村　翌年五月一日ヨリ八月三十一日限　年額全部

鹿兒島縣大島郡（十島村ヲ除ク）　翌年五月一日ヨリ三十一日限　年額全部

沖繩縣那覇市、首里市、島尻郡、中頭郡、國頭郡

一　宅地租及田租　其ノ年八月一日ヨリ三十一日限　年額全部

二　其ノ他　翌年五月一日ヨリ三十一日限　年額全部

沖繩縣宮古郡平良村字鹽川、仲筋、水納、八重山郡八重山村字波照間、與那國　年額全部　翌年五月一日ヨリ七月三十一日限

沖繩縣宮古郡（平良村字鹽川、仲筋、水納ヲ除ク）、八重山郡（八重山村字波照間、與那國ヲ除ク）

一　宅地租　翌年三月一日ヨリ三十一日限　年額全部

二　田租　其ノ年七月一日ヨリ三十一日限　年額全部

三　其ノ他　翌年五月一日ヨリ三十一日限　年額全部

第二章　土地ノ異動

第六條　土地ノ異動ニ關スル申告書（年期滿了申告書ヲ含ム）ニハ異動ノ種類ヲ表示シ原地ノ所在、地番、地目、地積及賃貸價格（無租地及免租年期地ニ付テハ賃貸價格ヲ除ク）竝ニ異動シタル地番、地目、地積及賃貸價格ヲ記載スヘシ

前項ノ申告書中新ニ土地臺帳ニ登錄スヘキ土地ニ關スル申告書又ハ分筆ノ申告書ニハ地積ノ測量圖ヲ添附スヘシ其ノ他ノ申告書ニシテ之ニ記載シタル異動地ノ地積カ其ノ原地ノ地積ト同一ナラサルモノニ付亦同シ

第七條　減租年期又ハ免租年期ノ申請書ニハ年期ノ種類ヲ表示シ土地ノ所在、地番、地目、地積及賃貸價格（無租地及免租年期地ニ付テハ賃貸價格ヲ除ク）ヲ記載シ尙左ノ事項ヲ附記スヘシ

一　開拓減租年期又ハ埋立免租年期ニ付テハ有租地ト爲リタル事由

二　二十年ノ開墾減租年期ニ付テハ開墾ノ豫定地目及著手ノ日

三　四十年ノ開墾減租年期又ハ地目變換減租年期ニ付テハ開墾又ハ變換ノ豫定地目、著手ノ日及事業計畫

四　荒地免租年期ニ付テハ荒地ト爲リタル事由、被害ノ狀況及許可ヲ受ケントスル年期

五　前各號ノ年期ノ延長ニ付テハ土地ノ狀況及許可ヲ受ケントスル年期

第八條　開墾減租年期又ハ地目變換減租年期ノ許可ヲ受ケタル土地ニ付開墾若ハ變換ノ豫定地目ヲ變更シ又ハ開墾若ハ變換ヲ廢止シタルトキハ遲滯ナク稅務署長ニ之ヲ申告スヘシ

第三章　災害地免租

第九條　災害地免租ノ申請書ニハ收穫皆無ニ歸シタル事由、被害ノ狀況、土地ノ所在、地番、地目、地積及賃貸價格ヲ記載スヘシ

第十條　災害地免租ノ申請ヲ爲ス者ハ稅務署長ノ承認ヲ受クル迄收穫皆無ノ事實ヲ證スルニ足ルヘキ作毛ヲ

存置スヘシ

第十一條 地租法第六十六條ノ規定ニ依ル地租ノ免除ハ左ノ各號ノ定ムル所ニ依ル

一 地目變換地又ハ開墾地ニ在リテハ原地(變換又ハ開墾前ノ土地)ノ地租ヲ免除ス

二 耕地整理地ニ在リテハ收穫皆無ニ歸シタル換地ニ相當スル從前ノ土地ノ地租ヲ免除ス

第四章 自作農地免租

第十二條 地租法第七十條第二項ニ規定スル永小作權者ニシテ同條第一項ノ規定ノ適用ヲ受ケントスル者ハ毎年三月中ニ左ノ事項ヲ田畑所在ノ市町村長ニ申告スヘシ

一 永小作權ノ目的タル田畑ノ所在、地番、地目、地積及賃貸價格

二 田畑所有者ノ住所及氏名

三 永小作權設定ノ年月日

前項ノ申告期間經過後新ニ地租法第七十條第一項ノ規定ニ該當スルニ至リタル場合ニ於テハ次ノ納期開始前ニ於テ前項ノ申告ヲ爲スコトヲ得

第十三條 市町村長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前條ノ申告ヲ爲シタル者ニ對シ永小作權ノ設定ヲ證スヘキ證書其ノ他必要ナル書類ノ呈示又ハ提出ヲ求ムルコトヲ得

第十四條 第十二條ノ申告ヲ爲シタル永小作權者ハ地租法第七十條第一項ノ規定ノ適用ニ關シテハ之ヲ當該田畑ノ所有者ト看做ス

第十五條 地租法第七十一條ノ規定ニ依ル地租免除ノ申請書ニハ土地ノ所在、地番及地目ヲ記載スヘシ但シ申請者カ其ノ住所地及隣接市町村内ニ於ケル自己ノ田畑ノ全部ニ付申請ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ旨ヲ記載シ各筆ノ記載ヲ省略スルコトヲ得

十六條 市町村ハ其ノ市町村内ニ於ケル田畑ニ付地租ヲ納ムヘキ者(地租法第七十條第二項ノ規定ニ依リ所有者ト看做サレタル永小作權者ヲ含ム)ノ住所カ隣接市町村内ニ在ルトキハ各人別田畑ノ賃貸價格合計金額ヲ毎年三月中ニ其ノ住所地市町村ニ通知スヘシ

前項ノ通知後田畑地租ノ各納期開始迄ニ通知事項ニ異動ヲ生シタルトキハ直ニ之ヲ住所地市町村ニ通知スヘシ

第十七條 市町村ハ隣接市町村内ノ田畑ニ付地租法第七十一條ノ申請ヲ受ケタル場合ニ於テ申請者ノ住所地市町村及隣接市町村内ニ於ケル田畑賃貸價格ノ合計金額カ其ノ同居家族ノ分ト合算シ二百圓未滿ナルトキハ其ノ旨ヲ田畑所在ノ市町村ニ通知スヘシ

前項ノ通知後田畑地租ノ各納期開始ノ時迄ニ通知事項ニ異動ヲ生シタルトキハ之ヲ田畑所在ノ市町村ニ通知スヘシ

第五章 地租徵收

第十八條 市町村ハ其ノ市町村内ノ田畑ニ付地租法第七十一條ノ申請又ハ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ同法第七十條ノ規定ニ依リ地租ヲ免除スル田畑ヲ調査シ同法第七十五條ノ報告ヲ爲スヘシ

第十九條 市町村ハ其ノ市町村内ノ土地ニ付土地臺帳ノ副本及地租名寄帳ヲ設備スヘシ

地租名寄帳ニ關シ必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

第六章 雜則

第二十條 地租法以外ノ法律ニ依リ一定ノ期間地租ノ全部又ハ一部ヲ免除スル土地ニ付テハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外第六條及第七條ノ規定ヲ準用ス

第二十一條 地租法第七十八條ノ規定ニ依ル通知及減租又ハ免租ノ申請ニ對スル許否ノ通知ハ土地所在ノ市

町村ヲ經由スヘシ

第二十二條 市制第六條又ハ第八十二條第三項ノ市ニ於テハ本令中市ニ關スル規定ハ區ニ、市長ニ關スル規定ハ區長ニ之ヲ適用ス

町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ本令中町村ニ關スル規定ハ町村ニ準スヘキモノニ、町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準スヘキモノニ之ヲ適用ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ昭和六年分地租ニ限リ第五條ノ規定中北海道宅地租第一期其ノ年八月一日ヨリ三十一日限トアルハ其ノ年十一月一日ヨリ三十日限、其ノ他第一期其ノ年十一月一日ヨリ三十日限トアルハ翌年一月一日ヨリ三十一日限、沖繩縣那覇市、首里市、島尻郡、中頭郡、國頭郡宅地租及田租其ノ年八月一日ヨリ三十一日限トアルハ翌年一月一日ヨリ三十一日限、沖繩縣宮古郡（平良村字鹽川、仲筋、水納ヲ除ク）八重山郡（八重山村字波照間、與那國ヲ除ク）田租其ノ年七月一日ヨリ三十一日限トアルハ翌年一月一日ヨリ三十一日限、第十六條第一項ノ規定中三月中トアルハ十二月中トス

地租條例施行規則、土地臺帳規則、明治三十八年勅令第百五十九號及明治四十四年勅令第九十二號ハ之ヲ廢止ス但シ昭和五年分以前ノ地租ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

國有財産法

（大正十年四月八日法律第四三號）

第一條 本法ニ於テ國有財産ト稱スルハ國有ノ不動産竝勅令ヲ以テ定ムル國有ノ動産及權利ヲ謂フ

第二條 國有財産ヲ分チテ左ノ四種トス

一 公共用財産 國ニ於テ直接公共ノ用ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ

二 公用財産 國ニ於テ神社ノ用又ハ國ノ事務、事業若ハ官吏其他ノ職員ノ住居ノ用ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ

三 營林財産 國ニ於テ森林經營ノ目的ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ

四 雜種財産 前各號ニ屬セサルモノ

第三條 國有財産ニ關スル事務ハ各省大臣之ヲ管理シ國有財産ニ關スル總轄事務ハ大藏大臣之ヲ管理スヘシ

第四條 國有財産ハ雜種財産ヲ除クノ外之ヲ讓渡シ又ハ之ニ私權ヲ設定スルコトヲ得ス但シ其ノ用途又ハ目的ヲ妨ケサル限度ニ於テ其ノ使用又ハ收益ヲナサシ

ムルハ此ノ限ニ在ラス

第五條 雜種財産ハ左ニ揭クル場合ニ限リ之ヲ讓與スルコトヲ得

一 帝室用又ハ公共團體ニ於テ公共用若ハ公用ニ供スル爲必要アルトキ

二 公共用財産又ハ公用財産ノ用途ヲ廢止シタル場合ニ於テ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ其ノ維持保存ノ費用ヲ負擔シタル者、其ノ用途ニ代ルヘキ他ノ施設ヲ爲シタル者其ノ他ノ緣故者又ハ關係者ニ讓與スルトキ

三 神社、寺院又ハ佛堂ノ合併シタル場合ニ於テ之ニ因リ其ノ供用ヲ止メタル國有財産ヲ其ノ合併シタル神社、寺院又ハ佛堂ニ讓與スルトキ

第六條 雜種財産ハ法律ヲ以テ特別ノ定ヲ爲シタル場合ニ限リ之ヲ出資ノ目的ト爲スコトヲ得

第七條 雜種財産ハ土地及建物以外ノ土地ノ定著物ニ限リ帝室用又ハ國、公共團體若ハ私人ニ於テ公共用、公用若ハ公益事業ニ供スル爲必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ他ノ土地及建物以外ノ土地ノ定著物ト交換ヲ爲スコトヲ得

前項ノ交換ヲ爲ス場合ニ於テ其ノ價格均シカラサルトキハ金錢ヲ以テ補足スヘシ

第八條 用途及期間ヲ指定シテ國有財産ノ賣拂、讓與又ハ交換ヲ爲シタル場合ニ

於テ指定期間內ニ之ヲ其ノ用途ニ供セス又ハ之ヲ其ノ用途ニ供シタル後指定期間內ニ其ノ用途ヲ廢止シタルトキハ政府ハ其ノ契約ヲ解除スルコトヲ得

第九條 國有財産ノ賣拂代金又ハ交換差金ハ財産引渡前之ヲ納付セシムヘシ但シ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ延納ノ特約ヲナスコトヲ得

第十條 國有財産ニ付境界査定ヲ施行セムトスル時ハ豫メ期日ヲ定メテ隣接地所有者ニ之ヲ通知シ其ノ立會ヲ求ムヘシ

隣接地所有者期日ニ於テ立會ハサルコトアルモ境界査定ヲ施行スルコトヲ得

第十一條 境界査定ヲ了シタルトキハ隣接地所有者ニ之ヲ通知スヘシ

第十二條 前二條ノ規定ニ依リ通知ヲ受クヘキ者ノ住所居所共ニ不明ナル時ハ通知ノ要旨ヲ公告スヘシ

前項ノ規定ニ依リ公告シタル場合ニ於テ公告ノ初日ヨリ起算シ三十日ヲ經過シタルトキハ通知ヲ受ケタルモノト看做ス

第十三條 隣接地所有者其ノ他境界査定ニ對シ不服アル者ハ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十四條 國有財産ニ付境界査定又ハ測量ヲ爲ス爲政府ニ於テ他人ノ土地ニ立入リ、目標ヲ設置シ又ハ障害物ヲ除却スルノ必要アルトキハ當該土地又ハ物件ノ

所有者及占有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス但シ之ニ因リテ生シタル損害ニ付賠償ヲ求ムルコトヲ得

第十五條 國有財産ノ貸付ハ左ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

一 植樹ヲ目的トシテ土地及建物以外ノ土地ノ定著物ヲ貸付スル場合ニ在リテハ八十年

二 前號ノ場合ヲ除クノ外土地及建物以外ノ土地ノ定著物ヲ貸付スル場合ニ在リテハ三十年

三 建物其ノ他ノ物件ヲ貸付スル場合ニ在リテハ十年

貸付期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ更新ノ時ヨリ前項ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

第十六條 國有財産ハ帝室用又ハ公共團體若ハ私人ニ於テ公共用、公用若ハ公益事業ニ供スル爲必要アル場合及勅令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外無償ニテ之ヲ貸付スルコトヲ得ス

第十七條 國有財産ノ貸付料ハ毎年定期ニ之ヲ納付セシムヘシ但シ數年分ヲ前納セシムルコトヲ妨ケス

第十八條 國有財産ヲ貸付シタル場合ニ於テ其ノ貸付期間中帝室用又ハ國、公共

團體若ハ私人ニ於テ公共用、公用若ハ公益事業ニ供スル爲必要ヲ生シタルトキハ政府ハ其ノ契約ヲ解除スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ契約ヲ解除シタル場合ニ於テハ借受人ハ之ニ因リテ生シタル損害ニ付賠償ヲ求ムルコトヲ得

第十九條 貸付期間ノ終了又ハ貸付契約ノ解除ニ當リ政府ニ於テ時價ヲ提供シ其ノ國有財産ノ上ニ存スル建物其ノ他ノ物件ヲ買取ルヘキ旨通知シタルトキハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十條 前五條ノ規定ハ貸付ニ依ラスシテ國有財産ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムル契約ニ付之ヲ準用ス

第二十一條 雜種財産ニ付土地ノ開拓又ハ水面ノ埋立若ハ干拓ヲ爲サムトスル者アル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ事業者ニ對シ事業ノ成功ヲ條件トシテ其ノ財産ノ賣拂、讓與又ハ貸付ノ豫約ヲ爲シ其ノ事業ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ事業ヲ爲サシムル契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ事業ノ成功ニ要スル豫定期間事業者ヲシテ其ノ成功シタル部分ニ付無償ニテ使用又ハ收益ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十二條 前條第一項ノ規定ニ依リ事業ヲ爲サシムル契約ヲ爲シタル場合ニ於

テ指定期間内ニ事業者其ノ事業ニ著手セサルトキハ政府ハ其ノ契約ヲ解除スルコトヲ得

第二十三條 第二十一條第一項ノ規定ニ依リ事業ヲナサシムル契約ヲ爲シタル場合ニ於テ豫定期間内ニ事業成功セサルトキト雖土地又ハ水面ノ狀況ニ依リ支障ナシト認ムルトキハ事業者ニ對シ其ノ成功シタル部分ノ賣拂、讓與又ハ貸付ヲ爲スコトヲ得

第二十四條 從前ヨリ引續キ寺院又ハ佛堂ノ用ニ供スル雜種財産ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ用ニ供スル間無償ニテ之ヲ當該寺院又ハ佛堂ニ貸付シタルモノト看做ス

寺院又ハ佛堂ノ上地ニ係ル雜種財産ハ其ノ用ニ供スル爲必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ無償ニテ第十五條ノ規定ニ拘ラス之ヲ當該寺院又ハ佛堂ニ貸付スルコトヲ得

第二十五條 政府ハ國有財産ノ種類ニ從ヒ其ノ臺帳ヲ備フヘシ

臺帳ニ記載スヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十六條 政府ハ毎會計年度間ニ於ケル國有財産增減總計算書及毎五年三月三十一日現在ノ國有財産現在額總計算書ヲ調製シ會計檢査院ノ檢査ヲ經テ之ヲ帝

國議會ニ報告スヘシ

前項ノ國有財産增減總計算書ニハ各省ノ國有財産增減報告書ヲ、國有財産現在額總計算書ニハ各省ノ國有財産現在額報告書ヲ添附スヘシ

附則

第二十七條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十一年三月勅令第六一號ヲ以テ同年四月一日ヨリ施行）

第二十八條 第二十五條及第二十六條ノ規定ハ當分ノ内公共用財産ニ付之ヲ適用セス

第二十九條 第二十六條ノ規定ニ依ル國有財産增減總計算書ハ本法施行ノ日ノ屬スル年度分ヨリ、國有財産現在額總計算書ノ第一回分ハ本法施行ノ日ノ現在ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第三十條 北海道國有未開地處分法中ノ規定ハ本法ノ規定ニ牴觸スルモノト雖當分ノ内仍其ノ效力ヲ有ス

第三十一條 國有林野法第二條、第四條乃至第七條、第九條、第十二條乃至第十四條、第十六條、第二十四條及第二十五條ノ規定ハ其效力ヲ失フ但シ本法施行前ニ係ル國有林野ノ增減異動報告ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第三十二條 從前ノ法令ニ依リテ爲シタル處分、契約其ノ他ノ行爲ハ本法中之ニ

相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第三十三條 本法ヲ朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ施行スル場合ニ於テ必要アルトキハ勅令ヲ以テ特別ノ定ヲ爲スコトヲ得

國有財産法施行令

（大正十一年一月二十八日勅令第一五號）改正（昭和二年三月三十一日勅令第四二號）

第一章 總則

第一條 左ニ掲クル動産及權利ニシテ國有ノモノハ之ヲ國有財産法第一條ノ國有財産トス

一 船舶、浮標、浮棧橋及浮船渠

二 不動産又ハ前號ニ掲クル動産ノ從物

三 事業所ニ於ケル機械及重要ナル器具

四 地上權、地役權、鑛業權、砂鑛權其ノ他之ニ準スヘキ權利

五 株式及出資ニ因ル權利

前項第三號ノ事業所ノ範圍ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第二條 各省大臣公共用財産又ハ公用財産ノ用途ヲ廢止セムトスルトキハ豫メ大藏大臣ニ之ヲ通知シ特ニ大藏大臣ト協定シタルモノヲ除クノ外用途廢止後遲滯

ナク之ヲ大藏大臣ニ引繼クヘシ

前項ノ規定ハ用途ノ廢止ト同時ニ國有財産タルノ性質ヲ失フモノ、國有林野法第三條第二項ノ規定ニ依リ營林財産ト爲スノ必要アルモノ、史蹟名勝天然記念物ニ指定セラレタルモノ及帝國鐵道會計、製鐵所特別會計、大學資金又ハ學校及圖書館資金ニ屬スルモノニ付之ヲ適用セス

第三條 各省大臣國有財産ノ管理換ヲ受ケムトスルトキハ所管大臣及大藏大臣ニ協議スヘシ

第四條 左ニ掲クル場合ニ於テハ所管大臣ハ大藏大臣ニ協議スヘシ

一 公用財産タル土地ノ用途ヲ變更セムトスル場合ニシテ大藏大臣ノ定ムルモノニ該當スルトキ

二 公用財産ト爲スノ目的ヲ以テ土地ノ交換ヲ爲シ又ハ寄附ヲ受ケムトスルトキ

三 雜種財産ヲ公用財産又ハ營林財産ト爲サムトスルトキ

四 營林財産ノ目的ヲ廢止セムトスルトキ

第五條 各省大臣公用財産ト爲スノ目的ヲ以テ土地ノ買入若ハ收用ヲ爲シ又ハ地上權ヲ取得シタルトキハ遲滯ナク之ヲ大藏大臣ニ通知スヘシ

第六條 前二條ノ規定ハ國有財産法施行地外ニ在ル財産及帝國鐵道會計ニ屬シ又ハ屬スヘキ財産ニ付之ヲ適用セス

第七條 國有財産ニ關スル事務ニ從事スル職員ハ其ノ取扱ニ係ル國有財産ヲ讓受ケ又ハ自己ノ所有物ト交換スルコトヲ得ス

第二章 賣拂、讓與及交換

第八條 公共團體ニ於テ維持保存ノ費用ヲ負擔シタル公共用財産ノ用途ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ其ノ公共團體ニ讓與スルコトヲ得但シ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外費用負擔ノ義務ヲ負ヒタル期間カ十年ニ滿タサルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第九條 公共團體又ハ私人ニ於テ公共用財産ノ用途ニ代ルヘキ他ノ施設ヲ爲シタル爲其ノ用途ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ其ノ施設ヲ爲シタル者又ハ其ノ相續人其ノ他ノ包括承繼者ニ讓與スルコトヲ得但シ財産ノ見込價格カ其ノ施設ニ要シタル費用ノ額ヲ超過スルトキハ超過額ニ相當スル部分ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十條 公共用財産又ハ公用財産ノ用途ヲ廢止シタル場合ニ於テ其ノ財産中寄附ニ係ルモノハ之ヲ其ノ寄附者又ハ其ノ相續人其ノ他ノ包括承繼者ニ讓與スルコトヲ得但シ寄附ノ際特約ヲ爲シタル場合ヲ除クノ外寄附ヲ受ケタル後二十年ヲ經過シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 國有財産ニ付交換ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ當該官廳ハ目的物ノ價格ヲ評定シ其ノ基礎ヲ明ニシタル調書ヲ作成スヘシ

評定價格ノ差額カ其ノ高價ナルモノノ價格ノ四分ノ一ヲ超ユルトキハ交換ヲ爲スコトヲ得ス

第十二條 前條第一項ノ規定ハ隨意契約ニヨリ國有財産ノ賣拂ヲ爲サムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第十三條 一定ノ用途ニ供セシムル目的ヲ以テ國有財産ノ賣拂、讓與又ハ交換ヲ爲ス場合ニ於テハ當該官廳ハ其ノ用途竝之ヲ其ノ用途ニ供スヘキ始期及期間ヲ指定スヘシ但シ當該官廳ニ於テ特ニ其ノ必要ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三章 境界査定

第十四條 國有財産ニ付キ境界ノ分明ナラサルモノアル場合ニ於テ當該官廳必要ト認メタルトキ又ハ隣接地所有者ノ申請アリタルトキハ當該官廳ハ其ノ境界査定ヲ施行スヘシ

第十五條 境界査定ヲ施行セムトスルトキハ當該官廳ハ其ノ日時及場所ヲ定メ書面ヲ以テ隣接地所有者ニ之ヲ通知スヘシ

前項ノ書面ノ送達ハ期日ニ付豫メ隣接地所有者ノ承諾アリタル場合ヲ除クノ外期日ノ前日ヨリ起算シ少クトモ七日前之ヲ爲スヘシ

第十六條 隣接地所有者期日ニ於テ立會ヲ爲スコト能ハサル事由ヲ申出テタルトキハ當該官廳ハ其ノ期日ヲ變更スルコトヲ得

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用セス

第十七條 境界査定ヲ了シタルトキハ當該官廳ハ書面ヲ以テ隣接地所有者ニ之ヲ通知スヘシ

隣接地所有者ハ當該官廳又ハ其ノ指定シタル官公署ニ就キ査定圖又ハ其ノ謄本ノ閲覽ヲ求ムルコトヲ得

第十八條 當該官廳第十五條又ハ前條ノ通知ヲ爲シタルトキハ配達證明郵便ニ依リタル場合ヲ除クノ外其ノ受領書ヲ徵スヘシ

第十九條 國有財産法第十二條ノ公告ハ官報ヲ以テ之ヲ爲シ且關係市區町村長又ハ之ニ準スヘキ者ヲシテ掲示其ノ他ノ方法ニ依リ之ヲ爲サシムヘシ

第四章 貸付及準貸付

第二十條 公共用財産又ハ公用財産ト爲スノ目的ヲ以テ寄附ヲ受ケタル國有財産ハ其ノ用途ニ供セサル期間無償ニテ之ヲ其ノ寄附者又ハ其ノ相續人其ノ他ノ包括承繼者ニ貸付スルコトヲ得

第二十一條 隨意契約ニ依リ國有財産ヲ貸付セムトスルトキハ當該官廳ハ貸付料ヲ評定シ其ノ基礎ヲ明ニシタル調書ヲ作成スヘシ國有財産法第十五條第二項ノ規定ニ依リ貸付期間ヲ更新セムトスルトキ亦同シ

第二十二條 前二條ノ規定ハ貸付ニ依ラスシテ國有財産ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムル契約ニ付之ヲ準用ス

第二十三條 雜種財産ニ付土地ノ開拓又ハ水面ノ埋立若ハ干拓ノ事業ヲ爲サシムル契約ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ當該官廳ハ事業者ヨリ左ノ事項ヲ具シタル事業計畫書ヲ提出セシムヘシ

一 土地又ハ水面ノ所在及面積
二 事業ノ目的
三 事業施行ノ方法及順序
四 成功豫定期間
五 收支豫算

六　計畫圖

事業成功ノ後公共ノ用ニ供スヘキ部分アルトキハ其ノ位置及面積ヲ事業計畫書ニ記載セシムヘシ

第二十四條　國有財産法第二十一條第一項ノ規定ニ依リ國有財産ノ賣拂又ハ有償貸付ノ豫約ヲナサムトスルトキハ當該官廳ハ賣拂價格又ハ貸付料ヲ評定シ其ノ基礎ヲ明ニシタル調書ヲ作成スヘシ

前項ノ規定ハ國有財産ノ讓與又ハ無償貸付ノ豫約ヲ爲サムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第二十五條　事業ノ成功ニ要スル豫定期間ハ契約ノ日ヨリ十年以内ニ於テ之ヲ定ムヘシ

天災其ノ他已ムヲ得サル事由ニ因リ必要アリト認ムルトキハ當該官廳ハ前項ノ規定ニ依リ定メタル期間ノ半ニ相當スル期間以内ニ於テ豫定期間ノ延長ヲ承認スルコトヲ得

第二十六條　當該官廳ハ契約ノ日ヨリ二年以内ノ期間ヲ指定シ事業者ヲシテ其ノ事業ニ著手セシムヘシ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ期間ニ付之ヲ準用ス

第二十七條　國有財産法第二十三條ノ規定ニ依リ事業者ニ對シ成功部分ノ賣拂、讓與又ハ貸付ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ當該官廳ハ特別ノ事由アリト認ムル場合ヲ除クノ外豫約ニ定メタル條項ニ準シテ其ノ契約ヲ爲スヘシ

第二十八條　國有財産法第二十四條第一項ニ規定スル雜種財産ノ使用又ハ收益ニ付テハ寺院又ハ佛堂ニ關スル主務大臣ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第二十九條　寺院又ハ佛堂國有財産法第二十四條第二項ノ規定ニ依リ雜種財産ノ貸付ヲ受ケムトスルトキハ地方長官ヲ經由シ主務大臣、其ノ財産ヲ管理スル大臣及大藏大臣ニ願出ツヘシ

前條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ貸付シタル雜種財産ニ付之ヲ準用ス

第五章　臺帳

第三十條　國有財産ノ臺帳ハ所管ノ各省ニ之ヲ備フヘシ但シ部局ノ長ニ於テ國有財産ニ關スル事務ヲ分掌スル場合ニ於テハ其部局毎ニ之ヲ備ヘ各省ニハ其總括簿ヲ備フルモノトス

第三十一條　國有財産ノ臺帳ハ其ノ種類毎ニ之ヲ調製シ左ノ事項ヲ記載スヘシ但シ財産ノ性質ニ依リ其ノ記載事項ヲ省略スルコトヲ得

一　種目

二　所在又ハ所屬
三　數量
四　價格
五　得喪變更ノ年月日及事由
六　其ノ他必要ナル事項

第三十二條　國有財産ノ臺帳ニ登錄スヘキ價格ハ購入ニ係ルモノハ購入價格、交換ニ係ルモノハ交換當時ニ於ケル評定價格、收用ニ係ルモノハ補償金額ニ依リ其ノ他ノモノハ左ノ區分ニ依リ之ヲ定ムヘシ

一　土地ニ付テハ類地ノ時價ニ比準シテ算定シタル金額
二　立木竹ニ付テハ其ノ材積ニ單價ヲ乘シテ算定シタル金額、庭木其ノ他材積ヲ基準トシテ算定シ難キ立木竹ハ見込價格
三　建物其ノ他ノ工作物及船舶其ノ他ノ動産ニ付テハ建築費、製造費又ハ見込價格
四　權利ニ付テハ第一條第四號ニ掲クルモノハ見込價格、第五號ニ掲クルモノハ拂込金額又ハ出資金額

第三十三條　土地及立木竹ノ價格ハ國有財産現在額總計算書調製ノ年三月三十一日ノ現況ニ依リ之ヲ改定スヘシ但シ臺帳ニ登錄シタル後二年ヲ經過セサルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テ土地ノ價格ハ類地ノ時價ニ比準シ、立木竹ノ價格ハ其ノ材積ニ單價ヲ乘シテ之ヲ算定スヘシ但シ庭木其ノ他材積ヲ基準トシテ算定シ難キ立木竹ニ付テハ見込價格ニ依ル

前二項ノ規定ハ帝國鐵道會計ニ屬スルモノニ付之ヲ適用セス

第三十四條　作業會計若ハ造幣局特別會計ノ固定資本ニ屬スルモノ又ハ製鐵所特別會計ノ固定財産ノ價格ハ前二條ノ規定ニ拘ラス其ノ資本價格又ハ財産價格ニ依ルヘシ

第六章　計算書及報告書

第三十五條　各省大臣ハ會計檢査院ニ證明ノ爲國有財産ノ增減計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ之ヲ會計檢査院ニ送付スヘシ

前項ノ計算書ハ國有財産ニ關スル事務ヲ分掌スル部局ノ長ヨリ直ニ會計檢査院ニ送付セシムルコトヲ得

第三十六條　各省大臣ハ毎會計年度間ニ於ケル國有財産增減報告書ヲ調製シ翌年度八月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

大藏大臣ハ各省ノ國有財産增減報告書ニ基キ國有財産增減總計算書ヲ調製シ各省ノ國有財産增減報告書ト共ニ之ヲ會計檢査院ニ送付スヘシ

第三十七條 各省大臣ハ毎五年三月三十一日現在ニ於ケル國有財産現在額報告書ヲ調製シ其ノ年九月三十日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

大藏大臣ハ各省ノ國有財産現在額報告書ニ基キ國有財産現在額總計算書ヲ調製シ各省ノ國有財産現在額報告書ト共ニ之ヲ會計檢査院ニ送付スヘシ

第七章 雜則

第三十八條 本令ニ定ムルモノヲ除クノ外國有財産ノ臺帳ニ關シ必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

第三十九條 第三十五條ニ規定スル計算證明書類ノ樣式及送付期限ニ付テハ會計檢査院ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第四十條 前條ニ定ムルモノヲ除クノ外本令ニ定ムル諸計算書ノ樣式ハ大藏大臣之ヲ定ム

第四十一條 本令ニ定ムル帳簿及書類ノ樣式ニハ國防上祕密ヲ要スル國有財産ニ付必要ナル特例ヲ設クヘシ

附則

第四十二條 本令ハ國有財産法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大正十一年四月一日ヨリ施行）

第四十三條 左ノ命令ハ之ヲ廢止ス但シ官有財産ノ增減異動ニシテ本令施行前ニ係ルモノノ報告ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

明治七年九月二十三日達皇城周圍內外ノ湟壘等修繕改築ニ關スル件
明治八年第百四十六號達
明治八年第百九十八號達
明治九年第四十六號達
明治十三年第六號達
明治十三年七月八日達皇城周圍內外ノ湟壘外岸接近ノ官有地ヘ家屋等建築ニ關スル件
明治十四年第十號達
明治十六年第四十五號達
官有地特別處分規則
官有財産管理規則
官有地取扱規則
明治二十四年勅令第十五號

明治二十七年勅令第九十二號
明治三十六年勅令第九十六號
明治三十九年勅令第二百二十號
明治四十一年勅令第百十九號
明治四十二年勅令第七十號
大正六年勅令第二百二十四號

第四十四條 本令施行ノ際ニ於ケル各省所管ノ雜種財産ハ國有林野及北海道國有未開地ヲ除クノ外第二條ノ規定ニ準シ本令施行ノ日ノ現在ニ依リ之ヲ大藏大臣ニ引繼クヘシ

第四十五條 本令施行ノ際國有財産ノ臺帳ニ登錄スヘキ土地及立木竹ノ價格ハ其ノ購入、交換又ハ收用ニ係ルモノト雖爾後二年ヲ經過シタルモノニ付テハ帝國鐵道會計ニ屬スルモノヲ除クノ外第三十二條第一號又ハ第二號ノ規定ニ依リ算定シタル金額ニ依ル

第四十六條 各省大臣ハ本令施行ノ日ノ現在ニ於ケル國有財産現在額報告書ヲ調製シ其ノ年十月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第四十七條 前三條ニ規定スルモノヲ除クノ外本令施行ニ關シ必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

國有財産法施行規則

（大正十一年二月八日大藏省令第一四號）

改正（大正十一年十二月二十八日同第六一）
同（昭和二年三月三十一日同第五）
同（七年八月二十三日同第一七號）

第一條 公用財産タル土地ノ用途ヲ變更セムトスル場合ニシテ之ニ因リ各箇ノ官廳、兵營、病院、監獄、學校、官舍、工場、倉庫、練兵場、作業場、演習場、射擊場、飛行場、牧場、農場、試驗場、演習林ノ敷地ニ異動ヲ生スヘキモノニ付テハ國有財産法施行令第四條ノ規定ニ依リ所管大臣大藏大臣ト協議スヘシ但シ其ノ異動ノ面積カ百坪ヲ超エサル場合及相接續スル兩敷地ノ區域ノ相互變更ニシテ其ノ面積カ各敷地ノ面積ノ一割ヲ超エサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 國有財産ノ臺帳ハ第一號樣式ニ據ル但シ帝國鐵道會計ニ屬スルモノ及作業會計又ハ造幣局特別會計ノ固定資本ニ屬スルモノ竝ニ製鐵所特別會計ノ固定財産ニ付テハ所管大臣大藏大臣ト協議シ別ニ其ノ樣式ヲ定ムルコトヲ得

國有林野ニシテ別ニ臺帳ノ設備アルモノニ付テハ之ニ總括ヲ附シテ國有財産ノ臺帳ニ代用スルコトヲ得

第三條 臺帳ニハ土地、建物及國有財産法施行令第一條第四號ニ掲クル權利ニ關

スル圖面ヲ附屬セシムヘシ但シ本令施行ノ際ニ於ケル雜種財産ニ付テハ其ノ重要ナルモノヲ除クノ外當分ノ内之ヲ省略スルコトヲ得

第四條 國有財産ノ總括簿ヲ備フル場合ニ於テハ第一號樣式中總括ニ準シテ之ヲ調製シ尚公用財産ノ分ニ付テハ前條ニ準シテ圖面ヲ附屬セシムヘシ

第五條 國有財産現在額報告書及國有財産增減報告書ハ第二號及第三號樣式ニ據ルル

附則

本令ハ國有財産法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大正十一年四月一日ヨリ施行）

第一號樣式（國有財産臺帳）

國有財産臺帳	屬所計會何	財産	名稱
		何	廳
		管理	

備考

一 本臺帳ハ一般會計及各特別會計所屬別ニ公用財産、營林財産及雜種財産毎ニ別冊トシ尚公用財産中神社ノ用ニ供スルモノ及國防上祕密ヲ要スルモノ、雜種財産中寺院又ハ佛堂ノ用ニ供スルモノ及公共團體ニ於テ直接公共ノ用ニ供スルモノハ各別冊ト爲スモノトス

二 各臺帳ニ登錄スヘキ國有財産ノ區分及種目ハ別表ノ定ムル所ニ依ルモノトス但シ工作物及器具機械ニ付テハ必要ニ應シ適宜其ノ種目ノ追補ヲ爲スコトヲ妨ケス

三 各臺帳ハ土地ノ種目別一區域ヲ基準トシテ口座ヲ分チ當該土地ノ定著物ハ勿論其ノ上ニ存スル官廳其ノ他ニ從屬スル動産及權利ヲモ其ノ口座ニ整理スルモノトス但シ土地ヲ基準トスル口座ニ整理シ難キモノニ付テハ別ニ口座ヲ設クルコトヲ要ス

四 各臺帳ニハ卷頭ニ索引ヲ附シ卷末ニ總括ヲ附スルモノトス但シ索引及總括ハ便宜各別冊ト爲スコトヲ妨ケス

五 各臺帳ノ口座ハ公用財産ニ在リテハ土地ノ種目ニ冠シタル名稱（例ヘハ何廳、何工場、何練兵場等ノ如シ）ヲ附シ所屬官廳順ニ、營林財産又ハ雜種財

産ニ在リテハ名稱ヲ附セス道府縣郡市（市ニ區アルモノニ付テハ市及區）區町村順ニ、其ノ土地ヲ基準トセサル口座ハ末尾トシ保管ノ官廳順ニ編綴スルモノトス

六　各口座ハ土地（地上權、地役權其ノ他之ニ準スヘキ權利ハ土地ニ準シ土地ノ次トス）、立木竹、建物、工作物、器具機械、船舶、鑛業權（砂鑛權ハ鑛業權ニ準ス）、株式及持分ノ順序ニ依リ整理スルモノトス

七　各樣式ノ標題ハ公用財産ニ在リテハ口座名、營林財産及雜種財産ニ在リテハ所在地（市區町村）名又ハ保管ノ官廳名ニ依ルモノトス但シ所在地名ニ依ルモノハ便宜之ヲ省略スルコトヲ妨ケス

八　沿革欄ニハ臺帳登錄ニ至ル迄ノ沿革ヲ詳細ニ記入スルモノトス

九　年月日欄ニハ得喪變更其ノ他登錄ヲ要スル事由ノ發生シタル年月日ヲ記入スルモノトス

十　公用財産中神社ノ用ニ供スルモノ及雜種財産中寺院若ハ佛堂ノ用ニ供シ又ハ公共團體ニ於テ直接公共ノ用ニ供スルモノニ付テハ土地ノ價格及土地ノ定著物ニ關スル記入ヲ要セサルモノトス

十一　數量ノ單位ハ別表ノ定ムル所ニ依リ單位未滿ハ之ヲ切捨ツ但シ全額單位未滿ノモノ及特ニ單位未滿ヲ存スルノ必要アルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

十二　一口座全部消滅シタル場合ニ於テハ之ヲ除斥シ別ニ編綴保存スルモノトス

口座	索引番號	口座	索引番號
何廳	1		
何倉庫	2		
何練兵場	3		

（索引）

備考　一　營林財産及雜種財産ノ分ニ付テハ口座欄ヲ「所在及所屬」欄トシ所在ノ道府縣郡市區町村名又ハ保管ノ官廳名ヲ記入スルモノトス

土　地　　何　　索引番號　5

種目	敷地	所在	何縣何郡何町字何々番地	沿革	何年何月民有宅地何坪買入此價格何程 何年何月何坪ヲ何省ヨリ管理換 何年何月何坪ヲ分割內務省ニ返還 舊簿坪數何坪價格何程

年月日	摘要	增			減			現在			備考
		數量	價格		數量	價格		數量	價格		
大正 11. 4. 1	現在		円			円		3,500	297,545 円		樹木10　價格45圓 坪當85圓
12.10.20	買入	120	12,000	00				3,620	309,545	00	
14. 3.20	用途廢止				350	29,759	00	3,270	279,786	00	樹木2　價格9圓
16. 3.31	價格改定		79,950	00				3,270	359,740	00	樹木8　價格40圓 坪當110圓

（土地）

備考

一　種目欄ニハ公用財産ノ種目ニ冠シタル名稱ハ之ヲ省略シテ記入スルモノトス

二　所在欄ニハ道府縣郡市區町村大字字地番ヲ記入スルモノトス但シ鐵道敷地其ノ他特殊ノモノニ付テハ便宜他ノ方法ニ依リ記入スルコトヲ妨ケス

三　地上權、地役權其ノ他之ニ準スヘキ權利ニ付テハ其ノ權利ノ種類ヲ欄外土地ノ右傍ニ赤書シ尙其ノ目的タル土地ノ所有者、存續期間其ノ他參考トナルヘキ事項ヲ備考欄ニ記入スルノ外總テ土地ニ準シテ記入スルモノトス

四　借地上ニ國有ノ建物其ノ他ノ工作物アル場合及一敷地中ノ一部カ借地ナル場合ニ於テハ口座ノ初葉備考欄ニ其ノ借地ノ所在及數量ヲ記入スルモノトス

五　營林財産中部分林、保安林、保管林、委託林、官地民木林、官行造林等ニ付テハ各其ノ數量ヲ備考欄ニ記入スルモノトス

六　雜種財産ノ賣拂又ハ交換ニ係ルモノニ付テハ其ノ賣拂價格又ハ交換差金ヲ備考欄ニ記入スルモノトス立木竹、建物等皆之ニ倣フ

建物　何　索引番號 5

建物番號	1 2	種目	事務所建	構造	1 木造三階建 2 木造二階建	沿革	何年何月起工　何年何月竣工 何年何月 2號建坪何坪延坪何坪建增

年月日	摘要	增 數量 建坪	增 數量 延坪	增 價格	減 數量 建坪	減 數量 延坪	減 價格	現在 數量 建坪	現在 數量 延坪	現在 價格	備考
大正 11. 4. 1	現在 ~~1~~			円			円	~~230~~	~~600~~	~~65,530~~ 円 00	
	~~2~~							~~400~~	~~750~~	~~73,250~~ 00	
	計							630	1,350	138,780 00	
14. 9.30	增築 2	40	70	17,500 00				440	820	90,750 00	
15. 2. 9	取毀 1				230	600	65,530 00				
16. 3.31	現在計							440	820	90,750 00	

備考

一　建物一棟毎ニ別葉トス但シ種目ノ同シキモノハ之ヲ併記スルヲ妨ケス

二　建物ニハ一口座ヲ通シテ番號ヲ附シ之ヲ建物番號欄ニ記入シ尙別ニ稱呼アルモノハ成ルヘク之ヲ附記スルモノトス

三　數棟ノ建物ヲ併記スル場合ニ於テハ其ノ番號ヲ建物番號欄ニ連記シ尙摘要欄ノ末尾ニ建物番號ヲ表示シテ一棟毎ニ記入シ計ヲ附シ增減ヲ加除スル毎ニ元記入ノ建物番號及現在欄ノ數字ヲ朱抹スルモノトス（一棟ノ建物全部消滅シタル場合ニ於テハ建物番號欄ノ當該番號及構造欄ノ當該記入事項ヲモ朱抹スルモノトス）

四　構造欄ニハ木造、鐵造、土藏造、煉瓦造、石造、人造石造、混凝土造、鐵筋混凝土造、鐵骨煉瓦造、鐵骨鐵筋混凝土造等ノ別ヲ記入シ尙平家建、二階建等ノ別及地下室又ハ屋階アルモノハ其ノ旨附記スルモノトス

五　數量欄延坪ハ地下室、屋階其ノ他ヲ含ム總延坪ヲ記入スルモノトス

六　建物ノ從物（疊、建具、窓掛等）ニ付テハ其ノ價格ヲ建物價格ニ合算シ住宅建ニ付テハ其ノ各數量ヲ備考欄ニ記入スルモノトス

工作物及器具機械
(工　作　物)
(立　木　竹)

何

索引番號	5

種目	雜工作物	構造又ハ細分	1.掲示場 2.石炭置場 3.避雷針	沿革	1.何年何月新設 2.何年何月新設 3.何年何月新設	何年何月擴張

年月日	摘要	增 數量	增 價格	減 數量	減 價格	現在 數量	現在 價格	備考
大正 11. 4. 1	現在 1		円		円	1	円 8500	
	2					1	350 00	
	~~3~~					~~4~~	~~120 00~~	
	計					6	555 00	
15. 2. 9	取毀 3			2	60 00	2	60 00	
16. 3.31	現在計					4	495 00	

(工作物、器具機械、立木竹)

備考

一　工作物、器具機械又ハ立木竹ノ各一種目毎ニ別葉トス但シ立木竹ニ付テハ材積ヲ基準トシテ其ノ價格ヲ算定シ難キモノハ其ノ數量及價格ヲ土地ノ備考欄ニ記入シテ其ノ價格ヲ土地ノ價格ニ合算スルコトヲ妨ケス

二　一種目ニ付構造又ハ細分ヲ異ニスルモノアル場合ニ於テハ成ルヘク之ヲ別葉トシ其ノ之ヲ併記スル場合ニ於テハ構造又ハ細分毎ニ番號ヲ附シ建物ノ部備考三ノ例ニ依ルモノトス

三　構造又ハ細分欄ニハ其ノ主要ナル構造別又ハ細分別ヲ適宜區分記入スルモノトス

四　數量單位二以上ニ及フモノハ本様式ノ數量欄ヲ適宜區分シテ相當欄ヲ設クルモノトス

（船舶）

船舶　　何

索引番號	5

種目	汽船	名稱	何丸	構造又ハ分細	汽機重聯成 木造 汽罐、箱形	尺度其ノ他	長 何尺 幅 何尺 深 何尺 登簿噸數 何噸	馬力何	治革	何年何月購入

年月日	摘要	增				減				現在				備考
		數量		價格		數量		價格		數量		價格		
		隻數	噸石數	円		隻數	噸石數	円		隻數	噸石數	円		
大正 11. 4. 1	現在									1	120	73,230	00	
15. 3.10	屬具買入			15	00					1	120	73,245	00	
15.12.20	屬具除斥							30	00	1	120	73,215	00	
16. 3.31	現在計									1	120	73,215	00	

備考

一　船舶一隻毎ニ別葉トス但シ雜船ハ之ヲ併記スルヲ妨ケス此ノ場合ニ於テハ構造又ハ細分毎ニ番號ヲ附シ建物ノ部備考三ノ例ニ依ルモノトス

二　構造又ハ細分欄ニハ其ノ主要ナル構造別又ハ細分別ヲ適宜區分記入シ尙汽船ニ付テハ汽機汽罐ノ種類及個數ヲモ附記スルモノトス

三　尺度其ノ他欄ニハ汽船ニ付テハ長幅深、馬力、登簿噸數其ノ他ニ付テハ各之ニ準シテ必要ナル事項ヲ記入スルモノトス

四　屬具其ノ他ノ從物ニ付テハ其ノ價格ヲ船舶價格ニ合算シ別ニ明細目錄ノ調製アルモノヲ除クノ外其ノ名稱及數量ヲ備考欄ニ記入スルモノトス

五　海軍艦船ニ付テハ本樣式ニ準シ適宜之カ記入ヲ爲スモノトス

（鑛業權、砂鑛權）

鑛業權
（砂鑛權）

何

索引番號	8

種目	何鑛山何採掘鑛區	登錄番號	何府縣何權第何號	所在	何縣何郡何村大字何	沿革	何年何月許可 何年何月面積何坪減區許可

年月日	摘要	增			減			現在			備考
		數量	價格		數量	價格		數量	價格		
大正 11. 4. 1	現在		円			円		8,350	163,000 円	00	
〃 13. 5. 1	增區	430	8,600	00				8,780	171,600	00	
16. 3.31	現在計							8,780	171,600	00	

備考

一 鑛區毎ニ記入スルモノトス但シ種目ヲ同シクスルモノハ合併記入スルヲ妨ケス此ノ場合ニ於テハ登錄番號欄ニ番號ヲ附シテ記入シ建物ノ部備考三ノ例ニ依ルモノトス

（株式及持分）

株式及持分

何

索引番號	10

種目	何株式	內容	一株ノ金額何圓 何々	沿革	何年何月何令ニ依リ取得

年月日	摘要	增			減			現在			備考
		數量	價格		數量	價格		數量	價格		
大正 11. 4. 1	現在		円			円		1,000	1,000,000 円	00	
13.10.10	引受	1,000	1,000,000	00				2,000	2,000,000	00	
16. 3.31	現在計							2,000	2,000,000	00	

備考

一 內容欄ニハ一株又ハ一口ノ金額其ノ他株式又ハ持分ノ內容ヲ示スヘキ事項ヲ詳細記入スルモノトス

總括　　何

所在　何縣何郡何村何字何々番地　　索引番號　5　（總括）

年月日	區分	種目	增 數量	增 價格	減 數量	減 價格	現在 數量	現在 價格	備考
大正 11. 4. 1	土地	敷地		円		円	3,500	297,545 円 00	樹木10. 價格 45 圓
	建物	事務所建					1,350 630	138,780 00	
	工作物	雜工作物					6	555 00	
	船舶	汽船					1 120	73,230 00	
	計							510,110 00	
12.10.20	土地	敷地	120	12,000 00			3,620	309,545 00	買入
14. 3.20	〃	〃			350	29,759 00	3,270	279,786 00	用途廢止 樹木2. 價格 9 圓 樹木8. 價格 36 圓
14. 9.30	建物	事務所建	70 40	17,500 00					增築
15. 2. 9	〃	〃	600 230	65,500 00					取毀
15. 2. 9	工作物	雜工作物			2	60 00			〃
15. 3.10	船舶	汽船	15 00						屬具買入
14年度計	建物	事務所建					820 440	90,750 00	
	工作物	雜工作物					4	495 00	
	船舶	汽船					1 120	73,245 00	
15.12.20	船舶	汽船				30 00			屬具除斥
16. 3.31	土地	敷地	79,954 00				3,270	359,740 00	價格改定 樹木8 價格 40 圓
	建物	事務所建					820 440	90,750 00	
	工作物	雜工作物					4	495 00	
	船舶	汽船				30 00	1 120	73,215 00	屬具除斥
	計							524,200 00	

備考

一　公用財産ノ分ニ在リテハ神社ノ用ニ供スルモノヲ除クノ外口座別ニ、營林財産ノ分ニ在リテハ事業區又ハ小林區別ニ、公用財産中神社ノ用ニ供スルモノ又ハ雜種財産ノ分ニ在リテハ郡市別（北海道ニ於テハ支廳別ト爲スコトヲ妨ケス）又ハ保管ノ官廳別ニ別葉トシ末尾ニ合計ヲ附スルモノトス

二　各葉ニハ前項ノ區分ニ依リ標題ヲ附シ區分種目順（神社ノ用ニ供スルモノニ付テハ其ノ種目ニ拘ハラス神社ノ社格別、寺院又ハ佛堂ノ用ニ供スルモノニ付テハ寺院ト佛堂トノ別）ニ依リ記入スルモノトス但シ其ノ異動ニ係ルモノハ臺帳ヲ加除スル毎ニ異動ノ順序ニ依リ記入スルコトヲ要ス

三　所在欄ノ記入ハ公用財産ノ分ニ在リテハ神社ノ用ニ供スルモノヲ除クノ外土地ノ部備考二ニ準シ其ノ他ノ分ニ在リテハ郡市名又ハ支廳名ニ止メ其ノ口座ト重複スルモノハ之ヲ省略スルモノトス

四　種目欄ニハ公用財産ノ種目ニ冠シタル名稱ハ之ヲ省略シテ記入スルモノトス

五　數量欄ニハ二箇ノ數量單位アルモノニ付テハ之ヲ上下ニ併記シ數量單位ヲ異ニスル種目ノ計ハ之ヲ省略スルモノトス

六　備考欄ニハ異動ノ事由、其ノ賣拂又ハ交換ニ係ルモノニ付テハ賣拂價格又ハ交換差金ヲ記入スルノ外地上權、地役權其ノ他之ニ準スヘキ權利ニ付テハ其ノ目的物ノ數量及價格ヲ、借地及營林財産中ノ部分林、保管林、委託林、官地民木林、官行造林等ニ付テハ其數量ヲ、立木竹ノ價格ヲ土地ノ價格ニ合算シタルモノニ付テハ其數量及價格ヲ各之ニ記入スルモノトス

七　年度ヲ經過スル毎ニ横線ヲ劃シ其ノ年度間ニ於ケル增減ヲ種目別ニ集計記入スルモノトス但シ其ノ異動ノ簡單ナル場合ニ於テハ便宜現在欄ノ整理ヲ爲シ種目別ノ集計記入ヲ省略スルコトヲ妨ケス

八　國有財産現在額報告書調製ノ年ニ於テハ三月三十一日ノ現在ニ依リ全部ニ渉リ區分種目順ニ改記シ其ノ年度間ニ於ケル增減ノ種目別集計ヲモ記入シ前項ノ記入ヲ省略スルモノトス此ノ場合ニ於テ價格改定ニ依ル價格ノ增減ト其ノ他ノ事由ニ依ル價格ノ增減ト合算セラルルトキハ其ノ内譯ヲ備考欄ニ記入スルコトヲ要ス

九　合計ハ區分別（營林財産又ハ雜種財産タル土地ニ付テハ寺院又ハ佛堂ノ用ニ供スルモノ及公共團體ニ於テ直接公共ノ用ニ供スルモノヲ除クノ外區分每種目別）ニ依リ年度ヲ經過スル毎ニ其ノ年度間ノ增減計ト共ニ之ヲ改記スルモノトス

十　第六項ハ異動事由ヲ除クノ外合計ニ付テモ之ヲ準用スルモノトス

（別表）

國有財産整理種目表

區分	種目	數量	單位	摘要
土地				
（公用財産）				
	何敷地		坪	
				一用途別一區域毎ニ區分シ特有名稱（例ヘハ大藏省、遞信大臣官舍、習志野演習場等ノ如シ）ヲ、其ノ特有ノ名稱ナキモノニ付テハ普通名稱ニ適宜番號ヲ附シ（例ヘハ第一號祕書官々舍ノ如シ）之ヲ冠スルモノトス 二相連接スル敷地ニ二以上ノ官廳又ハ二戸以上ノ官舍アル場合等一區域ト認メ得ヘキ敷地ヲ二以上ノ用途ニ供スル場合ニ於テハ各之ヲ別區域トシテ整理スヘキモノトス 三二以上ノ官廳カ敷地ヲ共通スル場合等同一敷地ヲ二以上ノ用途ニ供シ區分シ難キ場合ニ於テハ一敷地トシテ整理シ各其ノ名稱ヲ冠スルモノトス但シ官舍ト廳舍其ノ他トノ敷地ヲ共通スル場合ニ於テハ成ルヘク適宜區分スルコトヲ要ス 四將來一定ノ用途ニ供スルモノト決定シタルモノニ付テハ適宜之ヲ表示スルモノトス（例ヘハ議院建築敷地ノ如シ）

（營林財産）				
森林	歩			
原野	〃			
附屬地	〃			林道、苗圃、貯木場ヲ包括スルモノトス
（雜種財産）				
宅地	歩			
耕地	〃			
森林	〃			
原野	〃			
牧場	〃			
池沼	〃			
鑛泉地	〃			
墳墓地	〃			

	海濱地	〃	
	寄洲	〃	
	雜種地	〃	他ノ種目ニ屬セサルモノヲ包括スルモノトス
	何敷地（寺院佛堂供用地）	歩	寺院又ハ佛堂ノ名稱ヲ冠スルモノトス
	何敷地（公共團體公共用地）	歩	公園其ノ他特有名稱アルモノハ其ノ名稱ヲ、特有名稱ナキモノハ普通名稱ヲ冠スルモノトス
立木竹	樹木	（箇數）	庭木其ノ他材積ヲ基準トシテ其ノ價格ヲ算定シ難キモノヲ包括スルモノトス箇數ハ概數ニ依ルヲ妨ケス
	材積	石（竹ハ束）	
建物			
事務所建	建延坪	官署、學校、圖書館、病院、兵營、監獄（監房ヲ除ク）、停車場等ノ主タル建物ヲ包括スルモノトス	

住宅建	〃	官舍、合宿所等ノ主タル建物ヲ包括スルモノトス	
工場建	〃	上屋ヲモ包括スルモノトス	
倉庫建	〃	監房、廐舍、番小屋、物置、廊下、便所、門衞所、小使室等他ノ種目ニ屬セサルモノヲ包括スルモノトス	
雜屋建	〃		
工作物			
門	（箇數）	木門、石門等ノ各一箇所ヲ以テ一箇トス	
圍障間		柵、塀、垣、生垣等ヲ包括スルモノトス	
水道	（箇數）	一式ヲ以テ一箇トス	
下水	〃	溝渠、埋下水等ノ各一式ヲ以テ一箇トス	
築庭	〃	築山、置石、泉水等（立木竹ヲ除ク）ヲ一團トシ一箇所ヲ以テ一箇トス	
池井	〃	貯水池、瀘水池、井戸等ノ各一箇所ヲ以テ一箇トス	
鋪床	〃	石敷、煉瓦敷、混凝土敷、木塊鋪、アスファルト鋪等ノ各一箇所ヲ以テ一箇トス	
照明裝置	〃	電燈、瓦斯燈、弧光燈等ニ關スル設備（常時取リ外ツス部分ヲ含マス）ノ各一式ヲ以テ一箇トス	

煖房裝置	〃	煖爐、瓦斯煖爐等ヲモ包括シ各一式ヲ以テ一箇トス
冷室裝置	〃	一式ヲ以テ一箇トス
通風裝置	〃	一式ヲ以テ一箇トス
消火裝置	〃	一式ヲ以テ一箇トス
通信裝置	〃	私設電話、電鈴等ニ關スル設備ニシテ他ノ種目ニ該當セサルモノヲ包括シ各一式ヲ以テ一箇トス
煙突	〃	獨立ノ存在ヲ有スルモノニシテ煙道等ノ設備ヲ一團トシ一基ヲ以テ一箇トス
貯槽	〃	水槽、油槽、瓦斯槽等ヲ包括シ各其ノ箇數ニ依ル
橋梁	〃	棧橋、陸橋等ヲモ包括シ各其ノ箇數ニヨル
土留	〃	石垣、柵等ノ各一箇所ヲ以テ一箇トス
射場	〃	射擊場ニ於ケル諸工作物ノ一式ヲ以テ一箇トス
岸壁	間	
隧道	哩鎖又ハ間	
軌道	〃	
輕便軌道	〃	

電信架空裸線	亘長里間延長里間	
電信架空ケーブル	〃	
電信地下線	管路延長里間線條延長里間	同報電信線ヲ包括スルモノトス
電信水底線	線條延長浬分	海底線、湖底線、河底線ヲ包括スルモノトス
電話架空裸線	亘長里間延長里間	
電話架空ケーブル	〃	
電話地下線	管路延長里間線條延長里間	
電話水底線	線條延長浬分	海底線、湖底線、河底線ヲ包括スルモノトス
電力架空線	亘長里間延長里間	

電力地下線	亘長里間延長里間	
電車空架線	〃〃	
氣送管路	里間	
空氣供給管路	〃	
無線電信柱	（箇數）	一式ヲ以テ一箇トス
燈臺	〃	燈船ヲモ包括シ一箇所ヲ以テ一箇トス
望樓	〃	
起重機	〃	定置式ノモノニ付一式ヲ以テ一箇トス
昇降機	〃	一式ヲ以テ一箇トス
船渠	〃	浮船渠ヲモ包括シ各一式ヲ以テ一箇トス
竈及爐	〃	鎔鑛爐、反射爐、結晶爐、眞鍮爐等ノ各一式ヲ以テ一箇トス
原動裝置	〃	發電裝置、發動裝置、汽罐、瓦斯發生裝置等ノ各一式ヲ以テ一箇トス

變電裝置	〃	變流裝置、變壓裝置、蓄電裝置等ノ各一式ヲ以テ一箇トス
傳動裝置	〃	傳動裝置、シャフチング等ノ各一式ヲ以テ一箇トス
作業裝置	〃	除塵裝置、噴霧裝置、製鹽裝置等ノ各一式ヲ以テ一箇トス
諸標	〃	浮標、立標、信號標識等ノ各一箇所ヲ以テ一箇トス
雜工作物	〃	井戸屋形、掲示場、石炭置場、馬繋場、灰捨場、避雷針、船架等他ノ種目ニ屬セサルモノヲ包括シ各一箇所ヲ以テ一箇トス
器具機械（動產タル器具機械）		事業所ニ於ケルモノニ付テノミ適用アルモノトス
工場機械	（箇數）	機織機、印刷機等工場ニ於ケル土地ニ定著セサル主タル機械ヲ包括シ各一式ヲ以テ一箇トス
車輛	〃	機關車、客車、電車、貨車、自動車等ヲ包括スルモノトス
雜機械及器具	〃	他ノ種目ニ屬セサル動產タル機械及器具ヲ包括スルモノトス

船舶		
	（海軍艦船）	
	戰艦	隻噸（排水量）
	巡洋戰艦	〃〃
	巡洋艦	〃〃
	航空母艦	〃〃
	水雷母艦	〃〃
	敷設艦	〃〃
	海防艦	〃〃
	砲艦	〃〃
	驅逐艦	〃〃
	潛水艦	〃〃
	水雷艇	〃〃
	特務艦	〃〃
	特務艇	〃〃
	雜役船	〃〃
	（普通船舶）	
	汽船	隻噸（總噸數）
	帆船	隻石
	雜船	隻
鑛業權 砂鑛鑛權		
	何鑛山何採掘鑛區	坪
	何鑛山何試掘鑛區	〃

電動船、內火船等機關ニ依リ推進スルモノヲ包括スルモノトス

補助機械ヲ備フルモノヲモ包括スルモノトス

他ノ種目ニ屬セサル一切ノ船舶ヲ包括スルモノトス

特有名稱ヲ冠スルモノトス

株式及持分			
	何會社株式	株	特有名稱ヲ冠スルモノトス
	何持分	口	〃

備考

一　地上權、地役權其ノ他之ニ準スヘキ權利ハ土地ニ準スルモノトス

第二號樣式（國有財産現在額報告書）

大正何年何月何日現在何省所管

何會計所屬國有財産現在額報告書

備考

一　一般會計及各特別會計每ニ公用財産、營林財産及雜種財産ニ大別シ尙公用財産中神社ノ用ニ供スルモノ及國防上祕密ヲ要スルモノ、雜種財産中寺院又ハ佛堂ノ用ニ供スルモノ及公共團體ニ於テ直接公共ノ用ニ供スルモノハ各之ヲ細別シ臺帳ノ總括ニ依リテ記載スルモノトス但シ工作物及器具機械ノ種目ニ付テハ別ニ明細表ヲ作リ之カ記載ヲ省略スルコトヲ妨ケス

二　公用財産中國防上祕密ヲ要スルモノニ付テハ其ノ口座名、所在又ハ種目ノ記入ヲ省略スルモノトス

三　同一區分ニ屬スルモノ一種目ニ止ル場合ニ於テハ其ノ區分ノ記入ヲ省略スルモノトス

四　數量單位ニ關スル概括的說明ヲ備考欄ノ初頭ニ記入スルモノトス

五　地上權、地役權其ノ他之ニ準スヘキ權利ハ土地ニ準シテ記載シ尙其ノ目的物ノ數量及價格ヲ備考欄ニ記入スルモノトス

六　土地ノ價格ニ立木竹ノ價格ヲ合算シタルモノニ付テハ其ノ數量及價格ヲ備考欄ニ記入スルモノトス

七　借地及營林財産中ノ部分林、保安林、保管林、委託林、官地民木林、官行造林等ニ付テハ其ノ數量ヲ備考欄ニ記入スルモノトス

八　管理廳每ニ區分別ノ計（營林財産及雜種財産タル土地ニ付テハ種目別ノ計）ヲ附シ末尾ニ其ノ合計ヲ附スルモノトス但シ公用財産中神社ノ用ニ供スルモノ又ハ雜種財産ニ付テハ道府縣別ノ小計ヲモ附スルコトヲ要ス

甲 公用財産

管理廳名	口座名	所在	區分	種目	數量	價格	備考
何管理廳		何縣何郡何村何番地	建物	事務所建	數地		樹木、、、、價格、、、
				倉庫建			
				雜屋建			
				工作物			
何官廳						円	數量單位ハ各欄ニ明示シタルモノノ外土地ハ坪、建物右方ハ建坪左方ハ延坪、船舶ハ隻、其ノ左傍ニ併記セルモノハ噸(總噸數又ハ排水量)又ハ石、材積ハ石、其ノ他ハ孰レモ其ノモノニ相當スル箇數トス

				門			
				園障			
				水道			
				下水			
				船舶			
				汽船			
				帆船			
				雜船			
何官舍		何縣何郡何村何番地	建物	住宅建	數地		地上權坪數、、、價格、、、
				雜屋建			

、、、	何管理廳計				
、、、		土地	、、、	、、、	
		立木竹	、、、	、、、	
		建物	、、、	、、、	
		工作物	、、、	、、、	
		船舶	、、、	、、、	
、、、	合計		、、、	、、、	
、、、		土地	、、、	、、、	地上權坪數、、、價格、、、
		立木竹	、、、	、、、	

建物	、、、	、、、	、、、	
工作物	、、、	、、、	、、、	
器具機械	、、、	、、、	、、、	
船舶	、、、	、、、	、、、	

備考

一 神社ノ用ニ供スルモノニ付テハ區分種目欄ヲ社格欄トス.

何省所管何會計所屬

乙 營林財産

管理廳名				
林區事業區名				
所在	區分	數量	價格	備考
	種目			
何管理廳			円	數量單位ハ土地ハ歩、材積ハ石(竹ハ束)トス
何小林區何事業區		、、	、、	
何縣何郡何郡	土地	、、、	、、	、、

	森林	、、、	、、、	、、、	
	原野	、、、	、、、	、、、	
	材積	竹、、、			
何小林區何事業區			、、	、、	
何縣何郡何郡		、、、	、、、	、、、	
		、、、	、、、	、、、	
		、、、	、、、	、、、	
何管理廳計			、、	、、	
土地		、、、	、、、	、、、	
森林		、、、	、、、	、、、	
原野		、、、	、、、	、、、	
附屬地		、、、	、、、	、、、	
立木竹		竹、、、	、、、	、、、	
合計			、、	、、	

何省所管何會計所屬					
丙雜種財產					
管理廳名					
所在	區分				
	種目	數量	價格	備考	
何管理廳			円	數量單位ハ各欄ニ明示シタルモノノ外土地ハ坪、建物右方ハ建坪、左方ハ延坪、船舶ハ隻、其ノ左傍ニ併記スルモノハ噸（總噸數又ハ排水量）又ハ石、材積ハ石、其ノ他ハ何レモ其ノモノニ相當スル箇數トス	
何縣何市	土地	、、、	、、、	、、、	
	宅地	、、、	、、、	、、、	
	耕地	、、、	、、、	、、、	
	樹木	、、、	價格	、、、	

何縣何郡 建物	、、	、、	、、
事務所建	、、	、、	、、
雜屋建	、、	、、	、、
工作物		、、	、、
、、	、、	、、	、、
、、	、、	、、	、、
、、	、、	、、	、、
土地	、、	、、	、、
耕地	、、	、、	、、
雜種地	、、	、、	、、
、、	、、	、、	、、
、、	、、	、、	、、
、、	、、	、、	、、
、、	、、	、、	、、
何縣小計		、、	、、
土地	、、	、、	、、

宅地	、、	、、	、、
耕地	、、	、、	、、
、、	、、	、、	、、
、、	、、	、、	、、
、、	、、	、、	、、
、、	、、	、、	、、
、、	、、	、、	、、
何廳汽船	、、	、、	、、
、、、	、、	、、	、、
何管理廳計		、、	、、
土地	、、	、、	、、
宅地	、、	、、	、、
耕地	、、	、、	、、
、、	、、	、、	、、
建物	、、	、、	、、
工作物	、、	、、	、、

樹木、、、價格、、、

、、、、、、

第三號樣式（國有財産增減報告書）

大正何年度何省所管

何會計所屬國有財産增減報告書

船舶	、、、	、、、	、、、	、、、	、、、	、、、	、、、	
合計		、、	、、	、、	、、	、、	、、	
土地	、、、	、、、	、、、	、、、	、、、	、、、	、、、	
宅地	、、、	、、、	、、、	、、、	、、、	、、、	、、、	
耕地	、、、	、、、	、、、	、、、	、、、	、、、	、、、	
建物	、、、	、、、	、、、	、、、	、、、	、、、	、、、	
工作物	、、、	、、、	、、、	、、、	、、、	、、、	、、、	
船舶	、、、	、、、	、、、	、、、	、、、	、、、	、、、	

備考

一 一般會計及各特別會計毎ニ公有財産、營林財産及雜種財産ニ大別シ尙公用財産中神社ノ用ニ供スルモノ及國防上祕密ヲ要スルモノ、雜種財産中寺院又ハ佛堂ノ用ニ供スルモノ及公共團體ニ於テ直接公共ノ用ニ供スルモノハ各之ヲ細別シ臺帳ノ總括ニ依リテ記載スルモノトス但シ工作物及器具機械ノ種目ニ付テハ別ニ明細表ヲ作リ之カ記載ヲ省略スルコトヲ妨ケス

二 公用財産中國防上祕密ヲ要スルモノニ付テハ其ノ口座名、所在又ハ種目ノ記入ヲ省略スルモノトス

三 同一區分ニ屬スルモノ一種目ニ止ル場合ニ於テハ其ノ區分ノ記入ヲ省略スルモノトス

四 數量單位ニ關スル概括的説明ヲ備考欄ノ初頭ニ記入スルモノトス

五 增減ノ事由ハ備考欄ニ簡明ニ記入スルモノトス

六 地上權、地役權其ノ他之ニ準スヘキ權利ハ土地ニ準シテ記載シ尙其ノ目的物ノ數量及價格ヲ備考欄ニ記入スルモノトス

七 土地ノ價格ニ立木竹ノ價格ヲ合算シタルモノニ付テハ其ノ數量及價格ヲ備考欄ニ記入スルモノトス

八 借地及營林財産中部分林、保安林、保管林、委託林、官地民木林、官行造林等ニ付テハ其ノ數量ヲ備考欄ニ記入スルモノトス

九 管理廳毎ニ區分別ノ計（營林財産及雜種財産タルシ公用財産中神社ノ用ニ供スルモノ又ハ雜種財産ニ付テハ道府縣別ノ小計ヲモ附スルコトヲ要ス土地ニ付テハ種目別計）ヲ附シ末尾ニ其ノ合計及差引計ヲ附スルモノトス但

何省所管何會計所屬

甲　公用財産

管理廳名	口座名	所在	種目	增 數量	增 價格	減 數量	減 價格	備考
何管理廳		區分			円		円	
何官署								
何縣、、、			敷地	、	、			數量單位ハ各欄ニ明示シタルモノノ外土地ハ坪、建物右方ハ建坪、左方ハ延坪、船舶ハ隻、其ノ左傍ニ併記セルモノハ噸（總噸數又ハ排水量）又ハ石、材積ハ石、其ノ他ハ孰レモ其ノモノニ相當スル箇數トス
			建物	、	、			購入
			事務所	、	、			樹木、、、價格、、、
			建	、	、			
			倉庫建	、	、	、	、	新築
			雜屋建	、	、	、	、	同
								增ハ新築 減ハ取毀

何官署	何縣、、、	敷地	、	、		增設
		建物	、	、		同
		住宅建	、	、		同
		雜屋建	、	、		同
			、	、		同
			、	、		同
			、	、		用途廢止
			、	、	、	樹木、、、價格、、、
			、	、	、	用途廢止
			、	、	、	同
			、	、	、	同
			、	、	、	同
			、	、	、	同
何管理廳計		土地	、	、		
		立木竹	、	、		

建物	、、	、	、	、、	、	、	
工作物		、	、		、	、	
、、、	、、	、	、	、、	、	、	
、、、	、、	、	、	、、	、	、	
合計		、	、		、	、	
、、、	、、	、	、	、、	、	、	
、、、	、、	、	、	、、	、	、	
、、、	、、	、	、	、、	、	、	
差引計		、	、				
、、、	、、	、	、				
、、、	、、	、	、				

備考

一 神社ノ用ニ供スルモノニ付テハ區分種目欄ヲ社格欄トス

何省所管何會計所屬

乙 營林財產

管理廳名 林區事業區名	所在	區分種目	增 數量	增 價格	減 數量	減 價格	備考
何管理廳				円		円	數量單位ハ土地ハ歩、材積ハ石（竹ハ束）トス
何小林區何事業區	何縣何郡	土地	、、	、、			
		森林	、、	、、			購入
		原野	、、	、、			〃
		材積	竹、、、	、、			〃
何小林區何事業區	何縣何郡	土地			、、	、	

森林材積

目的廢止

〃

何管理廳計

合計

差引計

何省所管何會計所屬

丙雜種財産

管理廳名	所在	種目	增 數量	增 價格	減 數量	減 價格	備考
何管理廳	何縣何市	土地	、、	、	、	、	數量單位ハ各欄ニ明示シタルモノノ外土地ハ坪、建物ハ右方ハ建坪、左方ハ延坪、船舶ハ隻、其ノ左傍ニ併記セルモノハ噸（總噸數又ハ排水量）又ハ石、材積ハ石、其ノ他ハ孰レモ其ノモノニ相當スル箇數トス
		宅地	、、	、	、	、	
		耕地			、	、	何省ヨリ引受元何
		建物	、、	、			樹木、、、價格、、、
		事務所	、、	、			賣拂
		建	、、	、			
		雜屋建	、、	、			
	何縣何郡	工作物	、、		、	、	何省ヨリ引受元何
		土地	、、	、	、	、	同
		宅地	、	、	、	、	何省ヨリ引受元何
		耕地	、	、	、	、	〃
		雜種地	、	、	、	、	何敷地トシテ何省ヘ引繼
	何縣小計	土地	、	、	、	、	何省ヨリ引受元何
		宅地	、	、	、	、	賣拂
		耕地	、	、	、	、	〃
			、	、	、	、	〃

欄	1	2	3	4	5	6	下欄
何廳 、、	、、	、	、				、
、、	、、	、	、				、、
汽船	、、	、	、				何省ヨリ引受元何
、、、 、 船	、、	、	、				、、
何管理廳計		、	、		、	、	
土地	、、	、	、	、、	、	、	
宅地	、、	、	、	、、	、	、	、、、、、、
耕地	、、	、	、	、、	、	、	
、、				、、	、	、	
建物	、、	、	、	、、	、	、	
工作物		、	、				
船舶	、、	、	、				
、、	、、	、	、				
合計		、	、		、	、	
土地	、、	、	、	、、	、	、	
宅地	、、	、	、	、、	、	、	

欄	1	2	3	4	5	6
耕地	、、	、	、	、、	、	、
、、	、、	、	、	、、	、	、
建物	、、	、	、	、、	、	、
工作物		、	、		、	、
船舶	、、	、	、			
差引計		、	、			
、、、	、、	、	、			
、、	、、	、	、			
、、	、、	、	、			
、、	、、	、	、			
、、、	、、	、	、			

內務省所管國有財産取扱規程

（大正十一年六月十九日內務省訓令第一〇號）

改正（大正十一年七月十九日訓令第一四號、同年十月二十日同第二一號、十三年四月三十日同第六號、昭和二年八月二十六日同第二〇號、三年四月二十六日同第五號、四年六月同第九號、八月同第一八號、五年四月同第五號）

第一條 內務省所管ノ國有財産ハ本規程ニ依リ取扱フヘシ但シ別段ノ定アルモノハ其ノ定ニ依ル

第二條 本規程ニ於テ部局長ト稱スルハ內務大臣官房會計課長、土木出張所長、〔千住機械工場監督〕、土木試驗所長、衞生試驗所長、社會局長官、職業紹介事務局長、癈兵院長、神宮大宮司、造神宮副使、警察講習所長、武藏野學院長、榮養研究所長、國立癩療養所長、警視總監、北海道廳長官及府縣知事ヲ謂フ

第三條 左ニ揭クル事項ハ部局長限リ之ヲ處理スヘシ

一 國有財産ノ管理ニ關スル事項

二 公用財産ノ一時使用許可ニ關スル事項

三 公用財産タル土地ノ用途變更ニシテ大藏大臣ノ定メタルモノニ該當セサルモノ、其ノ異動面積百坪ヲ超エサルモノ、相接續スル兩敷地區域ノ相互變更面積カ其ノ敷地ノ一割ヲ超エサルモノノ用途ヲ變更スル事項

四 國有財産法施行令第一條第一項第二號ノ從物ヲ主物ヨリ分離シ公用財産タル用途ヲ廢止スル事項

五 公共用財産ト爲ス爲土地ノ買入、收用若ハ寄附受納ヲ爲ス事項

六 公共用財産ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムル事項

七 公共用財産ノ用途ヲ變更スル事項

八 公共用財産及神社ノ用ニ供スル公用財産ノ用途ヲ廢止シ之ヲ大藏省所管ニ引繼ヲ爲ス事項

九 公共用財産ヲ公用財産ト爲ス爲他省所管ニ管理換ヲ爲ス事項

十 公共用財産若ハ神社ノ用ニ供スル公用財産ヲ營林財産ト爲ス爲農林省所管ニ管理換ヲ爲ス事項

十一 史蹟、名勝、天然紀念物ニ指定セラレタル財産ヲ他省ヨリ引繼ヲ受ケ若ハ所有者ヨリ寄附ヲ受納スル事項

十二 他省所管ノ公用財産ヲ公共用財産ト爲ス爲管理換ヲ受クル事項

十三 農林省所管ノ國有林野ヲ公共用財産ト爲ス爲又ハ神社上地ノ農林省所管國有林野ヲ神社ノ用ニ供スル公用財産ト爲ス爲管理換ヲ受クル事項

十四 神社ノ用ニ供スル爲土地ノ寄附ヲ受納スル事項

十五 神社用地又ハ公共用財産タル土地ノ用途ヲ廢止シ之ヲ神社用地又ハ公共用財産ト爲スノ必要アル民有地ト交換スル事項

十六 公用財産ノ用途ヲ廢止シ之ヲ公共用財産ト爲ス爲又ハ公共用財産ノ用途ヲ廢止シ之ヲ公用財産ト爲ス爲大藏省所管ニ引繼ヲ爲ササル事項

十七 公用財産タル立木竹中庭木其ノ他材積ヲ基準トシテ算定シ難キモノ及工作物中臺帳價格千圓以下ノモノニ付取毀ノ目的ヲ以テ用途廢止ヲ爲ス事項

前項第十二號及第十三號ノ場合ニ於テハ各省關係部局長及所轄稅務監督局長ニ、第十四號乃至第十六號ノ場合ニ於テハ所轄稅務監督局長ニ協議シ第十七號ノ場合ニ於テハ所轄稅務監督局長ニ事前通知ヲ爲スヘシ

第四條 部局長公用財産ト爲ス爲他省ヨリ國有財産ノ管理換ヲ受クルノ必要アルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ目的財産ニ關スル調書土地又ハ建物ニ在リテハ圖面ヲ添ヘ內務大臣ニ稟請スヘシ

部局長部局相互間ニ於テ國有財産ノ所屬換ヲ爲スノ必要アルトキハ其ノ事由及調書ノ外當該部局間ニ於ケル協議ノ結果ヲ具シ內務大臣ニ稟請スヘシ

第四條ノ二 削除（大正十三年四月內務省訓令第六號）

第五條 部局長公用財産ト爲ス爲土地ノ交換ヲ爲シ又ハ不動産ノ寄附ヲ受クルノ必要アルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ土地又ハ建物ニ在リテハ圖面ヲ添ヘ內務大臣ニ稟請スヘシ

前項土地ノ交換ヲ爲サムトスルトキハ國有財産法施行令第十一條ニ依リ作成シタル調書ヲ添附スヘシ

第五條ノ二 削除（大正十三年四月內務省訓令第六號）

第六條 部局長公用財産ト爲ス爲土地ノ買入若ハ收用ヲ爲シ又ハ地上權ヲ取得シタルトキハ直ニ內務大臣ニ報告スヘシ

第七條 部局長公用財産ノ用途若ハ營林財産ノ目的ヲ廢止セムトスルトキ、雜種財産ヲ公用財産又ハ營林財産ト爲サムトスルトキ、公用財産タル土地ノ用途ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ臺帳ノ抄本（圖面アルモノハ圖面共）ヲ添附シ內務大臣ニ稟請スヘシ

公用財産ノ用途廢止ノ後仍引續キ內務大臣ノ管理ヲ必要ト認ムルモノアルトキハ其ノ意見ヲ具申スヘシ

第八條 部局長國有財産ヲ貸付セムトスルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ契約書案ヲ添附シ內務大臣ニ稟請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ隨意契約ニ依ルモノニ付テハ國有財産法施行令第二十一條ノ規定ニ依ル調書ヲ添附スヘシ

第九條 部局長國有財産ノ使用若ハ收益ヲ爲サシメムトスルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ契約書案、隨意契約ニ依ルモノニ付テハ國有財産法施行令第二十二條ノ規定ニ依ル調書（土地又ハ建物ニ在リテハ圖面共）ヲ添附シ內務大臣ニ稟請スヘシ

第十條 削除（大正十三年四月內務省訓令第六號）

第十一條 削除（大正十三年四月內務省訓令第六號）

第十二條 部局長國有財産ニ付境界査定ヲ施行シタルトキハ其ノ調書及査定圖面ヲ調製シ之ヲ保存スヘシ

第十三條 國有財産亡失又ハ毀損シタルトキハ部局長ハ遲滯ナク其ノ事由ヲ詳具シ損害額調書ヲ添附シ內務大臣ニ報告スヘシ但シ其ノ損害額ノ輕微ナルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 部局長ハ國有財産ノ價格ヲ評定セシムル爲常置又ハ臨時ノ價格評定員ヲ命スヘシ

第十五條 臺帳ニ附屬セシムヘキ圖面ハ左ノ區分ニヨリ調製スヘシ

一 土地及國有財産法施行令第一條第四號ニ揭クル權利ノ目的物ニ付テハ縮尺六百分ノ一ノ平面圖但シ場合ニ依リ其ノ縮尺ヲ變更スルコトヲ得

二 建物ニ付テハ百分ノ一ノ平面圖

第十六條 國有財産法施行規則第一號樣式備考二ノ但書ニ依リ工作物又器具機械ノ種目ノ追補ヲ要スルモノアルトキハ內務大臣ニ稟請スヘシ

第十七條 部局長ハ左ノ區分ニ依リ國有財産增減計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ直接之ヲ會計檢査院ニ送付スヘシ

一 北海道廳ニアリテハ年二回（第一回自四月至九月期間、第二回自十月至三月期間）

二 北海道廳以外ノ部局ニアリテハ年一回（自四月至三月期間）

計算證明規程第七十一條ニ依リ每年度最終ノ國有財産增減計算書ニ添付スヘキ明細書ハ第三號樣式ニ依リ調製スヘシ

第十八條 部局長ハ第一號樣式ニ依リ每會計年度間ニ於ケル國有財産增減報告書二通ヲ調製シ翌年度五月三十一日迄ニ內務大臣ニ進達スヘシ

第十九條 部局長ハ第二號樣式ニ依リ每五年三月三十一日現在ニ依ル國有財産現在額報告書二通ヲ調製シ其ノ年六月三十日迄ニ內務大臣ニ進達スヘシ

附則

第二十條　本規程ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

第二十一條　國有財産現在額報告書ノ第一回ハ大正十一年四月一日現在ニ依リ調製シ其ノ年七月三十一日迄ニ内務大臣ニ進達スヘシ

第二十二條　左ニ掲ケタル訓令及通牒ハ之ヲ廢止ス但シ官有財産ノ増減異動ニシテ大正十年度中ニ係ルモノノ報告ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

訓　令

明治二十三年十月内務省訓令第三十七號官有地賣貸評價委員設定ノ件

明治二十六年十一月内務省訓令第六百九十四號官有土地水面ノ公私有區別

明治二十七年四月内務省訓令第二百三十八號官有土地水面竝土石竹木等賣買貸借交換讓與ノ際契約書省略ノ件

明治三十三年五月内務省訓令第五百二十五號公用土地買上規則ニ依リ買上ケ又ハ土地收用法ニ依リ收用シタル土地處分等ノ場合ニ於ケル取扱方ノ件

明治三十三年六月内務省訓令第二十號、明治三十八年四月内務省訓令第十四號直轄河川改修工事ノタメ官有地ヲ要スル場合取扱方ノ件

明治三十六年十月内務省訓令第六百二十五號耕地整理法第十條ニ依リ國有地ヲ參加土地所有者ニ交付シ又代地ヲ國有ニ編入ノ件

明治三十六年十月内務省訓令第六百六十二號御料地ヲ賣渡シタル場合ニ於ケル地種組替ノ件

明治三十九年五月内務省訓令第三百四十四號官有土地水面竝土石竹木等交換讓與ニシテ無條件ノモノハ受書ヲ徵セサルモ妨ナキ件

明治四十年十二月内務省訓令第千百三十號大藏省所管ノ固定資本ニ屬スル土地處分ノ場合地種組替ニ關スル件

明治四十二年十二月内務省訓令第六百二十號、明治四十三年三月内務省訓令第八十號地種目組替取扱ニ關スル件

大正元年十一月内務省訓令第四號官有財産竝其増減異動報告方

大正二年一月内務省訓令第一號國有土地水面等ニ關スル委任事項

大正二年四月内務省訓令第百九十九號國有土地水面ニシテ各地ニ散在スル小畝歩ノモノ賣却ノ件

大正八年十月内務省訓令第六百八十五號官有財産ノ處分委任ノ件

達

明治九年五月内務省達乙第五十九號地所拂下代價算出方

通　牒

明治二十三年十月內務書記官通牒地甲第二十三號官有地賣貸評價委員選定方
明治二十五年一月營甲第百十號官有地積算法ノ件
明治二十五年十二月內務書記官通牒庶甲第二百七十九號官有財產管理規則第十三條ニ公共組合ヲモ含ムノ件
明治二十七年十二月甲第三百九十七號風潮除又ハ風致等ノ爲メ樹木獻植ノ件
明治三十年三月土監甲第二百二十號通牒、明治三十八年四月祕甲第十七號通牒直轄河川改修工事ノタメ御料地中潰地ヲ要スル場合取扱方ノ件
明治三十年十月庶甲第百九十五號各官廳ノ所有ニ供スル爲メ府縣郡市町村ヨリ土地ヲ寄附セントスルトキハ各其議會ノ議決書及監督行政廳ノ認可若ハ許可書ヲ添屬シテ出願セシムル件
明治三十一年三月庶務局通牒庶甲第四十號官有地讓與ノ場合ニ於テモ評價セシムヘキ件
明治三十一年九月庶甲第二百十二號森林法第二條ニ該當スル官有地ヲ保安林ニ編入ヲ要スル場合ニ於ケル手續及人民ノ獻植ヲ許可セラレタル場合ニ於ケル取扱方ノ件
明治三十一年十二月庶甲第二十六號官有土地森林原野收入金徵收規程中改正

ニ就キ產物年期賣拂代金徵收方ノ件
明治三十三年五月庶甲第百三十三號公用土地買上規則ニ依リ買上ケ又ハ土地收用法ニ依リ收用シタル土地處分等ノ場合ニ於ケル取扱方ノ件
明治三十四年六月土甲第二十五號河川改修工事ノタメ買收若ハ收用シタル土地貸付方
明治三十七年四月藏甲第十八號土地臺帳規則施行細則改正ノ結果土地所有權登記ニ關スル件
明治三十七年七月藏甲第三十一號無番號ナル官有地登記ノ件
明治三十七年十一月理甲第十號直接公用ヲ廢シタル官有地ヲ戰時經營ノ一事業トシ小學校紀念植林ニ充ツルノ目的ヲ以テ拂下ノ件
明治三十八年九月青甲第四十一號市町村又ハ公立小學校ノ基本財產造成ノ爲メ官有地特別處分ノ件
明治三十九年四月理甲第六號町村有ノ戰時紀念林ニ要スル官有地特別處分ノ件
明治三十九年四月理甲第三十八號小學校生徒樹栽地ニ供スル官有地特別處分ノ件

明治三十九年六月藏甲第三百九號土地臺帳規則施行細則改正ニ付注意方ノ件
明治三十九年八月藏甲第二百五十二號大藏省所管ノ官用地ヲ同省限リ使用許否ノ件
明治三十九年九月地理課通牒理甲第二十二號官有土地水面賣貸讓與交換ノ際評價書ニ揭記スヘキ事項ノ件
明治四十年八月農甲第二十七號國有林野法第三條第一項ニ依リ組換ヲ爲ス場合ノ協議手續ニ關スル件
明治四十年十月香甲第四十六號官有地特別處分規則第三條適用ノ件
明治四十一年五月理甲第四號社寺佛堂合併跡地讓與ニ關スル件
明治四十二年四月理甲第三號民有神社地及寺院敷地ノ上地許否ノ件
明治四十二年六月理甲第九號官有地ノ賣却貸付ノ場合ニ於ケル入札又ハ契約保證金ニ關スル件
明治四十二年七月富乙第六十五號私有地ノ土砂ヲ無願採取ノ件
明治四十二年十二月藏甲第二百三十六號民有地ノ國有トナリ又國有地ノ民有トナリタル場合所轄稅務署ヘ通知ノ件
明治四十二年十二月閣甲第五十四號地種目組替取扱ニ關スル件

明治四十二年十二月會計課通牒會甲第二百號量水標ハ官有財產トシテ取扱ハサル件
大正元年十二月理第三百號國有地ヲ民有地ト爲ス場合ノ取扱方ニ關スル件
大正二年一月元理第三百二十三號ノ內國有土地水面及木竹土石砂利其他產物ニ關スル委任事項改正ニ關スル件
大正二年二月理第六十二號鐵道院ニ於ケル土地取扱官吏
大正三年二月發理第一號御大禮紀念事業經營ノ爲メ官有地拂下ノ場合ニ於テ官有地特別處分規則第一條第一號適用ニ關スル件
大正五年七月閣理第七號鐵道用地ニ關シ官有地ノ一部管理替ノ場合ニ於ケル取扱方ノ件
大正五年八月會計課通牒發會第百三十九號船舶取扱方
大正五年十月秋里第六號官有地貸付料徵收ニ關スル件
大正六年十二月理第三百四十七號未登記國有地公共團體ニ拂下箇所登記ニ關スル件
大正七年九月阪理第十一號官有地特別處分規則第一條第二號ノ適用ニ關スル件

第一號樣式（國有財産增減報告書）

何年度內務省所管

國有財産增減報告書

何（廳名）

備考

一 公用財産、營林財産及雜種財産每ニ別紙ニ調製スルモノトス

二 公用財産中神社ノ用ニ供スルモノ及雜種財産中公共團體ニ於テ直接公共ノ用ニ供スルモノハ各之ヲ區別シ臺帳ノ總括ニヨリテ記載スルモノトス尙神社ノ用ニ供スルモノハ區分種目欄ニ社格ヲ記載スヘシ

三 數量欄ニハ土地ハ坪、建物ハ右傍ニ建坪左傍ニ延坪、船舶ハ右傍ニ隻左傍ニ噸又ハ石ヲ、立木竹ハ材積ニヨルモノハ木、竹ノ區分ヲ示シ記載スルモノトス

四 同一區分ニ屬スルモノ一種目ニ止マル場合ニ於テハ區分種目欄ニハ其ノ區分ノ記入ヲ省略シ直ニ種目ヲ記載スヘシ（樣式土地ノ場合ノ如シ）

五 增減ノ事由ハ備考欄ニ簡明ニ記入スルモノトス

六 地上權、地役權、借地權其ノ他之ニ準スヘキ權利ハ土地ニ準シテ記載シ尙其ノ目的物ノ數量及價格ヲ備考欄ニ記入スルモノトス

七 土地ノ價格ニ立木竹ノ價格ヲ合算シタルモノニ付テハ其ノ數量及價格ヲ備考欄ニ記入スルモノトス

八 借地及營林財産中部分林、保安林、保管林、委託林、官地民木林、官行造林等ニ付テハ其ノ數量ヲ備考欄ニ記載スルモノトス

九 公用財産、營林財産及雜種財産每ニ區分別（營林財産及雜種財産タル土地ニ付テハ種目別）ノ計ヲ附スルモノトス

（公用財産）

（用紙美濃十三行全罫）

管理廳名		增			減			備考
口座名								
所在	區分		數量	價格		數量	價格	
	種目							
何廳（部局名）								
何々（臺帳口座名）								

何縣・何番地	何々（臺帳口座名）	雜船	帆船	船舶	、、、、	圍障	門	工作物	雜屋建	倉庫建	建事務所	建物	敷地	備考
敷地		雜船	帆船	船舶	、、、、	圍障	門	工作物	雜屋建	倉庫建	建事務所	建物	敷地	
一〇〇坪		二〇〇隻	二〇一石	三隻	、、箇	五五間	二箇		一一〇〇坪			八七〇〇坪	二〇〇坪	
一、五〇〇		五〇〇	一、〇〇〇	一、五〇〇	一〇〇	七七〇	一五〇	九二〇	七〇〇	四、〇〇〇	七、五〇〇	一二、二〇〇円	二、〇四〇円	公用財産、雜種財産ノ記載方ハ本例ニ準ス但營林財産ニ付テハ口座名ヲ林區事業區名トシ雜種財産ニ付テハ口座名ヲ除クモノトス
〇〇〇		〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	
價額用材木給一一〇〇〇〇止本														

何縣・何番地	何々（臺帳口座名）	雜船	帆船	船舶	、、、、	圍障	門	工作物	雜屋建	倉庫建	建事務所	建物	敷地	備考
敷地		雜船	帆船	船舶	、、、、	圍障	門	工作物	雜屋建	倉庫建	建事務所	建物	敷地	
一〇〇坪		二〇〇隻	二〇一石	三隻	、、箇	五五間	二箇		一一〇〇坪			八七〇〇坪	二〇〇坪	
一、五〇〇		五〇〇	一、〇〇〇	一、五〇〇	一〇〇	七七〇	一五〇	九二〇	七〇〇	四、〇〇〇	七、五〇〇	一二、二〇〇円	二、〇四〇円	公用財産、雜種財産ノ記載方ハ本例ニ準ス但營林財産ニ付テハ口座名ヲ林區事業區名トシ雜種財産ニ付テハ口座名ヲ除クモノトス
〇〇〇		〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	
價額用材木給一一〇〇〇〇止本														

何縣・何番地	何々（臺帳口座名）	雜船	帆船	船舶	、、、、	圍障	門	工作物	雜屋建	倉庫建	建事務所	建物	敷地	備考
敷地		雜船	帆船	船舶	、、、、	圍障	門	工作物	雜屋建	倉庫建	建事務所	建物	敷地	
一〇〇坪		二〇〇隻	二〇一石	三隻	、、箇	五五間	二箇		一一〇〇坪			八七〇〇坪	二〇〇坪	
一、五〇〇		五〇〇	一、〇〇〇	一、五〇〇	一〇〇	七七〇	一五〇	九二〇	七〇〇	四、〇〇〇	七、五〇〇	一二、二〇〇円	二、〇四〇円	公用財産、雜種財産ノ記載方ハ本例ニ準ス但營林財産ニ付テハ口座名ヲ林區事業區名トシ雜種財産ニ付テハ口座名ヲ除クモノトス
〇〇〇		〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	
價額用材木給一一〇〇〇〇止本														

第二號樣式（國有財産現在額報告書）

何年何月何日現在內務省所管

國有財産現在額報告書

何（廳名）

備考

一 公用財産、營林財産及雜種財産每ニ別紙ニ調製スルモノトス

二 公用財産中神社ノ用ニ供スルモノ及雜種財産中公共團體ニ於テ直接公共ノ用ニ供スルモノハ各之ヲ區別シ臺帳ノ總括ニヨリテ記載スルモノトス尙神社ノ用ニ供スルモノハ區分種目欄ニ社格ヲ記載スヘシ

三 數量欄ニハ土地ハ坪、建物ハ右傍ニ建坪左傍ニ延坪、船舶ハ右傍ニ隻左傍ニ噸又ハ石ヲ立木竹ハ材積ニヨルモノハ木竹ノ區分ヲ示シ記載スルモノトス

四 同一區分ニ屬スルモノ一種目ニ止ル場合ニ於テハ區分種目欄ニハ其ノ區分ノ記入ヲ省略シ直ニ種目ヲ記載スヘシ（樣式土地ノ場合ノ如シ）

五 地上權、地役權、借地權其ノ他之ニ準スヘキ權利ハ土地ニ準シテ記載シ尙其ノ目的物ノ數量及價格ヲ備考欄ニ記入スルモノトス

六 土地ノ價格ニ立木竹ノ價格ヲ合算シタルモノニ付テハ其ノ數量及價格ヲ備考欄ニ記入スルモノトス

七 借地及營林財産中ノ部分林、保安林、保管林、委託林、官地民木林、官行造林等ニ付テハ其ノ數量ヲ備考欄ニ記入スルモノトス

八 公用財産、營林財産及雜種財産每ニ區分別（營林財産及雜種財産タル土地ニ付テハ種目別）ノ計ヲ附スルモノトス

（公用財産）

（用紙美濃十三行全罫）

管理廳名					
口座名					
所在	區分	種目	數量	價格	備考
何廳（部局名）					
何々（臺帳口座名）					
何縣、、、、何番地	敷地		三〇〇坪	一五、〇〇〇円〇〇〇	樹木五〇〇本 價格一、二〇〇圓
	建物		一三五 二〇五	三四、五五〇〇〇〇	
	事務所建		一〇〇〇 一五〇〇	二五、五〇〇〇〇〇	
	倉庫建		二〇〇 四〇〇	八、〇〇〇〇〇〇	
	雜屋建		一五 一五	一、〇五〇〇〇〇	
	工作物			二、五五〇〇〇〇	